

第三十二條 三時間ニ少クトモ一回五分以上停車セサル列車ニハ各客車ニ便所ノ備アルコトヲ要ス
第三十三條 旅客自ラ携帶シ得ル物品ニシテ坐席ヲ塞カス且ノ不潔、臭氣等ノ爲同乗者ニ迷惑ヲ及ホササルモノハ客車内ニ持込ムコトヲ得

前項ノ物品ニ對シテハ旅客自ラ保管ノ責ニ任スルモノトス

第三十四條 犬其ノ他ノ動物ハ客車内ニ携伴スルコトヲ得ス但シ特約ニ依リ車室ヲ専用スル場合ニ於テ鐵道係員ノ許諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 携帶制限ヲ越ユル火藥類及危險ヲ他ニ及ホスヘキ虞アル物品ハ客車内ニ持込ムコトヲ得ス

第三章 託送手荷物

第三十六條 旅客カ其ノ旅行ニ必要ナル物品ハ手荷物トシテ之ヲ託送スルコトヲ得但シ貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品及動物ハ此ノ限ニ在ラス

特種ノ鐵道又ハ列車ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ得テ手荷物ノ運送ヲ取扱ハサルコトヲ得

第三十七條 火藥類及危害ヲ他ニ及ホスヘキ虞アル物品、臭氣ヲ發シ若ハ不潔ナル物品及容積重量過大ナル物品ハ手荷物トシテ託送スルコトヲ得ス

第三十八條 鐵道ハ旅客一人ニ付少クトモ三十斤迄ノ手荷物ヲ無賃ニテ運送スルノ便ヲ與フヘシ

半賃金ニテ運送スル小兒ノ無賃手荷物斤量ハ前記斤量ノ半ヲ以テ制限トス
割引乗車券ヲ以テ乗車スル旅客ノ手荷物ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ得テ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十九條 斤量ニ依リ運賃ヲ定メサル特定物品ハ小荷物トシテ託送ノ手續ヲ爲スヘシ
前項ノ物品ニ付テハ鐵道ハ其ノ種類及運賃ヲ特定シテ監督官廳ノ認可ヲ得之ヲ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十條 託送手荷物ハ物品ノ散逸セサル様錠鎖緊束シ紛ラハシキ他ノ運送標記等ヲ附著スヘカラス

第四十一條 手荷物ヲ託送スル者ハ第十五條ニ規定スル乗車券賣出時間内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ但シ列車出發時刻ヨリ少クトモ五分前ニ之カ手續ヲ爲ササルトキハ次回ノ列車ヲ以テ運送セララルモ故障ヲ述フルコトヲ得ス

第四十二條 手荷物ヲ託送スル者ハ其ノ乗車券ヲ鐵道係員ニ呈示スヘシ

第四十三條 手荷物ノ託送ヲ受ケタルトキハ引換ノ符票ヲ交付シ之ト引換ニ引渡ヲ爲スモノトス

第四十四條 手荷物受取ノ際前條引換ノ符票ヲ所持セサルトキハ其ノ受取ルヘキ權利アルコトヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ之カ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十五條 託送手荷物ハ其ノ到達停車場ニ於テ之カ引渡ヲ爲スヘキモノトス但シ時間其ノ他取扱ニ差支ナキトキハ旅客ノ請求ニ應シ中間停車場ニ於テモ之カ引渡ヲ爲スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テハ旅客ハ豫メ鐵道係員ニ乗車券ヲ呈示シ引渡ノ請求ヲ爲スヘシ

第四十六條 第十九條及第二十條ノ場合ニ於テ旅客ヲ送還スルトキハ該旅客ノ託送セル手荷物ハ旅客ト共ニ之ヲ無賃送還スヘシ此ノ場合ニ於テ手荷物運賃ノ償還ハ旅客運賃ノ例ニ依ル

第四十七條 手荷物到達後二十四時間内ニ引取ヲサルトキハ保管料ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ保管料ハ監督官廳ノ認可ヲ得且運賃表ニ附記シテ停車場ニ掲示スルコトヲ要ス

第四十八條 鐵道ハ惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ旅客一人ニ對シ價
格百圓以内ニ限リ損害賠償ノ責ニ任スルモノトス

第四十九條 紛失手荷物ニ對シ賠償ヲ爲シタル後豫メ請求アリタル場合ニ於テハ其ノ手荷物ヲ發見シタ
ルトキ速ニ旅客ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ三十日以内ニ賠償金ヲ還付シ手荷物到達地又ハ託送地迄無料ニテ該手荷
物ノ送付返還ヲ請求スルコトヲ得

旅客カ本條ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ賠償金領收ノ際書面ヲ以テ之カ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 小荷物(小貨物)運送

第五十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル貨物ハ小荷物トシテ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ以テ運
送ノ便ヲ開クヘシ

第三十六條第二項ノ規定ハ小荷物ニ之ヲ準用ス

第五十一條 第三十九條ノ物品ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第五十二條 行商人及呼賣商人ノ携帶スル商品ハ其ノ請求ニ因リ小荷物トシテ旅客ト同一列車ヲ以テ運
送スヘシ

第五十三條 小荷物ヲ託送セムトスル者ハ列車出發時刻ヨリ少クトモ二十分前迄ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

但シ第五十一條及第五十二條ノ小荷物ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ準用ス

第五十四條 第三十七條、第四十條、第四十三條及第四十四條ノ規定ハ小荷物ノ運送ニ之ヲ準用ス

第五十五條 第四十二條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ハ第五十一條及第五十二條ノ小荷物ニ之ヲ
準用ス

第五十六條 小荷物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外第八章ノ規定ヲ準用ス

第五章 死體運送

第五十七條 死體ヲ託送セムトスル者ハ列車始發停車場ニ於テハ其ノ出發時刻ヨリ少クトモ六時間前迄
ニ、中間停車場ニ於テハ同時刻ヨリ少クトモ十二時間前迄ニ其ノ申込ヲ爲スヘシ

第五十八條 死體ハ堅固ナル棺槨ニ納メ密塞スヘシ

第五十九條 死體ヲ託送セムトスル者ハ死亡證書ヲ呈示シ且運送狀ニ其ノ寫ヲ添ヘ差出スヘシ

第六十條 死體ノ運送ニハ託送人ニ於テ附添人ヲ附スヘシ

第六十一條 死體ハ手荷物車又ハ有蓋貨車ヲ以テ運送スルモノトス但シ特約ニ因リ特別車ヲ用フル場合
ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 死體ハ他ノ荷物ト隔離搭載スヘシ

飲食物及其ノ原料等ハ死體ト同一車中ニ共載スルコトヲ得ス

第六十三條 死體搭載ノ車輛ハ託送人ノ請求アル場合ノ外旅客列車(混合列車亦同シ)ニ聯結スヘシ

死體ハ成ルヘク到達停車場迄直通スル列車ヲ以テ運送スヘシ又已ムヲ得サル場合ノ外運送中ニ之ヲ轉載

スルコトヲ得ス

第六十四條 死體ハ到達後速ニ之ヲ引取ルヘシ若シ六時間内ニ引取ラサルトキハ鐵道ハ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第六章 貴重品運送

第六十五條 金銀貨並貴金屬、紙幣、郵便切手、同葉書、印紙、有價證券、寶石等貴重品ノ運送ニ付請求スル増賃金ハ左ノ割合ヲ超過スヘカラス

- 一 二十五哩未満 價格金百圓ニ付(金百圓未滿亦同シ) 金 十 錢
- 一 二十五哩以上五十哩未満 同 金 十五 錢
- 一 五十哩以上百哩未満 同 金 二十 錢
- 一 百哩以上二百哩未満 同 金 二十五 錢
- 一 二百哩以上ハ二百哩ヲ増ス毎ニ 同 金 五 錢

前項ノ規定ニ準據シ増賃金ノ割合ヲ定ムルトキハ監督官廳ニ届出ツヘシ

第六十六條 前條ニ明記シタル品目ノ外貴重品目ヲ定ムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第六十七條 貴重品ハ嚴重ニ包裝封印シ列車出發時刻ヨリ少クトモ三十分前迄ニ託送ノ手續ヲ爲スヘシ貴重品託送者ハ運送狀ヲ差出スヘシ

増賃金ノ支拂ニ對シテハ受領書ヲ交付スヘシ

第六十八條 貴重品ノ運送ハ特ニ定メタル列車ニ限ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

第六十九條 貴重品ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第七十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル小動物ハ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ以テ運送ノ便ヲ開クヘシ

第七十一條 旅客ノ携帯スル小動物ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第七十二條 小動物ハ其ノ到達停車場ニ於テ即時ニ之ヲ引取ヲ爲スヘシ之ヲ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務トシ

第七十三條 旅客ノ携帯スル犬ヲ除ク外小動物ハ逸出ノ虞ナキ様籠、網若クハ箱等ニ納レ託送スヘシ

第七十四條 旅客列車(混合列車亦同シ)ニ依ル小動物ノ運送ニ付テハ前各條ニ定アル場合ヲ除ク外小動物運送ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十五條 鐵道ハ動物ノ運送ニ付添附人ヲ請求スルコトヲ得
附添人ノ乗車賃ハ下等旅客車運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ス
附添人ハ動物ヲ監視シ驛長ノ認諾ヲ受クルニ非サレハ他車ニ轉乘スルコトヲ得ス
附添人ハ藁、枯草等燃エ易キ物品アルトキハ喫煙具及發火シ易キ物品ヲ車中ニ携帯スルコトヲ得ス

第七十六條 猛獸ヲ託送セムトスル者ハ逸走其ノ他危害防止ノ爲充分ナル羈絆ヲ施スヘシ
 第七十七條 動物ヲ託送セムトスル者ハ豫メ其ノ申込ヲ爲シ列車出發時刻ヨリ少クトモ一時間前迄ニ之ヲ停車場ニ送致スヘシ
 鐵道カ動物送列車ヲ定メテ公告シタルトキハ託送人ハ前項ノ申込ヲ爲スコトヲ要セス
 第七十八條 動物ノ積卸ハ鐵道ノ請求アルトキハ託送人、受取人ニ於テ之ヲ擔當シ且之ニ要スル材料ヲ準備スヘシ

第七十九條 小動物ノ外動物ハ到達ノ通知ヲ受ケタル後速ニ之カ引取ヲ爲スヘシ之カ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ

第八十條 託送ノ際價格ヲ明告シ鐵道ノ請求ニ因リ増賃金ヲ支拂ヒタル場合ノ外鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル獸類ノ紛失損傷ニ付テハ左ニ掲クル金額以内ニ限り賠償ヲ請求スルコトヲ得

- 一 馬 一頭ニ付 金七十圓
- 一 乳牛 同 金百圓
- 一 牛 同 金三十圓
- 一 犢 同 金三十圓
- 一 羊 同 金十圓
- 一 豚 同 金五圓
- 一 山羊 同 金十圓

一 其ノ他獸類 同 金五圓

第八十一條 託送ノ際明告セラレタル價格前條制限額ヲ超ユルトキハ鐵道ハ其ノ超過額ニ對シ左ニ掲クル割合以内ニ於テ増賃金ヲ請求スルコトヲ得

- 一 五十哩未滿 價格金十圓ニ付(金十圓未滿) 金十錢
- 一 五十哩以上百哩未滿 同 金十五錢
- 一 百哩以上二百哩未滿 同 金二十錢
- 一 二百哩以上ハ二百哩ヲ増ス毎ニ 同 金五錢

前項ノ規定ニ準據シ増賃金ヲ定ムルトキハ監督官廳ニ届出ツヘシ
 増賃金ハ停車場中見易キ場所ニ揭示スルコトヲ要ス

第八十二條 動物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第八章 大荷物(大貨物)運送
 第八十三條 鐵道カ直ニ運送ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テ特約ヲ以テ發送迄保管ノ爲貨物ノ引渡ヲ受ケタルトキハ運送狀ニ特約ノ條件ヲ明記スルコトヲ要ス

荷送人ハ鐵道ノ承諾ヲ得テ停車場其ノ他ノ鐵道地内ニ自己ノ責任ヲ以テ發送迄一時貨物ヲ留置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鐵道ハ相當ノ留置料ヲ請求スルコトヲ得

第八十四條 貨物ヲ託送セムトスル者ハ貨物取扱時間内ニ運送狀ヲ添ヘ其ノ手續ヲ爲スヘシ
 第八十五條 運送狀ニハ左ノ事項ヲ掲クルコトヲ要ス

- 一 運送狀作成ノ地及年月日
 - 二 發送停車場ノ名稱
 - 三 到達停車場及所屬鐵道名
 - 四 届先、荷受人ノ氏名又ハ商號及住所
 - 五 貨物ノ品名、重量又ハ容積及其ノ荷造ノ種類、箇數並記號
 - 六 價格ヲ明告スヘキトキハ其ノ價格
 - 七 運送便ノ種類
 - 八 運賃ノ支拂方法
 - 九 貨物引換證請求ノ有無
 - 十 特約ノ條件アルトキハ其ノ事項
 - 十一 荷送人ノ氏名又ハ商號及住所
- 第八十五條ノ二 運送狀ニ記載シタル貨物ノ品名、重量、容積又ハ箇數ニ基キ計算シタル運賃力正當運賃ニ不足スル場合ニハ鐵道ハ不足額ノ外其ノ十倍以内ノ增運賃ヲ請求スルコトヲ得
- 荷送人カ火藥類其ノ他危害ヲ他ニ及ホスヘキ虞アル物品ヲ他ノ品名ニ依リ託送シタルトキハ前項ノ規定ニ依ルノ外道道ハ其ノ實斤量ニ對シ一斤ニ付三圓以内ノ增運賃ヲ請求スルコトヲ得
- 前二項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス
- 第八十六條 鐵道ハ運送狀ノ式紙ヲ停車場ニ備置キ荷送人ノ使用ニ供スヘシ

- 第八十七條 託送ノ際荷送人ノ請求アルトキハ鐵道ハ運送狀ノ謄本ヲ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ金五錢以内ノ手数料ヲ請求スルコトヲ得
- 第八十八條 鐵道ハ貨物ノ運送ヲ引受ケタルトキハ運送狀ニ其ノ受付番號ヲ記入スヘシ
- 第八十九條 貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ掲ケルコトヲ要ス
- 一 貨物引換證作成ノ地及年月日
 - 二 第八十五條第二號乃至第八號第十號及第十一號ニ掲ケタル事項
 - 三 第八十八條ノ受付番號
 - 四 運賃、增賃金、料金ノ額及其ノ受否
- 第九十條 荷送人ハ貨物ノ性質ニ依リ運送中ノ減量又ハ毀損ヲ防クニ必要ナル送造ヲ爲スヘシ且成貨物ニハ各箇ニ箇數記號、宛名等ヲ明瞭ニ其ノ外面ニ標記シ他物ト取違ハサル様注意ヲ爲スヘシ且成ルヘク到達停車場名ヲ附記スヘシ
- 第九十一條 貨主カ貨物ノ積卸ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ鐵道ハ積卸時間ヲ定メ貨主ニ其ノ通知ヲ發スヘシ
- 鐵道ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ前項ノ通知ヲ發スルコト能ハサルトキハ當該停車場ノ揭示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 貨主カ第一項ノ時間内ニ積卸ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル貨車留置料ヲ請求シ又ハ荷受人ノ費用ヲ以テ貨物ノ荷卸ヲ爲スコトヲ得

第九十二條 貨切貨車積貨物及一箇ノ長二十尺、重量五百斤又ハ容積四十立方尺ヲ超ユル貨物ノ積卸ハ貨主ノ負擔トス

第九十三條 貨主カ積卸ヲ負擔スル場合ニ於テ鐵道所屬ノ器具ヲ使用スルトキハ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル料金ヲ請求スルコトヲ得

第九十四條 貨物ノ運賃其ノ他運送ノ爲受クル料金ハ鐵道ノ認諾アルトキノ外貨物託送ノ際ニ之ヲ支拂フヘシ

運賃金額ヲ確定スルコトヲ得サルトキハ鐵道ハ概算拂ヲ請求スルコトヲ得

第九十五條 錠鎖保護ヲ要シ又ハ雨浸ヲ避クルノ必要アルモノ若ハ火氣ニ感シ易キ物品ハ有蓋貨車ニ搭載スヘシ但シ特約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十六條 鐵道ハ無蓋貨車用ノ覆布及網ヲ準備スヘキモノトス其ノ使用ニ對シ料金ヲ請求スルコトヲ得但シ貨車貸切ノ場合ニ於テ特約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 貨物カ到達停車場ニ到達シタルトキハ鐵道ハ遲滞ナク引取時間ヲ定メテ到達ノ通知ヲ發スヘシ但シ配達ヲ爲スヘキ貨物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十一條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十八條 荷受人カ前條ノ引取時間内ニ貨物ノ引渡ニ應セサルトキハ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル貨物保管料ヲ請求スルコトヲ得

荷受人カ貨物ノ引渡ヲ受ケタル後其ノ引取ヲ爲サ、ルトキハ鐵道ハ貨物留置料ヲ請求スルコトヲ得但

シ引取時間内ハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條 貨物ノ滅失又ハ毀損アリタルトキハ鐵道ハ速ニ調査ヲ遂ケ之ヲ書面ニ具シ荷送人及荷受人ニ通知スヘシ

第一百條 貨物引換證ヲ交付シタル場合ニ於テ該證ノ紛失等ニ因リ之ト引換ニ貨物ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得サルトキハ鐵道ハ引渡請求人ニ於テ其ノ權利ヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルトキニ限り貨物引渡ノ義務アルモノトス

第一百一條 貨物引渡ノ際重量ノ検査若ハ貨物ノ状態ニ付證明ヲ請求セラレタルトキハ鐵道ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第一百二條 第十九條ノ規定ハ貨物ノ運送ニ之ヲ準用ス

附 則

第一百三條 本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治三十三年十月一日ヨリ施行ス)

第一百四條 鐵道ハ外國鐵道ト連絡運輸ヲ爲ス場合ニ於テハ本規程ニ依ラサルコトヲ得但シ私設鐵道ニ在リテハ監督官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

◎傳染病患者鐵道乘車規程(明治三十三年八月十日遞信省令第三八號)

- 第一條 傳染病患者ヲ乗車セシメントスルトキハ豫メ之カ申込ヲ爲シ鐵道ノ承認ヲ受ケルコトヲ要ス
- 第二條 前條ノ申込ヲ受ケタルトキハ鐵道ハ列車ヲ指定シ其ノ他運送上旅客及公衆ノ安全ヲ保スルニ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得
- 第三條 傳染病患者ハ傳染病豫防法第九條ニ依リ當該吏員ヨリ移送認可ヲ得タルコトヲ證明スルニ非サレハ乗車セシムルコトヲ得ス
- 第四條 傳染病患者ニハ少クトモ一人ノ附添人ヲ附スルコトヲ要ス
鐵道ノ請求アルトキハ前項附添人ノ外醫師ヲ附スルコトヲ要ス
- 第五條 傳染病患者ハ貨切車ヲ以テ運送シ普通旅客ト其ノ車輛ヲ區別シ當該掛員ノ外一切之カ交通ヲ遮斷スヘシ
- 第六條 傳染病患者ハ傳染病豫防法第九條ニ依リ移送ノ認可ヲ受ケタル地ノ外猥リニ下車セシムルコトヲ得ス
- 第七條 傳染病患者ヲ搭載セル車輛ハ其ノ入口ニ「傳染病者」ノ四字ヲ揭示スヘシ
- 第八條 傳染病患者車中ニ於テ死亡シタルトキハ警察官又ハ其ノ他ノ當該吏員ニ之ヲ申報スヘシ
- 第九條 乗車中傳染病ニ罹リタルモノアルトキハ速ニ警察官又ハ其ノ他ノ當該吏員ニ之ヲ申報スヘシ
- 第十條 車輛、器具ノ消毒其ノ他傳染病豫防ニ關スル取締ハ一般法令ノ規定ニ依ル

附 則

第十一條 本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治三十三年十月一日ヨリ施行)

◎火藥類鐵道運送規程(大正四年十月八日閣令第一號)

第一條 鐵道ニ依リ火藥類ヲ運送スル場合ハ本規程ニ依ル

本規程ニ於テ火藥類トハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ニ規定スルモノヲ謂フ

第二條 火藥類ノ荷送人ハ少クトモ三十六時間前ニ發送停車場ニ託送ヲ申込ミ其ノ承諾ヲ求ムヘシ

第三條 火藥類ノ荷送人カ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受クヘキ

場合ニ於テハ鐵道係員ハ其ノ許可證ヲ檢閲スヘシ

第四條 火藥類ハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ容器ニ收納スヘシ但シ軍衙ノ託送ニ係ルモ

ノハ當該軍衙所定ノ容器ニ收納スルコトヲ得

火藥類ハ其ノ容器又ハ包裝ノ外部見易キ所ニ火藥、爆藥、若ハ火工品ト朱記シ又ハ朱記シタル標札ヲ

附シ且轉輾セシムヘガラサルモノニ在リテハ其ノ旨ヲ明記スヘシ

第五條 火藥類ノ受授ハ貨物掛又ハ驛長ノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

火藥類搬入ノ日時、場所及方法ニ關シテハ前項ノ係員ノ指示ニ從フヘシ其ノ搬出ノ日時及方法ニ付亦

同シ

第六條 一車以上ノ火藥類ノ運送ヲ引受ケタルトキハ鐵道ハ荷送人ニ對シ附添人ヲ要求スルコトヲ得

附添人ハ火藥類積載ノ貨車ニ乗込ムコトヲ得ス

附添人ノ乘車賃ハ三等旅客運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條 火藥類ハ木製有蓋貨車ヲ以テ運送スヘシ但シ貨車ノ内部ニ鐵釘鐵具等ノ突起シタルモノアルト

キハ木板、革、布又ハ藁ノ類ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第八條 銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スヘキ火藥類ハ之ヲ同

一車中ニ積載スルコトヲ得ス但シ火藥類ヲ裝填セサル雷管附又ハ爆管藥莖ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 火藥類積載ノ重量ハ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

第十條 火藥類ハ之ヲ他ノ貨物ト同一車中ニ混載スルコトヲ得ス但シ銃砲用實包、銃用空包、火藥類ヲ

裝填セサル雷管附若ハ爆管附藥莖、雷管(工業用雷管ヲ除ク)、信管、爆管、門管、緩燃導火線、濕藥

(箱内ノ火藥又ハ爆藥ヲ爆發ノ危險ナキニ至ル迄十分濕)、芳香系列ノ硝化物若ハ之ヲ主トスル混和物

潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕藥ト明記シタルモノ、

ニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ、硝酸アンモニアル又ハ過鹽素酸アンモニアルヲ主トスル爆藥中「ナイト

ロカリセリン」若ハ純硝酸纖維素ヲ含有セサルモノニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ、煙火、信號焰管

星火ヲ發スル榴彈(十二箇以下ヲ木製容器ニ收納シ摩擦動搖又ハ衝突ヲ豫防)、火箭(六箇以下ヲ木製容

動搖又ハ衝突ヲ豫防シ得ル様各箇ノ間)又ハ五十斤以下ノ火藥若ハ十斤以下ノ爆藥(起爆劑ヲ除ク)ニシテ左

ニ麻屑、紙屑ノ類ヲ填充シタルモノ)ノ條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 容器又ハ包裝ヲ安全堅牢ナラシメ且其ノ外部見易キ所ニ品名ヲ明記シタルトキ

二 他ノ貨物カ容易ニ燃燒シ又ハ爆發ノ誘因トナルヘキ虞ナキモノナルトキ

三 火藥類及混載貨物ノ重量ヲ合シテ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過セサルトキ

第十一條 前條ノ規定ニ依リ火藥類ヲ他ノ貨物ト混載シタルトキハ他ノ貨物ト相當間隔ヲ保タシメ又ハ

墜落ノ虞ナキ箇所ニ於テ他ノ貨物ノ上積ト爲スヘシ

第十二條 火藥類ハ摩擦、動搖、衝突又ハ轉輾セサル様緊密ニ積載スヘシ

第十三條 火藥類ノ積卸等ヲ爲ストキハ手鈎類ヲ用キ若ハ投下スルコトヲ得ス又衝動ヲ豫防シ得ル様革

麻布若ハ毛布ノ類ヲ以テ其ノ經過スヘキ場所ヲ覆ヒタルトキノ外之ヲ轉輾スルコトヲ得ス

火藥類ノ積卸ヲ爲ス場所又ハ火藥類積載ノ貨車内ニ於テハ安全燈以外燈火ヲ使用シ、燐寸其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帶シ又ハ喫煙スルコトヲ得ス

火藥類ヲ取扱フ者ハ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿ツコトヲ得ス

火藥類ノ積卸ヲ爲スニ當リテハ仕業ノ前後其ノ場所及車内ヲ清掃スヘシ

第十四條 火藥類ノ積卸ハ第十條但書ニ掲ケタル火藥類ヲ除クノ外旅客乘降場ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ヲ搭載シタル客車ノ場内ニ在ラサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 火藥類ハ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號ノ規定ニ該當スルモノヲ除クノ外日出前及日没後ニ於テ受授、積卸、荷造又ハ荷解ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 火藥類積載貨車ノ兩側面ニハ見易キ位置ニ白地ニ火藥ト朱記シタル標札ヲ附スヘシ

第十七條 火藥類積載貨車ノ前後ニハ各二輛以上ノ空車ヲ聯結スヘシ但シ不燃質物ヲ積載シタル無蓋列

車又ハ發火ノ虞ナク且燃燒シ易カラサル貨物ヲ積載シタル有蓋貨車ヲ以テ空車ニ代フルコトヲ得前項ノ適用ニ付テハ「ボギー」車一輛ハ之ヲ二輛ト看做ス

第一項ノ規定ハ第十條但書ノ火藥類ノ積載貨車ニ之ヲ適用セス

第十八條 火藥類積載ノ貨車ハ七輛以下ニ限リ他貨物積載ノ貨車ト同一列車ニ之ヲ聯結スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十九條 火藥類積載ノ貨車ハ旅客列車又ハ混合列車ニ之ヲ聯結スルコトヲ得ス但シ鐵道ノ自用ニ供スル信號用雷管及第十條但書ニ掲ケタル火藥類ノ積載貨車並之ト他ノ貨物トヲ混載シタル貨車ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 火藥類積載ノ貨車ニ在リテハ制動機ヲ使用スルコトヲ得ス但シ車側制動機ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 火藥類ハ成ルヘク到達停車場迄直通スル列車ヲ以テ運送スヘシ且ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外運送中ノ他ノ貨車ニ積替フルコトヲ得ス

第二十二條 火藥類ヲ運送スル列車停車スルトキハ特ニ車輛ノ點檢ヲ嚴ニシ危險アリト認ムルトキハ即時ニ該車輛ヲ解放シテ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ

列車運轉中車軸發熱ノ徵候ヲ發見シタルトキハ其ノ進行ヲ停メテ之ヲ冷却シ又ハ危險ナキ程度ニ於テ徐行シ次ノ停車場ニ到リ前項ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十三條 火藥類ヲ運送スル列車二時間以上停車ヲ要スルトキハ成ルヘク隔離シタル線路ニ火藥類ヲ積載シタル貨車ヲ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ前條ノ規定ニ依リ車輛ヲ解放シタル場合亦同シ

第二十四條 火藥類積載ノ貨車到達停車場ニ著シタルトキハ直ニ之ヲ荷受人ニ通知スヘシ

荷受人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク火藥類ヲ停車場外ニ搬出スヘシ

荷受人カ火藥類積載ノ貨車到着後二時間内ニ火藥類ヲ搬出セサルトキハ鐵道ハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十五條 旅客ハ火藥類ヲ携帶シテ乗車スルコトヲ得ス但シ少量ノ銃用火藥類及緩燃導火線ヲ携帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本令ハ大正四年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

◎荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル鐵道運送品等ノ

公告ニ關スル件(明治四十三年五月十日改(大正八年七月一日閣令第一一號)正(閣令第八號))

第一條 鐵道營業法第十三條ノ二ノ規定ニ依リ荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル運送品ニ付爲ス公告ハ運送品ノ名稱種類箇數記號、發送停車場到達停車場保管停車場ノ名稱及託送到達ノ日時等成ルヘク其ノ運送品ヲ知得スルニ足ルヘシト思料スル事項竝公告後六月内ニ其ノ權利者ノ申出ナキトキハ

鐵道ニ於テ其ノ所有權ヲ取得スヘキ旨ヲ記シ之ヲ官報ニ掲載スルモノトス

第二條 鐵道ハ荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル運送品ナルコトヲ知りタルトキハ遲滯ナク其ノ鐵道ノ各停車場ニ備付ケタル帳簿ニ前條ト同一事項ヲ記入シ其ノ所有權ヲ取得スルニ至ル迄公衆ノ閱覽ニ供スルコトヲ要ス

第三條 前二條ノ規定ハ鐵道營業法第十三條ノ二ニ規定スル託送手荷物及一時預リ品ニ之ヲ準用ス

鐵道抵當法

(明治三十八年三月十日)改(大正八年四月三日法律第五三號)正(法律第五六號)

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ會社ト稱スルハ地方鐵道株式會社ヲ謂フ

第二條 會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鐵道ノ全部又ハ一部ニ付鐵道財團ヲ設クルコトヲ得

鐵道財團ニ屬スルモノハ同時ニ他ノ鐵道財團ニ屬スルコトヲ得ス

鐵道財團ハ之ヲ一箇ノ物ト見做ス

鐵道財團ハ抵當權ノ消滅ニ因リテ消滅ス

第三條 鐵道財團ハ左ニ掲クルモノニシテ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一 鐵道線路、其ノ他ノ鐵道用地及其ノ上ニ存スル工作物並之ニ屬スル器具機械

二 工場、倉庫、發電所、變壓所、配電所、事務所、舍宅其ノ他工事又ハ運輸ニ要スル建物及其ノ敷

地並之ニ屬スル器具機械

三 用水ニ關スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械

四 鐵道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械

五 前四號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上ニ存スル地上權、登記シタル

賃借權及前四號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ存スル地役權

六 車輛及之ニ屬スル器具機械

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a notice dated 1913.]

七 保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及器具機械
 會社カ鐵道ニ要スル電氣ノ餘力ヲ以テ電氣供給ノ業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ供給ノ爲要スル第二號乃至第五號及第七號ニ掲ケタルモノニシテ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノハ之ヲ鐵道財團ニ屬セシムルコトヲ得

第四條 鐵道財團ハ所有權及抵當權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス
 鐵道財團ニ屬スルモノハ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス
 鐵道財團ニ屬スヘキモノニシテ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルトキ又ハ鐵道財團ニ關スル權利ニ付其ノ登記ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後定款變更ト同一方法ノ決議ヲ經監督官廳ノ認可ヲ受クルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第六條 鐵道財團ヲ抵當ト爲ス債務ノ額ハ社債ノ額ト合セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債價還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス

第七條 抵當權設定ノ認可ヲ申請スルニハ抵當證書及鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ但シ擔保附社債ヲ發行スル場合ニ在リテハ信託證書ヲ以テ抵當證書ニ代フ

一 鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

二 抵當權者、債務者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

三 抵當權ノ順位

四 債權額及償還ノ方法並期限

五 利率及利息支拂ノ方法並期限

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生スヘキ契約ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八條 抵當權ノ設定認可ノ申請アリタルトキハ監督官廳ハ直ニ官報ヲ以テ鐵道財團ニ屬スモノニ關シ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間内ニ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ但シ其ノ期間ハ一箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第九條 前條第二項ニ依ル公告ヲ爲シタルトキ又ハ抵當權ノ設定認可ノ申請ヲ爲シタルトキハ鐵道財團會社カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ

第十條 第八條ノ公告アリタル後ハ同條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ハサル間、抵當權ノ設定認可ノ申請力却下セラレサル間及其ノ認可カ效力ヲ失ハサル間ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動産ニ關スル權利ニ付競落ヲ許ス決定ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ動産ニ對スル競賣ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 抵當權設定ノ認可アリタルトキハ其ノ鐵道ニ關スルモノニシテ第三條第一項ニ掲ケタルモノ

ハ當然鐵道財團ニ屬ス其ノ抵當權設定後新ニ鐵道財團ノ所有者ニ屬シタルモノ亦同シ

前項ノ規定ハ第三條第二項ニ依リテ鐵道財團ニ屬セシメタルモノニ之ヲ準用ス

前二項ニ掲ケタルモノニ關シ第四條第三項ノ權利アルトキハ不動産ニ關スルモノノ登記ハ其ノ效力ヲ失ヒ動産ニ關スルモノハ存セサルモノト看做シ差押、假差押若ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ抵當權

設定ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ鐵道財團

ノ所有者ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第八條ノ公告アリタルモノニ付期間内ニ申出ヲ爲

ササル權利者並期間經過後ニ於テ登記ノ申請ヲ爲シタル者、動産ニ關シ所有權以外ノ物權ヲ取得シタル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ヲ爲シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 第八條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ヒタルトキ、抵當權ノ設定カ認可セラレサルトキ又ハ其

認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ監督官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第十三條 抵當權設定ノ認可アリタル後二箇月内ニ其ノ登録ノ申請ナキトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十四條 抵當權ハ債權成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第十五條 抵當權ノ得喪若ハ變更又ハ鐵道財團ノ所有權ノ移轉ハ登録ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者

ニ對抗スルコトヲ得ス

第十六條 數箇ノ債權ヲ擔保スル爲同一ノ鐵道財團ニ付抵當權ヲ設定シタルトキハ其ノ抵當權ノ順位ハ登録ノ前後ニ依ル

第十七條 抵當權者ハ鐵道財團ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第十八條 抵當權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クル迄ハ鐵道財團ノ全部ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十九條 抵當權ハ鐵道財團又ハ之ニ屬スルモノノ讓渡、貸付、滅失又ハ毀損ニ因リテ會社カ受クヘキ

金錢其ノ他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ抵當權者ハ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ

要ス

第二十條 會社カ鐵道財團ヲ讓渡シ、貸付シ若ハ抵當ト爲シ、鐵道財團ニ關スル營業ノ管理委託ヲ爲シ

其ノ線路ヲ變更シ又ハ其ノ線路ノ全部若ハ一部ニ付營業ヲ休止セムトスルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スル

モノヲ處分セムトスルトキハ抵當權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ

但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

抵當權者カ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ監督官廳ノ裁定ヲ求ムヘシ此ノ裁定ハ終局ト

ス

抵當權者カ外國ニ住所ヲ有スル場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ四箇月ヲ下ルコトヲ得ス

本條ノ規定ハ抵當權者カ豫メ同意ヲ與ヘタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 會社カ鐵道財團ニ關スル工事方法ノ變更ニ付認可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ變更カ鐵道

財團ノ價額ヲ著シク減スヘキ虞アリト認ムルトキハ監督官廳ハ會社ヲシテ抵當權者ニ對シ異議アラハ

之ヲ述フヘキ旨ヲ催告セシムヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 免許ノ失効又ハ取消ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ免許ノ失効又ハ取消ノ日ヨリ六箇月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

免許ハ前項ノ期間及抵當權實行ノ終了ニ至ル迄仍存續スルモノト看做ス

第二十三條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其ノ代價ヲ配當スヘキトキハ其ノ各鐵道財團ノ價額ニ準シテ其ノ債權ノ負擔ヲ分ツ

或鐵道財團ノ代價ノミヲ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其ノ代價ニ付債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ鐵道財團ニ付辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ツル迄之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第二十四條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其ノ抵當權ノ登録ニ其ノ代位ヲ附記スルコトヲ得

第二十五條 抵當權者ハ鐵道財團ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ鐵道財團ノ代價ニ先チテ他ノ財産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但シ他ノ債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムルカ爲之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スル

コトヲ得

第二十六條 政府カ鐵道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テ抵當權設定後二十箇年又ハ据置年限ヲ經過シタルトキハ抵當附債務ヲ辨濟スルコトヲ得但シ少クトモ一箇年前ニ豫告スヘシ

第二十六條ノ二 株式會社ニ非サル地方鐵道業者ノ鐵道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二章 登録

第二十七條 鐵道財團ニ關スル登録ヲ爲ス爲監督官廳ニ鐵道抵當原簿ヲ備フ

鐵道抵當原簿ハ一箇ノ鐵道財團ニ付一用紙ヲ設ケ

第二十八條 登録ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十九條 抵當權設定ノ登録申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

一 抵當權ノ設定ニ關スル證書

二 鐵道財團目錄

當事者ハ抵當權設定認可ノ申請書ニ添附シタル鐵道財團目錄ヲ前項第二號ノ書面トシテ引用スルコトヲ得

第一項第二號ノ書面ハ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ登録申請書ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十條 抵當權設定ノ登録ハ鐵道抵當原簿ニ左ノ事項ヲ記載スルニ依リテ之ヲ爲ス

一 第七條第二項第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項

二 免許ニ附シタル條件

- 三 抵當權ヲ設定シタルコト
 - 四 抵當權設定認可ノ年月日
 - 五 登録ノ年月日
- 第七條第二項第一號及前項第二號ニ掲ケタル事項ハ第二以下ノ順位ノ抵當權ニ付テハ之ヲ登録スルコトヲ要セス

第三十一條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ當事者ハ遲滞ナク變更又ハ消滅ノ登録ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ之ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
變更又ハ消滅力監督官廳ノ命令又ハ認可ニ因リテ生シタル場合ニ於テハ前項ノ證明書ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十二條 同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テハ其ノ各鐵道財團ノ用紙ニ他ノ鐵道財團ヲ表示シ之ト共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

他ノ鐵道財團ニ關スル變更又ハ消滅ノ登録カ前項ノ記載ヲ變更スルコトヲ要スルニ至リタルトキハ其ノ記載ニ變更ヲ附記シ他ノ鐵道財團ニ關スル消滅ノ登録カ前項ノ記載ヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ記載ヲ抹消スヘシ

第三十三條 鐵道抵當原簿ニ抵當權ノ設定ヲ登録シタルトキハ鐵道財團目錄ニ爲シタル記載ハ登録ト同一ノ效力ヲ生ス

第三十四條 鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ會社ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ヘシ

前項ノ届書ハ鐵道財團目錄ニ編綴スルニ依リテ前條ノ效力ヲ生ス

第三十五條 一用紙ノ抵當權ノ登録カ全部抹消セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ直ニ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ但シ第二號ノ場合ニ於テハ新ナル管轄登記所ニノミ通知スヘシ

- 一 第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登録シタルトキ
- 二 不動産ニ關スル權利カ新ニ鐵道財團ニ屬シタルトキ
- 三 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキ

前項第一號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第三十七條 登記官吏カ前條第一號又ハ第二號ノ通知ヲ受ケタルトキハ第三號ノ通知ヲ受ケル迄ハ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノニ付所有權以外ノ物權、賃借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス但シ所有權以外ノ物權、賃借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノカ監督官廳ノ證明書ニ依リ鐵道財團ニ屬セサルコト明白ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 何人ト雖鐵道抵當原簿及鐵道財團目錄ノ閱覽ヲ請求シ又ハ手数料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第三十九條 鐵道抵當原簿ノ調製、鐵道團財目錄ノ様式其ノ他登錄ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

第三章 強制競賣及強制管理

第四十條 鐵道財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ハ強制競賣又ハ強制管理ニ依リテ之ヲ爲ス
抵當權者ハ自己ノ選擇ニ依リ前項ニ揚ケタル一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載シタル事項ヲ變更スル契約證書ハ強制執行ニ關シテハ公證人ノ作成シタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ監督官廳ノ官吏之ヲ付與ス

第四十二條 強制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第四十三條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之ニ署名捺印スヘシ

- 一 債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地
- 二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
- 三 競賣ノ原因タル事由
- 四 年月日
- 五 裁判所

申立書ニハ執行力アル正本ノ外鐵道抵當原簿謄本ヲ添附スヘシ但シ強制管理ノ開始アリタル場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セス

第四十四條 強制競賣ノ申立ハ競落期日迄ハ競買人ノ同意アル場合ニ限り之ヲ取下クルコトヲ得

第四十五條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第四十三條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ掲載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スヘシ

第四十六條 裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登錄ヲ爲スヘキ旨ヲ監督官廳ニ囑託スヘシ

監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ直ニ登錄ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第四十七條 裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ租稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間内ニ鐵道財團ノ所有者ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ

第四十八條 裁判所ハ監督官廳ノ意見ヲ聽キ鑑定人ヲ選定シ競賣ニ付スヘキ鐵道財團ヲ評價セシメ其ノ評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲スヘシ

第四十九條 裁判所ハ競賣期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

- 前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
 - 二 競賣期日ノ場所、日時及入札締切ノ時
 - 三 最低競賣價額

四 競落期日ノ場所及日時

五 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所

第五十條 (削除)

第五十一條 鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競買價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

前項ノ規定ハ競買人ニシテ抵當權者カ之ニ加ハルモノニ付テハ其ノ債權額カ最低競賣價額ノ百分ノ五以上ニ相當スル場合ニ限り之ヲ適用セス

第五十二條 競買ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ

第五十三條 裁判所ハ競買人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封スヘシ

競落ト爲ルヘキ同價額ノ入札二箇以上アルトキハ裁判所ハ同價額ノ競買人ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ仍同價額ノ入札アルトキハ裁判所ハ直ニ抽籤ヲ以テ最高價競買人ヲ定ムヘシ

第五十四條 (削除)

第五十五條 競賣期日ニ於テ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ最低競賣價額ヲ低減スルコトヲ得

第五十六條 入札ハ之ヲ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス

入札ハ其ノ入札ヲ爲シタル競買人以外ノ者ニ競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキ、競落ヲ許ササル決定カ確定シタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第五十七條 裁判所ハ最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額ヲ表示シ競賣ノ終局ヲ告知スヘシ

第五十八條 裁判所ハ競賣ニ關スル調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 競賣ニ付セラレタル鐵道財團ノ表示

二 競賣申立人ノ表示

三 入札及開札ノ日時

四 總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキコト、許スヘキ入札ナキコト若ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキコト並第五十三條第二項又ハ第三項ノ手續ヲ爲シタルコト

五 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時並最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額

第五十九條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及競買人ニ競落ノ許可ニ付陳述ヲ爲サシムヘシ

第六十條 強制競賣申立ノ取下若ハ強制執行ノ取消アリタル場合又ハ第四十八條乃至第五十三條若ハ第五十七條ノ規定ニ違反シテ競賣ヲ爲シタル場合ニ限り債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者又ハ競買人ハ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキトキハ職權ヲ以テ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ノ許否ハ決定ヲ以テ之ヲ言渡スヘシ

第六十二條 競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ第六十條ニ掲ケタル理由アル場合ニ限り競落ヲ許ス決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落期日ニ出頭シ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲ササル者ハ競落ヲ許ササル理由ナキ場合ニ限り競落ヲ許ササル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十三條 裁判所ハ競落ニ關スル調書ヲ作成スヘシ

第六十四條 競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ監督官廳ニ送付スヘシ

第六十五條 競落代金ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日又ハ第七十三條ノ許可ヲ受ケルコトヲ要スル者ニ在リテハ其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ之ヲ裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第六十六條 競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鐵道財團ニ關スル權利ハ競落人ニ、競落人カ會社ノ發起人ナルトキハ其ノ競落人ニ依リテ發起セラレタル會社ニ移轉ス

抵當權ハ前項ニ依リ鐵道財團ニ關スル權利カ移轉シタルトキニ消滅ス

第六十七條 第七十三條ノ許可ヲ受ケサルトキ、第七十三條ノ期間内ニ許可ノ申請ナキトキ又ハ第六十五條ノ期間内ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ競落ヲ許ス決定ヲ取消シ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競落ヲ許ス決定カ取消サレタルトキハ許可ハ取消サレタルモノトス

競落人ハ新競賣ニ加入スルコトヲ得ス且新競賣ニ於ケル競落代金カ最初ノ競落代金ヨリ少ナキトキハ其ノ不足額及手續ノ費用ヲ賠償スヘシ

第六十八條 裁判所ハ競落代金ノ中ヨリ順次ニ競賣ノ費用及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ハ抵當權ノ順位ニ從ヒ之ヲ抵當權者ニ配當シ仍殘餘アルトキハ之ヲ鐵道財團ノ所有者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ通知シ競賣申立ノ登録ノ抹消ヲ囑託スヘシ

監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登録及抵當權ノ登録ヲ抹消スルコト

二 競落ヲ許ス決定アリタルコトヲ管轄登記所ニ通知シ競落人又ハ競落人ニ依リテ發起セラレタル會社カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ登記並第十一條第二項ニ依リ效力ヲ失ヒタル登記ノ抹消ヲ囑託スルコト

第六十九條 競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ通知シ競賣申立ノ登録ノ抹消ヲ囑託スヘシ

監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登録ヲ抹消スヘシ

第七十條 裁判所ハ二回以上競賣期日ヲ開始シタルモ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ抵當權者ノ同意アル場合ニ限り競賣ニ付シタル鐵道財團ヲ箇箇ノモノトシテ競賣ニ付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ抵當權者ノ意見ヲ聽キ鐵道財團ニ屬スルモノヲ分割シテ競賣ニ付スルコトヲ得

第七十一條 前條ノ競賣ニ關シテハ第四十八條、第四十九條、第五十二條乃至第六十六條、第六十七條第一項、第三項、第六十八條及第六十九條ノ規定ヲ準用ス

競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

第七十二條 (削除)

第七十三條 競落人カ政府ニ非サル場合ニ於テハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月内ニ許可ヲ申請スヘシ

第七十四條 競落人カ會社ノ發起人ナルトキハ前條ノ許可ノ申請ニハ定款及會社ノ設立登記謄本ヲ添付スヘシ

第七十五條 (削除)

第七十六條 監督官廳ハ第七十三條及第七十四條ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ許可スヘシ

第七十七條 第七十三條ノ許可ハ競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社カ競落代金ヲ支拂ヒタルトキニ其ノ效力ヲ生ス

第七十三條ノ許可カ效力ヲ生シタルトキハ競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社ハ免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼ス

第七十八條 強制管理ニ付テハ第四十三條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 強制管理開始ノ決定確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ監督官廳ニ送付スヘシ

第八十條 前條決定ノ謄本ノ送付アリタルトキハ監督官廳ハ一人又ハ數人ノ管理人ヲ選任スヘシ但シ強制管理ノ申立人ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

商事會社ハ管理人タルコトヲ得

第八十一條 監督官廳ハ管理人ヲ監督シ、管理方法ニ付指揮ヲ爲シ且管理人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ムヘシ

監督官廳ハ前項ニ掲ケタル事項ニ付債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及鑑定人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

監督官廳ハ管理人ニ擔保ヲ供スヘキコトヲ命ジ又ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第八十二條 監督官廳カ管理人ヲ任免シタルトキハ其ノ旨ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及裁判所ニ通知スヘシ

第八十三條 鐵道財團ノ所有者カ管理人選任ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ鐵道財團ヲ管理人ニ引渡スヘシ

鐵道財團ノ所有者ニ對シ管理ニ必要ナル書類其ノ他ノ物ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得
鐵道財團ノ所有者カ前二項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ執達吏ヲシテ其ノ引渡ヲ爲サシムヘシ

第八十四條 強制管理ノ申立人ハ管理人ノ請求ニ因リ管理ノ費用ヲ立替支辨スヘシ

第八十五條 管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ付必要ナル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スヘシ

第八十六條 鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル取締役ノ責任ハ管理人ノ之ヲ負フ

第八十七條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ鐵道財團ノ收入ヨリ順次ニ管理ノ費用、管理人ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ヲ抵當權者ニ交付スヘシ

第八十八條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ計算報告書ヲ監督官廳ニ差出スヘシ

監督官廳ハ前項計算報告書ノ謄本ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者及抵當權者ニ送付シ且一定ノ期間内ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

前項ノ期間内ニ異議ヲ申出テサリシ者ハ計算ヲ承認シタルモノト看做ス

異議ヲ申出テタル者アリタルトキハ監督官廳ハ管理人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ裁定ス此ノ裁定ハ終局トス

第八十九條 管理人ハ前條第二項ノ期間ヲ過キ又ハ前條第四項ノ裁定ヲ經タル後ニ非サレハ抵當權者ニ對シ配當額ノ交付ヲ爲スコトヲ得ス

管理人カ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキハ抵當權者ノ名稱及配當額ヲ監督官廳及裁判所ニ通知スヘシ

第九十條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
強制管理ノ申立ヲ爲シタル抵當權者カ辨濟ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スヘシ
強制管理ノ申立人カ管理費用ノ立替支辨ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第九十一條 前條第二項ノ場合ニ關シテハ第六十八條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ヲ除クノ外強制管理ノ取消ニ關シテハ第六十九條ノ規定ヲ準用ス

第四章 罰 則

第九十二條 左ノ場合ニ於テハ取締役又ハ管理人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ定メタル裁定ヲ遵守セサルトキ

二 第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 第二十條又ハ第二十一條ノ催告ヲ爲ササルトキ

四 登録ニ關シ不正ノ申請ヲ爲シタルトキ又ハ第三十一條ノ登録ノ申請ヲ爲ササルトキ

五 鐵道財團目錄ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ、第三十四條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ

六 管理方法ニ付監督官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

七 第八十八條ノ計算報告書ヲ差出ササルトキ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ

八 配當額ノ交付ヲ爲ササルトキ又ハ第八十七條若ハ第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキ

九 第八十九條第二項ノ通知ヲ爲ササルトキ

第九十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(勅令第一八六號
同年七月一日施行)

◎鐵道抵當法施行期日ノ件(明治三十八年六月二十
六日勅令第一八六號)

鐵道抵當法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎鐵道抵當法施行規則(明治三十八年五月二十
二日遞信省令第三七號)

改(明治四十三年十二月閣令第一七號、大正三年三月同第一號)
正(同八年八月第一七號、昭和二年五月九日鐵道省令第一號)

第一條 鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由ヲ記載シ會社ノ取締役署名捺印シ監督官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第二條 鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當證書又ハ信託證書及鐵道財團目錄ノ外尙ホ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 抵當證書又ハ信託證書ノ謄本
 - 二 株主總會ノ議事及決議ノ要領書
 - 三 最終ノ貸借對照表
 - 四 元利支拂ノ豫算
 - 五 株金總額及拂込額ノ登記抄本
 - 六 社債ノ總額及其ノ償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本
- 前項ニ依リ差出シタル抵當證書又ハ信託證書ハ抵當權設定ノ認可アリタルトキハ認可ノ證印ヲ附シテ之ヲ還付ス

第三條 鐵道抵當權設定ノ認可申請前會社ノ申請ニ因リ豫メ鐵道財團ノ公告ヲ爲シタル場合ニ於テ鐵道

抵當法第八條ニ依リ鐵道財團目錄ヲ差出シタルモノニ付テハ鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニ鐵道財團目錄ヲ添附スルコトヲ要セス

第四條 第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當權者ニ對スル催告ノ始末書及催告アリタルコトヲ證スル書面又ハ抵當權者ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五條 第二條第一項第四號ニ記載セル事項ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第六條 抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項變更ノ認可申請書ニハ契約證書及其ノ謄本ヲ添附シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

第七條 鐵道抵當權設定ノ認可申請前ニ於ケル鐵道財團公告ノ申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由及其ノ總額ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シテ差出スヘシ

第八條 鐵道抵當法第二十六條ノ場合ニ於テ其ノ債務ニ付据置年限經過後ニ於ケル辨濟期ニ關シ特約ノ日ヲ記載シ利害關係人署名捺印シテ届出ツヘシ

第九條 鐵道抵當原簿ハ別記第一號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條 鐵道財團目錄ハ別記第二號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十一條 鐵道財團目錄ニハ其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シ且每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ届書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

第十三條 鐵道抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ債權者及會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

第十四條 鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

第十五條 鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

第十六條 抵當權ノ順位

第十七條 債權額及償還ノ方法並期限

第十八條 鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

第十九條 鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

第二十條 抵當權ノ順位

第二十一條 債權額及償還ノ方法並期限

第二十二條 鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

第二十三條 鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

第二十四條 抵當權ノ順位

第二十五條 債權額及償還ノ方法並期限

第二十六條 鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

第二十七條 鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

第二十八條 抵當權ノ順位

第二十九條 債權額及償還ノ方法並期限

- 五 利率及利息支拂ノ方法並期限
- 六 免許ニ附シタル條件
- 七 抵當權ヲ設定シタルコト
- 八 抵當權設定認可ノ年月日
- 九 登録稅額

第十四條 登録ハ申請書受附ノ順序ニ依リテ之ヲ爲ス

第十五條 登録申請書其ノ他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ之ヲ申請者ニ交付ス

前項ノ受領證ハ登録濟證ヲ交付スルトキハ之ヲ還納セシムヘシ

第十六條 第十三條ノ規定ハ登録シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ登録申請ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登録申請書ハ正本一通及副本一通ヲ差出スヘシ

第十七條 鐵道抵當原簿ニ登録ヲ完了シタルトキハ抵當權設定ノ場合ニ在リテハ抵當證書又ハ信託證書

ニ、登録事項ノ變更又ハ消滅ノ場合ニ在リテハ申請書ノ副本ニ登録番號、申請書受附ノ年月日、受付番號及登録濟ノ旨ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ申請者ニ還付スヘシ

第十七條ノ二 登録稅法施行規則第四條ノ規定ニ依リ登録稅ヲ徵收シタルトキハ登録官吏ハ後ニ登録又

ハ登記ヲ申請スヘキ官廳ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登録ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二

通以上受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

登録稅法施行規則第四條ノ場合ニ於テ既ニ他ノ官廳ニ於テ登記又ハ登録ヲ受ケタルトキハ登録申請書ニ當該官廳ノ交付シタル登録稅ノ受領證ヲ添付スヘシ

第十八條 登録ヲ完了シタル後其ノ登録ニ付錯誤又ハ遺漏ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ登録上利害ノ關係ヲ有スルモノアルトキハ申請書ニ署名捺印シ又ハ其ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ

第十九條 鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ鐵道抵當原簿若ハ鐵道財團目錄ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ニ署名捺印シテ之ヲ差出スヘシ但シ抄本ヲ請求スル場合ニ於テハ抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載スヘシ

第二十條 鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手数料金十錢ヲ納ムヘシ但シ一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

手數料ハ收入印紙ヲ以テ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第二十一條 鐵道抵當法第二十條ニ依ル裁定申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ正副二通ヲ差出スヘシ

一 申請者及對手人ノ名稱、住所

二 裁定事件ノ表示

三 申請ノ要旨及理由

第二十二條 前條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ其ノ副本ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シ答辯書ヲ差出サシムヘシ但シ裁定申請力其ノ理由ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス

必要ト認ムルトキハ期限ヲ附シテ更ニ申請者、對手人ヨリ辯駁書、答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十三條 答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載シ二通ヲ差出スヘシ

一 申請者及對手人ノ名稱、住所

二 裁定事件ノ表示

三 答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由

第二十四條 必要ト認ムルトキ又ハ當事者一方ノ申立アルトキハ口頭審理ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 裁定申請者若ハ對手人期間内ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ指定ノ審理期日ニ

出頭セサルトキハ相手方ノ意見ヲ聽キ裁定ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 第二十一條乃至第二十五條ノ規定ハ管理人ノ計算報告書ニ對スル異議ノ裁定ニ之ヲ準用ス

第二十七條 執行力アル正本付與ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請者署名捺印シ抵當證書又ハ信託證

書及之ニ記載ノ事項ヲ變更シタル契約書ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ

一 債務者及職道財團所有者ノ名稱及住所

二 強制執行ヲ要スル事由

第二十八條 管理人推薦ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人之ニ署名捺印スヘシ

一 管理人タルヘキ者ノ名稱、住所

二 管理人タルニ適當ト認メタル事由及經歷

第二十九條 削除

附 則

第三十條 本規則ハ鐵道抵當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和二年五月九日)

(鐵道省令第一號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

區	鐵道用地				線	區		
	間	間	間	間				
	線	路	停車場	工場	舍	宅	何	々
	反畝步	反畝步	反畝步	坪	坪	坪	坪	坪
	一三、七〇七、三、一五	三、六〇〇、五、二〇	一五〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇			
	七〇〇	四〇〇	二・六六	一三・六六	一五・〇〇	二・六	三〇	
	一〇・〇〇	九・一〇	七・〇〇	二六・一〇	五・六〇	三・六	七〇	封度
	單線	複線	三線以上	本線	側線	軌間	軌條重量	

(第二號樣式)

鐵道財團目錄

某鐵道株式會社

(別記)
(第一號樣式)

鐵道抵當原簿		(遞信省鐵道局)
登錄番號		號
表題部	備考	
第一號	財團所屬線路	
第二號	免許條件	
第三號	鐵道財團所有者ノ名稱及住所	
第四號	債務者ノ名稱及住所	
第五號	抵當權者ノ名稱及住所	
第六號	抵當權ノ順位	
第七號	債權額	
第八號	元金償還ノ方法及期限	
第九號	利率	
第十號	利息支拂ノ方法及期限	
第十一號	抵當權設定ノ認可年月日	
第十二號	抵當權ヲテシタル專事	
第十三號	以上ノ年月日	

國、郡、市町村	大字、番地	丁目	段別	坪數	用方	期限	使用料金	權利種別	設定及登記年月日	土地所有者名
、國、郡、町	、、、	三五四	田	五、〇〇〇	線路用	明治五十年	壹箇年壹坪ニ付	地上權	明治三十七年五月五日	鈴木又兵衛
、國、郡、町	、、、	七二〇	畑	一〇、〇〇〇	工場用	明治百零一年	壹箇年壹坪ニ付	賃借權	明治三十八年三月十日	古井新作

地上權、賃借權、地役權

備考 鐵道用地以外ノ用地ハ國郡市町村ノ順序ニ依リ種類ヲ追フテ一筆毎ニ之ヲ記載スヘシ

										舍宅用
										用水用
										本所用
										事務所用
										何々用

備考 鐵道用地ハ使用地ノ種類ニ應シ總反別又ハ總坪數ヲ以テ之ヲ記載スヘシ

鐵道用地以外ノ用地

國、郡、市町村	大字、字	番	地	地目	段別	坪數	使用種類
、國、郡、村	、、、		一三一	宅地		一三二	工場用
、國、郡、村	、、、		一二二	畑地		一三一	工場用
、國、郡、村	、、、		二一五	宅地		一五六五	工場用

名 稱		哩 程		構 造		單線又ハ複線		延 長	
、	、	至自	〇、二、五	煉瓦造	單	線		二八九、〇	
、	、	至自	〇、二、五	石及煉瓦混造	複	線		一一八、八〇	

區 間		徑 橋		間		箇		所	
、	、	三呎乃至十一呎						八五	

備考 徑間十二呎未滿ノモノハ次表ニ之ヲ記載スヘシ

名 稱		哩 程		橋 梁		橋臺橋脚構造		單線、複線 又ハ何線		徑 長		間 數	
、	、	九、五、〇	哩鎖節	輾壓梁、鐵煉瓦造	單	線	一三、三						
、	、	一、九、〇	版	鋼石造	複	線	七〇、〇						
、	、	三〇九、一〇、〇	半圓形、拱煉瓦造	煉瓦造	單	線	一五、〇						
、	、	三、一、六、五九、〇	プラット式構桁	石及煉瓦混造	同	上	二〇〇、〇						

備考 權利ノ種類ニ依リ一筆毎ニ之ヲ記載スヘシ

材 料 名 稱	現 在 數	所 在 地	貨 車		種 類	形 式	記 號 地 號	製 造 所 名	製 造 年	積 量	輛 數	所 屬 器 具 機 械
			種 類	形 式								
保線材料及器具機械			貨車緩急車	八輪ボギー車	一、	工場	明治二年	重量 五〇噸 容立方呎 四四〇	二	手用制動器及信號燈		
			有蓋貨車	四輪車	八、四八 乃至八、五〇三	工場	明治二年	同 七、〇〇	一	五車側制動機		
			無蓋貨車	四枚側四輪車	四、二二 乃至四、三三	工場	明治二年	同 七、〇〇	一	五真空制動機		
			土運車	二枚側四輪車	五、〇一 乃至五、二〇	工場	明治二年	重量 四、〇〇	一	〇車側制動機		

種 類	形 式	記 號 番 號	製 造 所 名	製 造 年	定 員	手 便 室 容 積	所 屬 器 具 機 械	客 車	
								種 類	形 式
一等	八輪ボギー	乃至七二	工場	明治廿五年	五〇	噸	真空制動機、煖房	一	同
二三等合造	八輪ボギー	乃至三〇	工場	明治廿五年	二 三 等 五 六	噸	真空制動機、煖房	一	同
緩急合造	四輪車	乃至八三	工場	明治廿五年	五〇	噸	真空制動機、煖房	三	壓搾氣制動機、コンツロ
郵便車	四輪車	乃至八五	工場	明治廿五年	五〇	噸	真空制動機、煖房	三	壓搾氣制動機、コンツロ

種類	區間及電氣供給區域	線條數	支	持	物	亘長	所屬器具機械
送電線	何々發電所ヨリ間	三	專		用	里丁間	
送電線	何々變壓所ニ至ル間	六	專		用		
配電線	何々變壓所ヨリ間	三條乃至	專		用		柱上變壓器、筒
、、、	、、、	、、、	、		、	、	、
、、、	、、、	、	、		、	、	、
、、、	、	、	、		、	、	、
、、、	、	、	、		、	、	、
、、、	、	、	、		、	、	、
、、、	、	、	、		、	、	、
、、、	、	、	、		、	、	、

電氣供給用電線路

備考 線路ニ要スル材料ハ軌條、枕木、砂利、鐵材、石材、煉瓦、セメント等重ナルモノヲ記載スヘシ
 保線材料及器具機械ハ表記ノ外末尾ニ其ノ他一切所屬ノ旨ヲ記載スヘシ

器具機械名稱	現	在	數	所	在	地
軌條	三十呎(六十磅)	一、〇〇〇本	、	、	、	停車場内
枕木	普通用	三、〇〇〇挺	、	、	、	、
砂利	橋梁用	一、〇〇〇挺	、	、	、	、
石		三〇〇坪	、	、	、	停車場附近
		一〇、〇〇〇切	、	、	、	、
杭打器械		一〇臺	、	、	、	倉庫
プロツク		五〇個	、	、	、	、
シヨベル		一〇〇個	、	、	、	、
シヤツク、トラベリング		五個	、	、	、	、

道路目次

道路法

法(大正八年四月十一日法律第五八號)

..... 一

道路法施行令(大正八年十一月四日勅令第四六〇號)

..... 三

耕地整理法中道路ノ意義ニ關スル件

(大正九年十二月二十日農務省農務局長土木局長通牒各地方長官宛農務省農務局長土木局長通牒)

..... 三〇

耕地整理法上ノ道路ト道路法上ノ附屬物ニ關スル件

(大正十一年一月二十五日一〇來第一九〇號農務省食糧局長宛土木局長回答)

..... 三一

道路法第七條ノ規定ニ依ル同法ノ規定ノ準用等ノ件

(大正八年十一月二十日勅令第四七一號)

..... 三二

國道路線認定ノ件

(大正九年四月一日內務省告示第二八號)

..... 三三

國道路線認定ノ件

(大正九年十二月二十五日內務省告示第一二五號)

..... 三四

道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ指定ニ關スル件

(大正八年十一月五日勅令第四六一號)

..... 三二

町村組合ノ道路經理ニ關スル件

(大正九年九月十七日石局第一一號石川縣知事宛地方土木兩局長回答)

..... 三三

道路ニ關スル費用負擔事務ノ爲設置セル組合管理者ノ權限ニ關スル件 (大正十一年十月二十五日發甲第四四號北海道廳長官各府縣知事宛土木、地方兩局長通牒) 四四

道路ニ關スル事務分任ニ關スル件 (大正十一年十月十日東土第三〇號東京府知事宛土木局長回答) 四五

道路管理者特別規定 (大正八年十一月二十二號六日勅令第四七二號) 四六

行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル件 (大正九年十二月二十四日乙第三四號山形縣知事宛土木局長回答) 四七

河川其他ノ工作物ヲ道路ニ供用ニ關スル件 (大正十年一月十日出土第一號各地方長官宛(沖繩縣ヲ除ク)土木局長通牒) 四八

官有道路敷取扱ニ關スル件 (大正十一年三月七日靜土第二八號各地方長官宛(静岡縣ヲ除ク)土木局長地理課長通牒) 四八

土地所有權移轉登記囑託ノ件 (大正十二年六月五日北土第五三號各地方長官宛土木局長會計課長通牒) 四九

臨時海軍建築部長ヘ商議ノ件 (明治二十九年十一月二十四日內務省訓令第七三三號) 四九

國縣道ノ工事ニ關スル報告ノ件 (明治四十五年七月土第二五二號陸軍次官宛內務次官照會) 四九

道路法第二十條第二項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ權限ニ關スル件 (大正十一年八月十七日勅令第三八五號) 五〇

道路ニ關スル工事取締ニ關スル件 (大正十一年七月二十六日發土第八七號各地方長官宛土木局長通牒) 五二

賃取橋梁及渡船場設置ニ關スル件 (大正九年七月二十八日內務省令第二三號) 五三

賃取橋等整理ニ關スル件 (大正九年一月十七日發土第二號各地方長官宛土木局長通牒) 五五

國ノ事業ノ爲道路占用協議方委任ノ件 (大正十年二月三日內務省令第四號) 五六

國ノ事業ノ爲道路占用ニツキ協議ニ關スル件 (大正十年二月三日發土第一〇號各地方長官宛土木局長通牒) 五七

道路法第二十八條第一項ノ規定ニ依ル占用ノ許可又ハ承認ニ關スル件 (大正九年七月一日內務省訓令第一號) 五七

道路ノ占用ニ關スル件 (大正九年四月一日遞土第一號各地方長官宛土木局長依命通牒) 六〇

道路ノ占用ニ關スル件 (大正十年一月三十一日九來第一四四號各地方長官宛土木局長通牒) 六〇

道路ノ占用ニ關スル件 (大正九年八月四日海土第四號各地方長官宛土木局長通牒) 六六

道路ノ占用ノ件 (大正十年九月九日內務省陸土第五號各地方長官宛土木局長通牒) 六八

遞信省ニ於テ自働電話所設置ノ爲道路占用ノ件 (大正十年四月六日遞土第一號道廳) 六

陸地測量部所管水準點ノ建設並移轉ノ爲道路占用ノ件 (大正十年六月一日發土第六五號道廳長官府縣知事宛土木局長通牒) 七〇

電柱建設ノ爲ニスル道路占用ノ件 (一) (大正十一年六月二十六日發第一七) 七二

前同伴 (二) (大正十一年六月二十六日發第一七八號大阪、兵庫、神奈川各府縣知事宛土木局長通牒) 七三

前同伴 (三) (大正十一年七月十三日發第一七八號東京府知事宛土木局長通牒) 七三

鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用又ハ改築ニ關スル件 (大正十四年三月三十一日發甲第) 七三

鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用又ハ改築ニ關スル件 (大正十五年六月於土) 七三

鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用又ハ改築ニ關スル件 (昭和二年七月五日發土第五〇號) 七四

道路法第二十九條ノ規定ニ依ル占用ニ關スル申請手續ノ件 (大正九年六月十六日) 七四

道路法第三十條ノ規定ニ依ル道路臺帳ニ關スル件 (大正八年十二月六日) 七五

道路構造令 (大正八年十二月六日) 七六

道路構造ニ關スル細則 (大正十五年六月於土) 八一

街路構造令 (大正八年十二月六日) 一〇四

道路維持修繕令 (大正十年五月二十八日) 一〇六

道路維持修繕令中改正ニ關スル件 (大正十一年六月五日發第九八號道廳長官各府縣知事宛土木局長通牒) 一〇九

竝木伐採ノ件 (大正十一年十月三日發甲第四三號道廳長官各府縣知事(秋田縣ヲ除ク)宛土木局長通牒) 一〇九

道路工事執行令 (大正九年十一月八日) 一一〇

道路工事執行令中疑議ニ關スル件 (大正十一年十一月二十九日乙第八號靜岡縣知事宛土木局長回答) 一一五

道路工事執行令第八條ニ關スル件 (大正十年三月三日乙第一號三重縣知事宛土木局長回答) 一二六

道路管理職員制 (大正九年八月十一日勅令第二四五號) 一二六

道路法第三十三條第三項ノ規定ニ依ル道路ニ關スル費用負擔ノ件 (大正十一年八月十八日勅令第三八六號) 一三八

道路ニ關スル訴訟費用ノ件 (大正十二年五月二十九日甲第四九號各地方長官宛土木局長通牒) 一三九

道路費國庫補助規程 (大正十年一月二十九日內務省令第一號) 一三二

道路改良費國庫補助內規 (道路會議決定) 一三三

國庫補助道路工事竣功認定様式ニ關スル件 (大正十五年六月於土木主任官會議決定) 一三三

國道改良費國庫補助ノ件 (大正九年十月十三日發土第一二二號各地方長官(沖繩縣ヲ除ク)宛土木局長通牒) 一三六

府縣道路新設改築費國庫補助ノ件 (大正九年十一月十七日發甲第四三號各地方長官宛土木局長通牒) 一三六

府縣道路費國庫補助ニ關スル件 (大正十年三月二十九日發土第三一號各府縣知事宛土木局長通牒) 一三七

災害工事費ノ負擔所屬ヲ變更セルモノノ國庫補助精算ニ關スル件 (大正九年三月二十三日發土第二一號各地方長官宛土木局長通牒) 一三七

國庫補助道路工事工程報告ノ件 (大正九年十二月二十三日發土第一三九號地方長官宛土木局長通牒) 一三九

道路費國庫補助ニ關スル件 (大正十一年十一月二十五日發土第一四一號六大都市所在地方長官宛土木局長通牒) 一四三

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル道路工事ノ費用負擔方稟請ニ關スル件 (大正九年七月九日發土第八四號各地方長官宛土木局長通牒) 一四三

道路法第三十九條ノ受益者ニ關スル件 (大正十三年三月一日乙第五〇號京都府知事宛土木局長回答) 一四三

道路工事費受益者負擔規程ノ例 (宮崎縣、京都府、兵庫縣) 一四五

道路損傷負擔規程ノ例 (福井縣、山口縣) 一五五

道路附帶工事費負擔區分ノ件 (大正十年一月三十一日九東土第二一號東京府知事宛土木局長通牒) 一五九

道路取締令 (大正九年十二月十六日內務省令第四五號) 一六〇

道路取締ニ關スル件 (大正九年十二月二十七日發警第九八號各地方長官宛警保、土木兩局長通牒) 一六六

道路取締令ニ關スル件 (大正九年十二月二十三日發警第三五八號各地方長官宛警保局長通牒) 一七〇

交通取締ニ關スル件(大正十年十二月十三日警發第四三)……………一七四

道路警戒標及道路方向標ニ關スル件(大正十一年十一月九日)……………一七五

道路警戒標及道路方向標ニ關スル件(日內務省令第二七號)……………一七五

道路標識建設ニ關スル件(大正十一年十一月九日發土第一二八號)……………一八〇

道路標識建設ニ關スル件(各地方長官宛地方、土木兩局長通牒)……………一八〇

道路法第五十條ノ規定ニ依ル道路ノ沿道ノ區域ニ關スル件(大正十一年七月三十一日內務省訓令第一六號)……………一八〇

道路法第五十二條但書ノ規定ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受ケルコトヲ要セサル件(大正九年三月三十日內務省令第六號)……………一八〇

府縣道(地方費道)ノ路線認定申請ニ關スル件(大正八年十一月十九日發土第一五)……………一八五

府縣道(地方費道)ノ路線認定申請ニ關スル件(一號各地方長官宛土木局長通牒)……………一八五

府縣道路線認定認可ノ件(大正十五年八月七日發土第三八)……………一八八

府縣道路線認定認可ノ件(號各府縣知事宛土木局長通牒)……………一八八

道路法改正法律施行ニ伴フ府縣道路線認定ニ關スル件(大正十一年八月二十二日內務省秘第八〇〇號各地方長官宛(埼玉、鹿兒島、沖繩縣ヲ除ク)土木局長通牒)……………一八八

路線認定ノ變更又ハ廢止ニ關スル件(大正九年五月三十一日發土第四)……………一九四

三號各地方長官宛土木局長通牒)……………一九四

道路上ニ軌道敷設ニ關スル件(大正十三年七月十九日發甲第二〇號)……………一九五

各地方長官宛土木、監督兩局長通牒)……………一九五

指定府縣道採擇標準(大正十五年九月決定)……………一九五

內務大臣ノ指定シタル府縣道(大正十五年九月一日內務省訓令第八三二號)……………一九六

國道及指定府縣道ノ些少ナル區間(大正十五年六月於土木主任官會議指示)……………一九六

道路橋梁ノ構造認可ニ關スル件(大正九年十月十五日發土第一二)……………一九七

四號各地方長官宛土木局長通牒)……………一九七

道路法ニ基ク收入金ニ付督促手数料徴收ニ關スル件(大正十三年二月十五日東土第四七號)……………二〇二

東京府知事宛地方、土木兩局長回答)……………二〇二

北海道道路令(大正八年十一月二十日)……………二〇三

六日勅令第四七三號)……………二〇三

道路法第六十二條ノ規定ニ依ル不用物件等ノ管理及處分ニ關スル件(大正八年十一月二十日)……………二〇六

六日勅令第四七四號)……………二〇六

道路法ニ依リ認定セサル道路ノ公用廢止ニ關スル件(大正九年七月三日乙第三三號)……………二〇八

山口縣知事宛土木局長回答)……………二〇八

道路區域ノ變更ニ因リ不用ニ歸シタル土地處分ニ關スル件……………二〇八

(大正十一年十一月八日乙第八二) 二〇九
號愛知縣知事宛土木局長回答

道路法施行期日ノ件 (大正八年十一月四日勅令第四五九號) 二〇九

道路占用ニ關スル件 (大正九年六月二十九日內務省東土第一九〇號各地方長官宛地方、土木兩局長通牒) 二〇九

電氣事業ノ爲ニスル報償契約ノ件 (大正九年十月八日遞地第一〇〇號遞信次官宛內務次官回答) 二〇〇

大正十一年法律第三號改正法律施行ノ件 (大正十一年八月十七日勅令第三八三號) 二〇一

道路ノ路線認定ノ諮問其ノ他ニ關スル件 (大正九年三月十三日甲第四號奈良縣知事宛土木局長回答) 二〇二

道路路線ノ認定ヲ參事會ニ諮問ノ件 (大正十年五月五日乙第一號島根縣知事宛土木局長回答) 二〇三

府縣道路路線認定ニ關スル諮問ノ件 (大正十一年五月九日發土第四五號各地方長官宛土木局長通牒) 二〇三

道路ノ路線ノ認定ノ諮問ニ關スル件 (大正十五年四月二十三日發土第一六號各地方長官宛土木局長通牒) 二〇四

道路元標ニ關スル件 (大正十一年八月十八日內務省令第二〇號) 二〇四

道路法施行令ニ基キ道路附屬物指定ノ件 (大正九年三月二十五日內務省告示第二三號) 二〇六

道路法第十八條第一項ニ依ル管理者ニ對スル第一次監督官廳ニ關スル件 (大正十一年十二月一日甲第一七號岩手縣知事宛土木局長通牒) 二〇六

認定セサル從來ノ道路敷處分ニ關スル件 (大正九年十月二十八日第四〇二號栃木縣知事宛地理課長土木局長回答) 二〇七

道 路

法

(大正八年四月十一日)改(大正十一年三月二十日)
法律第五八號(正)法律第三三號

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ一般交通ノ用ニ供スル道路ニシテ行政廳ニ於テ第二章ニ依ル認定ヲ爲シタルモノヲ謂フ

◎耕地整理法中道路ノ意義ニ關スル件

(大正九年十二月二十日農務局第一九四七號各地)三〇
方長官宛農務省農務局長、土木局長通牒

第二條 左ニ掲ケルモノハ道路ノ附屬物トシ道路ニ關スル本法ノ規定ニ從フ但シ命令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

- 一 道路ヲ接續スル橋梁及渡船場
- 二 道路ニ附屬スル溝、竝木、支壁、柵、道路元標、里程標及道路標識
- 三 道路ニ接スル道路修理用材料ノ常置場
- 四 前各號ノ外命令ヲ以テ道路ノ附屬物ト定メタルモノ

◎耕地整理法上ノ道路ト道路法上ノ附屬物ニ關スル件

(大正十一年一月二十五日)〇來第一九三
〇號農務省食糧局長宛土木局長回答

第三條 本法ニ於テ橋梁又ハ渡船場ト稱スルハ前條第一號ノ橋梁又ハ渡船場ヲ謂フ
本法ニ於テ渡船場ト稱スルハ渡船ヲ包含ス

第四條 本法ニ於テ他ノ工作物ト稱スルハ堤防、堰堤、護岸、鐵道用橋梁其ノ他命令ヲ以テ定ムル工作

物ヲ謂フ

第五條 本法ニ於テ道路ニ關スル工事ト稱スルハ道路ノ新設、改築及修繕ニ關スル工事ヲ謂フ

第六條 道路ヲ構成スル敷地其ノ他ノ物件ニ付テハ私權ヲ行使スルコトヲ得ス但シ所有權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定若ハ移轉ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第七條 道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ニ關スル本法ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ新ニ道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

◎道路法第七條ノ規定ニ依ル同法ノ規定ノ準用等ノ件 (大正八年十一月二十) 六日勅令第四七一號) 三二

第二章 道路ノ種類、等級及路線ノ認定

第八條 道路ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 國 道
- 二 府 縣 道
- 三 市 道
- 四 町 村 道

第九條 道路ノ等級ハ前條記載ノ順序ニ依ル

第十條 國道ノ路線ハ左ノ路線ニ就キ主務大臣之ヲ認定ス

- 一 東京市ヨリ神宮、府縣廳所在地、師團司令部所在地、鎮守府所在地又ハ樞要ノ開港ニ達スル路線
- 二 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル路線

◎國道路線認定ノ件 (大正九年四月一日內) 務省告示第二八號) 三二

◎國道路線認定ノ件 (大正九年十二月二十五日) 內務省告示第一二五號) 四一

第十一條 府縣道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ府縣內ノモノニ就キ府縣知事之ヲ認定ス

- 一 府縣廳所在地ヨリ隣接府縣廳所在地ニ達スル路線
- 二 府縣廳所在地ヨリ府縣內郡市役所所在地ニ達スル路線
- 三 府縣廳所在地ヨリ府縣內樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 四 府縣內樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 五 府縣內樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 六 府縣內樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線
- 七 數市町村ヲ連結スル重要ナル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 八 樞要ノ港津又ハ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル國道又ハ府縣道ニ連絡スル路線
- 九 地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一二該當スヘキ路線

第十二條 (大正十一年法律第) 三號ヲ以テ削除

第十三條 市道ノ路線ハ市内ノ路線ニ就キ市長之ヲ認定ス

第十四條 町村道ノ路線ハ町村内ノ路線ニ就キ町村長之ヲ認定ス

第十五條 市町村長ハ市町村ノ爲特ニ必要アル場合ニ限り市町村外ノ路線ニ就キ地元市町村長ノ意見ヲ聞キ路線ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ路線ニシテ市長ノ認定シタルモノハ市道ノ路線、町村長ノ認定シタルモノハ町村道ノ路線トス

第十六條 上級ノ道路ト下級ノ道路ト路線カ重複スル場合ニ於テハ其ノ重複スル部分ハ上級ノ道路トス

第十七條 國道ハ府縣知事、其ノ他ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者ヲ以テ管理者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ其ノ市内ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス

第三章 道路ノ管理

◎道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ指定ニ關スル件 (大正八年十一月五日) 日勅令第四六一號 四二

◎町村組合ノ道路經理ニ關スル件 (大正九年九月十七日) 石局第一號 (石) 四三

◎道路ニ關スル費用負擔事務ノ爲設置セル組合管理ノ權限ニ關スル件 (大正十一年十月二十五日) 發甲第四四號 (北海道) 四四

◎道路ニ關スル事務分任ニ關スル件 (大正十一年十月十日) 東土第三〇號 (四) 四五

◎道路ニ關スル事務分任ニ關スル件 (大正十一年十月十日) 東土第三〇號 (四) 四五

第十八條 道路ニシテ行政區劃ノ境界ニ係ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依ル管理者タル關係行政廳ノ一ヲ以テ管理者ト爲スコトヲ得

道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ其ノ道路及工作物ノ管理ニ付前項ノ規定ヲ準用ス但シ私人ヲ管理者ト爲スコトヲ得ス

第十九條 道路ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

◎道路管理者特別規程 (大正八年十一月二十) 六日勅令第四七二號 四七

◎行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル件 (大正九年十二月二十四日) 乙第三號 (四) 四八

◎河川其ノ他ノ工作物ヲ道路ニ供用ニ關スル件 (大正十年一月十日) 出土第一號 (各地方) 四八

◎道路ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第二十條 道路ノ新設、改築、修繕及維持ハ管理者之ヲ爲スヘシ

主務大臣必要アリト認ムルトキハ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ道路管理者ノ權限ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣之ヲ行フ (大正十一年法律第) 三號ヲ以テ改正

◎官有道路敷取扱ニ關スル件 (大正十一年三月七日) 靜土第二八號 (各地方) 長官 (四) 四九

◎土地所有權移轉登記囑託ノ件 (大正十二年六月五日) 北土第五三號 (各) 地方長官宛 (土木局長、會計課長) 通牒 (四) 四九

◎臨時海軍建築部長へ商議ノ件 (明治二十九年十一月二十四) 四九

◎國縣道ノ工事ニ關スル報告ノ件 (明治四十五年七月) 土第二五二號 (一號) 陸軍次官宛 (內務次官照會) 四九

◎道路法第二十條第二項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ權限ニ關スル件 (大正十一年八月十七) 日勅令第三八五號 五〇

第二十一條 道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ管理者ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ道路ニ

關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得但シ河川法第十條第一項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第二十二條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ハ管理者其ノ工事執行者又ハ行爲者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第二十三條 第二條ノ規定ニ依ル場合ノ外特別ノ事由アル場合ニ於テハ管理者タル行政廳ハ下級行政廳又ハ私人ヲシテ道路ノ修繕ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十四條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ道路ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路ノ維持ヲ爲スコトヲ得

◎道路ニ關スル工事取締ニ關スル件 (大正十一年七月二十六日發土第八) 五二
第七號各地方長官宛土木局長通牒

第二十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工事ハ管理者道路ニ關スル工事ト共ニ之ヲ執行スルコトヲ得
第二十六條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ一定ノ期間橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スルコトヲ得ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得
前項ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ハ徵收期間内橋梁又ハ渡船場ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ

◎賃取橋梁及渡船場設置ニ關スル件 (大正九年七月二十八) 五三
日內務省令第二三號

◎賃取橋等整理ニ關スル件 (大正九年一月十七日發土第二) 五五
號各地方長官宛土木局長通牒

第二十七條 管理者ハ特別ノ事由アル場合ニ限り橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得

第二十八條 管理者ハ交通ヲ妨ケサル限度ニ於テ道路ノ占用ヲ許可又ハ承認スルコトヲ得
國ノ事業ニ付テハ當該官廳ハ主務大臣ト協議シテ前項道路ノ占用ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

管理者ハ道路ノ占用ニ付占用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ前二項ノ規定ニ依ル占用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

◎國ノ事業ノ爲道路占用協議方委任ノ件 (大正十年二月三日) 五六
內務省令第四號

◎國ノ事業ノ爲道路占用ニ付協議ニ關スル件 (大正十年二月三日發土第一〇) 五七
號各地方長官宛土木局長通牒

◎道路法第二十八條第一項ノ規定ニ依ル占用ノ許可又ハ承認ニ關スル件 (大正九年七月一日內) 五七
務省訓令第一號

◎道路ノ占用ニ關スル件 (大正九年四月一日遞土第一號各) 六〇
地方長官宛土木局長依命通牒

◎道路ノ占用ニ關スル件 (大正十年一月三十一日九來第一四) 六六
四號各地方長官宛土木局長通牒

◎道路ノ占用ニ關スル件 (大正九年八月四日海土第四號) 六八
各地方長官宛土木局長通牒

◎道路占用ノ件 (大正十年九月九日内務省陸土第) 六八
(五號各地方官宛土木局長通牒)

◎遞信省ニ於テ自働電話所設置ノ爲道路占用ノ件 (大正十年四月六日遞土第一號道廳) 六八
(長官各府縣知事宛土木局長通牒)

◎陸地測量部所管水準點ノ建設並移轉ノ爲道路占用ノ件
(大正十年六月一日發土第六五號道) 七〇
(廳長官府縣知事宛土木局長通牒)

◎電柱建設ノ爲ニスル道路占用ノ件 (一) (大正十一年六月二十六日發第一七) 七二
(八號東京府知事宛土木局長通牒)

◎同伴 (二) (大正十一年六月二十六日發一七八號大阪) 七二
(兵庫神奈川各府縣知事宛土木局長通牒)

◎同伴 (三) (大正十一年七月十三日發一七) 七三
(八號電氣局長宛土木局長通牒)

◎鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用又ハ改築ニ關スル件
(大正十四年三月三十一日發甲第) 七三
(四號各地方官宛土木局長通牒)

◎鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用又ハ改築ニ關スル件 (大正十五年六月於土) 四七
(木主任官會議指示)

◎鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用又ハ改築ニ關スル件
(昭和二年七月五日發土第五〇號) 四七
(各地方官宛土木局長依命通牒)

第二十九條 前條第一項ノ規定ニ依ル占用カ法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル公共ノ利益
トナルヘキ事業ニ係ルモノナル場合ニ於テ管理者正當ノ事由ナクシテ其ノ許可若ハ承認ヲ拒ミ又ハ不
相當ナル占用料ヲ定メタルトキハ主務大臣ハ事業者ノ申請ニ依リ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ占用料ヲ
定ムルコトヲ得

◎道路法第二十九條ノ規定ニ依ル占用ニ關スル申請手續ノ件 (大正九年六月十六日) 七四
(内務省令第一五號)

第三十條 管理者ハ其ノ管理ニ屬スル道路ノ臺帳ヲ調製スヘシ
臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
(大正八年十二月六日) 七五
(内務省令第二三號)

◎道路法第三十條ノ規定ニ依ル道路臺帳ニ關スル件 (大正八年十二月六日) 七五
(内務省令第二三號)

第三十一條 道路ノ構造、維持、修繕及工事執行方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
(大正八年十二月六日) 七八
(内務省令第二四號)

◎道路構造ニ關スル細則 (大正十五年六月於土) 八一
(木主任官會議諮問)

◎街路構造令 (大正八年十二月六日) 一〇四
(内務省令第二五號)

◎道路維持修繕令 (大正十年五月二十八日) 一〇六
(日內務省令第一五號)

◎道路維持修繕令中改正ニ關スル件 (大正十一年六月五日發第九八號道) 一〇九
(廳長官各府縣知事宛土木局長通牒)

◎並木伐採ノ件 (大正十一年十月三日發甲第四三號道廳長官) 一〇九
(各府縣知事宛(秋田縣ヲ除ク)土木局長通牒)

◎道路工事執行令(大正九年十一月八日) 一一〇

◎道路工事執行令中疑義ニ關スル件(大正十一年十一月二十九日乙第八) 一一五

◎道路工事執行令第八條ニ關スル件(大正十年三月三日乙第一號) 一二六

第三十二條 道路ノ管理ノ爲必要ナル吏員ノ設置及其ノ職務權限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◎道路管理職員制(大正九年八月十一日勅令第二四五號) 一一六

第四章 道路ニ關スル費用及義務

第三十三條 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル

費用ハ國庫ノ負擔トス第二十條第二項ノ規定ニ依ル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外道路ニ關スル費用ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔トス

但シ行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル費用ノ負擔ニ付テハ關係行政廳ノ協議ニ依ル協議調ハサルト

キハ主務大臣之ヲ決定ス

第二十條第二項ノ規定ニ依ル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理者タル行

政廳ノ統轄スル公共團體ヲシテ其ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得(大正三年法律第三號ヲ以テ追加)

◎道路法第三十三條第三項ノ規定ニ依ル道路ニ關スル費用負擔ノ件

(大正十一年八月十七日勅令第三八六號) 一一八

◎道路ニ關スル訴訟費用ノ件(大正十二年五月二十九日甲第四) 一一九

第三十四條 前條ノ場合ニ於テ道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルモノナルトキハ其ノ費用ノ負擔ニ付テ

ハ前條第二項但書ノ規定ヲ準用ス但シ河川法第三十條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第三十五條 第三十三條第二項ニ規定スル費用ニシテ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノハ其ノ一部ヲ國

庫ヨリ補助スルコトヲ得特別ノ事由アル場合ニ於テ府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ

付亦同シ

◎道路費國庫補助規程(大正十年一月二十九日內務省令第一號) 一二一

◎道路改良費國庫補助內規(道路會議決定) 一二二

◎國庫補助道路工事竣功認定様式ニ關スル件(大正十五年六月於土) 一二三

◎國道改良費國庫補助ノ件(大正九年十月十三日發土第一二二號各地) 一三六

◎府縣道路新設改築費國庫補助ノ件(大正九年十一月十七日發甲第四) 一三六

◎府縣道路費國庫補助ニ關スル件(大正十年三月二十九日發土第三) 一三七

◎災害工事費ノ負擔所屬ヲ變更セルモノノ國庫補助精算ニ關スル件

(大正九年三月二十三日發土第二) 一三七

◎國庫補助道路工程報告ノ件(大正九年十二月二十三日發土第一)一三九
(三九號各地方長官宛土木局長通牒)

◎道路費國庫補助ニ關スル件(大正十一年十一月二十五日發土第一四一)一四三
(號六大都市所在地方長官宛土木局長通牒)

第三十六條 第二十四條ノ規定ニ依ル道路ニ關スル工事若ハ道路ノ維持ニ要スル費用又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ設クル橋梁若ハ渡船場ニ關スル費用ハ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ負擔トス

第三十七條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ費用ハ管理者他ノ工事又ハ行爲ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシム

◎河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル道路工事ノ費用負擔方稟請ニ關スル件(大正九年七月九日發土第八四)一四三
(號各地方長官宛土木局長通牒)

第三十八條 特別ノ事由アル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ依ル道路ノ修繕ニ關スル工事又ハ道路ノ維持ニ要スル費用ハ管理者同條ノ下級行政廳ノ統轄スル公共團體又ハ同條ノ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十九條 道路ニ關スル工事ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ管理者ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ道路ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

◎道路法第三十九條ノ受益者ニ關スル件(大正十三年三月一日乙第五〇)一四三
(號京都府知事宛土木局長回答)

◎道路工事費受益者負擔規程ノ例(宮崎縣、京都府、兵庫縣)一四五

第四十條 特ニ道路ヲ損傷スル原因ト爲ルヘキ事業ヲナス者アル場合ニ於テ管理者ハ之カ爲ニ要スル道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ其ノ事業者ニ負擔セシムルコトヲ得

◎道路損傷負擔規程ノ例(福井縣、山口縣)一五五

第四十一條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

◎道路附帶工事費負擔區分ノ件(大正十年一月三十一日九東土第二)一五九
(五一號東京府知事宛土木局長通牒)

第四十二條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依ル義務ヲ履行スル爲必要ナル費用ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外義務者ノ負擔トス

第四十三條 道路ニ關スル費用ノ負擔金ハ費用負擔者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ス場合ヲ除クノ外第三十三條第一項ノ主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノニ在リテハ國庫、其ノ他ノモノニ在リテハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

前項ノ費用負擔者カ公共團體ナル場合ニ於テ之ヲ統轄スル行政廳又ハ行政廳タル管理者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ストキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ費用負擔者之ヲ爲スモノト看做ス

第四十一條ノ規定ニ依ル負擔金ハ前二項ノ例ニ依リ國庫又ハ公共團體ノ收入トス

第四十四條 道路ノ占用料其ノ他道路ヨリ生スル收益ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

ス但シ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ得テ徵收スル橋錢又ハ渡錢ハ其ノ許可又ハ承認ヲ得ル者ノ收入トス

第四十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ管理者ハ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ヲ爲サムトスルトキハ已ムテ得サル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ通知スルコトヲ要ス

第四十六條 非常災害ノ爲必要アル時ハ管理者ハ道路附近ニ居住スル者ヲ使役シ、道路附近ノ土地ヲ一時使用シ又ハ土石、竹木其ノ他物品ヲ使用若ハ收用スルコトヲ得

第四十七條 前二條ノ規定ニ依ル立入、使用、使役又ハ收用ニ因リ現ニ生シタル損害ハ立入、使用、使役又ハ收用ノ後三月内ニ管理者之ヲ補償スヘシ

第四十八條 沿道ノ土地、竹木又ハ工作物ノ管理者ハ其ノ土地、竹木又ハ工作物ノ道路ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第四十九條 道路ノ使用又ハ道路若ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム沿道ノ土地ニ於ケル工作物ノ建設其ノ他ノ作爲又ハ不作爲ノ制限ニシテ道路又ハ其ノ交通ノ保全ノ目的ヲ以テスルモノニ付亦同シ

◎道路取締令(大正九年十二月十六日) 一六〇
日內務省令第四五號

◎道路取締ニ關スル件(大正九年十二月二十七日發警第九八號) 一六六
各地方長官宛警保、土木兩局長通牒

◎道路取締令ニ關スル件(大正九年十二月二十三日發警第三) 一七〇
五八號各地方長官宛警保局長通牒

◎交通取締ニ關スル件(大正十年十二月十三日發警第四三) 一七四
四號各地方長官宛警保局長通牒

◎道路警戒標及道路方向標ニ關スル件(大正十一年十一月九日) 一七五
日內務省令第二七號

◎道路標識建設ニ關スル件(大正十一年十一月九日發土第一二八號) 一八〇
各地方長官宛地方、土木兩局長通牒

第五十條 沿道ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

◎道路法第五十條ノ規定ニ依ル道路ノ沿道ノ區域ニ關スル件(大正十一年七月三十一日) 一八〇
日內務省訓令第一六號

第五章 監督及罰則

第五十一條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ管理者ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル許可承認ヲ取消シ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、道路ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築除却セシメ若ハ之ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

- 一 道路ニ關スル法令ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 道路ニ關スル法令ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ノ條件ニ違反シタルトキ

- 三 詐欺ノ手段ヲ以テ道路ニ關スル法令ノ規定ニ依ル許可ヲ得タルトキ
- 四 道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキ
- 五 公益上必要ト認ムルトキ

前項第五號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ管理者ハ道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ主務大臣カ第二十九條ノ規定ニ依リテ其ノ爲シタル許可若ハ承認ヲ取消シ、其ノ效力ヲ停止シ又ハ其ノ條件ヲ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 左ニ掲ケル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ハ第一號ニ在リテハ行政廳ニ於テ、其ノ他ニ在リテハ管理者ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ主務大臣ハ輕易ナル事件ニ限り命令ヲ以テ認可ヲ受ケシメサルノ定ヲ爲スコトヲ得

- 一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト
- 二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト
- 三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト
- 四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト
- 五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ヲ爲スコト
- 六 第二十五條ノ規定ニ依リ他ノ工事ヲ執行スルコト

- 七 第二十七條ノ規定ニ依リ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設ケルコト
- 八 第二十八條ノ規定ニ依リ道路ノ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ道路ノ占用料ヲ徵收スルコト
- 九 第三十七條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ費用ヲ負擔セシムルコト
- 十 前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコト

◎道路法第五十二條但書ノ規定ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セサル件 (大正九年三月三十日內務省令第六號) 一八〇

◎府縣道(地方費道)ノ路線認定申請ニ關スル件 (大正八年十一月十九日發土第一五號) 一八五

◎府縣道路路線認定認可ノ件 (大正十五年八月七日發土第三八號) 一八八

◎道路法改正法律施行ニ伴フ府縣道路路線認定ニ關スル件 (大正十一年八月二十二日內務省秘第八〇號) 各地方長官宛土木局長通牒 (一八八)

◎路線認定ノ變更又ハ廢止ニ關スル件 (大正九年五月三十一日發土第四三號) 各地方長官宛土木局長通牒 (一九四)

◎道路上ニ軌道敷設ニ關スル件 (大正十三年七月十九日發甲第二〇號) 各地方長官宛土木、監督兩局長通牒 (一九五)

◎指定府縣道採擇標準 (大正十五年九月決定) 一九五

◎內務大臣ノ指定シタル府縣道 (大正十五年九月一日內務省訓令第八三二號) 一九六

◎國道及指定府縣道ノ些少ナル區間(大正十五年六月於土) 一九六

◎道路橋梁ノ構造認可ニ關スル件(大正九年十月十五日發土第一二) 一九七

第五十三條 監督官廳ハ監督上必要ト認ムルトキハ前條ノ行政廳又ハ管理者ニ對シ前條各號ニ掲クル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ヲ命シ其ノ他命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 行政執行法第五條及第六條ノ規定並之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ管理者力強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ義務ニ屬スル負擔金、占用料、橋錢、渡錢其ノ他ノ費用ハ管理者國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位並其ノ追徵還付及時效ニ付テハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル

◎道路法ニ基ク收入金ニ付督促手数料徵收ニ關スル件

(大正十三年二月十五日東土第四七號) 二〇二

第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 許可ヲ得スシテ道路若ハ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路若ハ其ノ附屬物ヲ占用シタル者

二 許可ヲ得スシテ橋梁又ハ渡船場ノ使用ニ對シ橋錢、渡錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者

三 道路ノ使用ニ對シ路錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者

四 詐欺ノ手段ヲ以テ許可ヲ得タル者

五 正當ノ事由ナクシテ第四十六條ノ規定ニ依ル管理者ノ命ニ從ハサル者

六 第四十八條又ハ第二條及第四十八條ノ規定ニ違反シテ道路又ハ其ノ附屬物ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲ササル者

第六章 訴願及訴訟

第五十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第五十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五十九條 第四十七條ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ補償ニ不服アルトキハ通知後六月内ニ、同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケサル場合ニ於テハ其ノ期間經過後六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第七章 雜 則

第六十條 本法中府縣、府縣知事、府縣廳又ハ府縣道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ道、道廳長官、道

廳又ハ地方費道ニ關シ市、市長、市役所又ハ市道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ區、區長、區役所又ハ區道ニ關シ郡役所ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ支廳、島ニ付テハ島廳ニ關シ之ヲ適用ス

第六十一條 北海道ニ付テハ道路ノ種類、等級及路線ノ認定並第三十三條乃至第三十六條、第四十三條、第四十四條及第五十二條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

◎北海道道路令(大正八年十一月二十一日勅令第四七三號) 二〇三

第六十二條 道路ノ路線ノ認定ノ變更廢止其ノ他ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタ道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件並材料器具機械等ノ管理及處分ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ變更廢止ノ場合ニ於テ道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件ハ勅令ヲ以テ定ムル期間ノ滿了スル迄第六條ノ規定ヲ之ニ準用シ土地收用法中第六十六條ノ規定及之ヲ準用スル規定ノ適用ニ付テハ不用ニ歸セサルモノト看做ス

◎道路法第六十二條ノ規定ニ依ル不用物件等ノ管理及處分ニ關スル件

(大正八年十一月二十一日勅令第四七四號) 二〇六

◎道路法ニヨリ認定セサル道路ノ公用廢止ニ關スル件

(大正九年七月三日乙第三三號) 二〇八

◎道路區域ノ變更ニ因リ不用ニ歸シタル土地處分ニ關スル件

(大正十一年十一月八日乙第八二號) 二〇九

第六十三條 左ニ掲クル法令ノ規定ハ本法ニ依ル道路ニ關シ之ヲ適用セス

- 一 明治四年十二月十四日布告治水修路架橋等運輸ノ便利ヲ興ス者ニ税金取立方許可ニ關スル件
- 二 明治十一年七月二十二日達郡區町村編制府縣會規則地方稅規則施行順序ニ關スル件第十二項
- 三 明治十二年二月二十七日達河港道路堤防橋梁費ヲ舊慣ニ因リ支辨シ得ル件
- 四 陸地測量標條例第二條
- 五 水路測量標條例第二條
- 六 電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條
- 七 軍用電信法第四條第二項ノ規定ニ依リ準用スル電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條
- 八 河川法第十條第二項、第十一條及第三十二條
- 九 砂防法第八條及第十六條
- 十 私設鐵道法第四十二條
- 十一 輕便鐵道法第五條ノ規定ニ依リ準用スル私設鐵道法第四十二條
- 十二 電氣事業法第九條
- 十三 大正三年法律第三十七號

附 則

第六十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◎道路法施行期日ノ件(大正八年十一月四日勅令第四五九號) 二〇九

第六十五條 左ニ掲クル法令ハ之ヲ廢止ス

- 一 明治五年第三百二十五號布告
- 二 明治六年第四百十六號布告
- 三 明治六年第四百十三號達
- 四 明治九年第六十號達
- 五 明治十八年第一號布達
- 六 明治二十年勅令第二十八號

第六十六條 本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス

第六十七條 本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケルモノト看做ス但シ管理者ハ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス但シ管理者ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ六月ヲ下ラサル期間ヲ指定シ其ノ期間經過後ハ許可又ハ承認ノ效力ヲ失フヘキ旨ヲ告示スルコトヲ得

◎道路占用ニ關スル件 (大正九年六月二十九日內務省東土第一九) 二〇九

◎電氣事業ノ爲ニスル報償契約ノ件 (大正九年十月八日遞地第一〇) 二一〇

第六十八條 本法施行前爲シタル處分ニ關スル訴訟願又ハ行政訴訟ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (大正十一年三月法律第三號追加)

本法中第二十條、第三十三條、第四十三條及第六十條ノ改正規定ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム其ノ

他ノ規定ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎大正十一年法律第三號改正法律施行ノ件 (大正十一年八月十七) 二一一

◎道路法施行令 (大正八年十一月四) 改 (大正十一年八月十七) (大正十五年六月三十)

第一條 削除 (大正十五年六月勅令第二四一號)

第二條 府縣道以下ノ道路ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲サムトスルトキハ府縣道ニ付テハ府縣會、市道ニ付テハ市會、町村道ニ付テハ町村會ニ之ヲ諮問スヘシ但シ重要ナラサル變更又ハ廢止ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル諮問ハ道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル府縣道ニ付テハ府縣會及市會ニ之ヲ諮問スヘシ

◎道路ノ路線認定ノ諮問其ノ他ニ關スル件 (大正九年三月十三日甲第四號) 二一一

◎道路路線ノ認定ヲ參事會ニ諮問ノ件 (大正十年五月五日乙第一號) 二一三

◎府縣道路路線認定ニ關スル諮問ノ件 (大正十一年五月九日發土第四五號) 二一三

◎道路ノ路線ノ認定ノ諮問ニ關スル件 (大正十五年四月二十三日發土第一) 二一四

第三條 國道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ
第四條 府縣道以下ノ道路ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第五條 市町村長道路法第十五條ノ規定ニ依リ市道町村道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地元市町村長ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六條 前三條ノ告示ニハ路線名並路線ノ起點終點及重要ナル經過地ヲ表示スヘシ

第七條 府縣廳、師團司令部、鎮守府又ハ市役所ノ所在地ヲ國道又ハ府縣道ノ路線ノ起點終點ト爲スト

キハ市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ依ルヘシ

第八條 東京市ニ於ケル道路元標ノ位置ハ日本橋ノ中央トス

市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ハ前項ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣知事之ヲ定ム

第九條 道路元標ハ各市町村ニ一箇ヲ置ク

道路元標ノ様式ハ内務大臣之ヲ定ム

道路元標ハ管理者之ヲ建設スヘシ等級ヲ異ニスル道路ニ係ルモノナルトキハ上級道路ノ管理者之ヲ建設スヘシ

◎道路元標ニ關スル件 (大正十一年八月十八日) 二一四
日内務省令第二〇號

第十條 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定メタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ
内務大臣ノ指定スル道路附屬物ノ區域ヲ定メタルトキ亦同シ

◎道路法施行令ニ基キ道路附屬物指定ノ件 (大正九年三月二十五日) 二一六
内務省告示第二三號

第十條ノ二 内務大臣道路法第二十條第二項ノ規定ニ依リ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲ストキハ豫メ官報ヲ以テ其ノ道路ノ路線名、區間及工事開始ノ期日ヲ告示スヘシ
前項ノ國道ノ新設又ハ改築ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ終了スルトキハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ告示スヘシ

第十一條 道路ノ供用ヲ開始シ又ハ廢止スルトキハ管理者タル行政廳ハ豫メ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ内務大臣ノ指定スル道路附屬物ノ供用ヲ開始シ又ハ廢止スルトキ亦同シ

第十二條 道路法第二十六條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ許可又ハ承認シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ設置者並橋錢又ハ渡錢ノ額及徵收期間ヲ告示スヘシ同法第二十七條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルトキ亦同シ

第十三條 左ニ掲グルモノニ付テハ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スルコトヲ得ス

- 一 軍隊
- 二 演習中ノ軍人軍屬
- 三 召集令狀若ハ召集傳達書ヲ所持シ應召ノ爲通行スル軍人又ハ召集令狀配達人

四 簡閱點呼令狀若ハ簡閱點呼傳達書ヲ所持シ簡閱點呼ニ參會スル爲通行スル軍人又ハ簡閱點呼令狀配達人

五 徵發ニ關スル令書配達人

六 徵發人夫及其ノ引率人

七 徵發物件及其ノ運搬人

八 勤務中ノ憲兵又ハ警察官吏

九 護送中ノ囚人又ハ刑事被告人及其ノ護送人

十 水火災警防ノ爲又ハ其ノ演習ノ爲通行スル當該官吏吏員又ハ一定ノ服裝ヲ爲シタル消防夫水防夫

十一 尋常小學校ニ往復ノ兒童

十二 受持區内ニ勤務中ノ修路工夫

第十四條 橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル者ハ徵收ノ場所ニ左ニ掲クル事項ヲ榜示スヘシ

一 設置者

二 橋錢又ハ渡錢ノ額

三 徵收期間

四 橋錢又ハ渡錢ヲ徵收セサル場合

第十五條 道路臺帳ヲ調製シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ其ノ旨ヲ告示スヘシ利害關係人ハ道路臺帳ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 他ノ工作物ト效用ヲ兼メル道路ニ關シ告示スヘキ事項ハ道路法第十八條第二項ノ規定ニ依リ他ノ工作物ノ管理者タル行政廳ヲ以テ道路及工作物ノ管理者ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ管理者同法第十七條ノ規定ニ依リ管理者タルヘキ行政廳ニ之ヲ通知シ通知ヲ受ケタル行政廳本令ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第十七條 第五條ノ規定ハ道路法第十五條若ハ第十八條第一項ノ規定ニ依ル道路ニ關シ第十條、第十一條、第十二條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合又ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル道路ニ關シ前條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 道路法第四十五條ノ規定ニ依ル通知ハ三日前ニ場所及日時ヲ指定シ之ヲ爲スヘシ
道路法第四十五條ノ規定ニ依リ邸内ニ立入ル場合ニ於テハ日出前日没後ハ占有者ノ意ニ反シテ立入ルコトヲ得ス

第十九條 道路ノ路線ノ認定者及道路ノ管理者ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ監督ス

一 市町村長認定者又ハ管理者ナルトキハ第一次ニ府縣知事、第二次ニ內務大臣

二 前號ニ規定スル以外ノ者認定者又ハ管理者ナルトキハ內務大臣

◎道路法第十八條第一項ニ依ル管理者ニ對スル第一次監督官廳ニ關スル件

(大正十一年十二月一日甲第一七) 二一六
號岩手縣知事宛土木局長通牒

第二十條 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更、廢止若ハ取消ハ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
一 市長ヲ以テ管理者トスル國道又ハ府縣道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト

- 二 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二府縣以上ニ互ル路線ヲ認定スルコト
- 三 道路法第二十四條ノ規定ニ依ル承認ヲ府縣ニ對シ爲スコト
- 四 道路法第十七條但書ノ市ノ市内道路ニ關シ同法第三十九條又ハ第四十條ノ規定ニ依リ負擔セシムル費用ノ負擔方法ヲ定ムルコト
- 五 道路法第三十七條又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ國ニ費用ヲ負擔セシムルコト
- 第二十一條 削除(大正十五年六月勅令第二四一號)
- 第二十二條 前二條ニ規定スルモノヲ除クノ外道路法第五十二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘキモノニ付テハ第一次監督官廳ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第二十三條 北海道ニ於テ支廳ノ所在地ヲ地方費道ノ路線ノ起點終點ト爲ストキハ市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ依ルヘシ
- 北海道ノ道路ノ路線ノ認定者又ハ管理者町村長ナルトキハ第一次ニ支廳長、第二次ニ道廳長官、第三次ニ内務大臣之ヲ監督ス
- 北海道ノ道路ニ付左ニ掲ケル事項又ハ其ノ變更、廢止若ハ取消ハ道廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ
- 一 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二市支廳管内以上ニ互ル道路ノ路線ヲ認定スルコト
- 二 道路法第三十七條又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ道ニ費用ヲ負擔セシムルコト
- 前三項ニ規定スルモノノ外北海道ニ付テハ本令中府縣、府縣知事、府縣廳、府縣會又ハ府縣道ニ關スル規定ヲ道、道廳長官、道廳、道會又ハ地方費道ニ關シ適用ス

附 則

- 第二十四條 本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 - 第二十五條 道路法施行ノ際認定スヘキ國道ノ路線ニ關シ豫メ道路會議ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス
 - 第二十六條 道路法施行ノ際認定スヘキ府縣道又ハ地方費道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會又ハ道會ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス郡道、市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ノ諮問ニ付亦同シ
 - 第二十七條 市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ニ付テハ道路法施行ノ際ニ限り第六條ノ規定ニ拘ラス平面圖ヲ公衆ノ縦覽ニ供シ其ノ旨ヲ告示スルコトヲ得
 - 前項ノ平面圖ニハ路線ノ位置並路線ノ交叉點及兩端ノ地番若ハ地先地番ヲ表示スヘシ別ニ地番調書ヲ作製シ平面圖ニ添附スルコトヲ妨ケス
 - 第二十八條 市區町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ付本令施行前道廳長官又ハ府縣知事ノ定メタルモノハ本令ニ依リ定メタルモノト見做ス
- 附 則 (大正十一年八月勅令第三八四號)
- 本令中第十條ノ二ノ規定並第十七條及第二十三條ノ改正規定ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス其ノ他ノ規定ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年法律第三號中第十一條ノ改正規定施行ノ際認定スヘキ府縣道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會ニ諮問シタルモノハ道路法施行令第二條ノ規定ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

附 則 (大正十五年六月) 勅令第二四一號

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎認定セサル從來ノ道路敷處分ニ關スル件 (大正九年十月二十八日第四〇二號枋) 二一七
(木縣知事宛地理課長土木局長回答)

◎耕地整理法中道路ノ意義ニ關スル件

(大正九年十二月二十日農局第一九四七號各地) 方長官宛農商務省農務局長、土木局長通牒

道路法ニ於テ道路ト稱スルハ一般交通ノ用ニ供スルコト及行政廳ニ於テ其ノ路線ヲ認定シタルモノナルコトノ二個ノ條件ヲ具備スルコトヲ要シ其ノ一ヲ缺クトキハ道路法ノ適用ヲ受クヘキ道路ト稱スルヲ得サルヲ以テ一般道路中ニハ道路法ノ適用ヲ受クヘキ道路ト然ラサルモノトノ二者ヲ併存ス從テ耕地整理法第十一條ニ所謂道路中ニモ右二者ヲ包含スル義ニ候條爲念及通牒候也

追テ本文耕地整理ニ依リ生スル道路ニシテ道路法ノ適用ナキモノハ可成速ニ道路法ニ依リ路線ヲ認定シ道路ノ管理ヲ統一スル様御配慮相成度

◎耕地整理法上ノ道路ト道路法上ノ附屬物ニ關スル件

(大正十一年一月二十五日一〇來第一九) 號農商務省食糧局長宛土木局長回答

本年十一月二十日食局第九三號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處道路法ニ於テハ道路其ノモノト道路ノ附屬物トハ之ヲ區別致居候得共耕地整理法ニ於ケル道路ハ御意見ノ如ク附屬物ヲモ包含スルモノト存候

農商務省食糧局長照會 (大正十年十一月二) 十日食局第九三號

道路法ニ於テ道路ノ附屬物ハ道路ト其ノ取扱ヲ異ニシ就中道路ノ路線ノ認定ノ變更又ハ廢止ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路ノ附屬物ヲ構成シタル物件ハ道路法第六十二條ニ依リ處分スヘキ義ニ有之候モ耕地整理法第十一條ノ關係ニ於テハ從來道路中ニハ其ノ附屬物ヲモ包含シ從テ道路ノ變更廢止ニ依リ不用ニ歸シタル附屬物ハ其ノ道路ト共ニ無償ニテ之ヲ整理施行地ノ所有者ニ交付シ又廢止シタル道路ニ代ルヘキ道路ノ附屬物ハ其ノ道路ト共ニ無償ニテ國有ニ編入スルコトニ取扱來候道路法ニ於テ不用ニ歸シタル道路ノ附屬物ヲ道路管理者ヲシテ處分セシムルハ主トシテ道路ノ新設、改築修繕及維持管理ニ要スル費用ヲ其ノ道路管理者ニ於テ負擔スル爲ニ有之候ハ耕地整理ニ依リ道路ノ變更廢止ヲ爲ス場合ニ於テハ道路法施行後ト雖從來ト取扱ヲ異ニスヘキモノニ無之ト被存候モ爲念貴見承知致度此段及照會候也

◎道路法第七條ノ規定ニ依ル同法ノ規定ノ準用等ノ件

(大正八年十一月二十
六日勅令第四七一號)

第一條 道路法第二十八條、第二十九條、第四十四條、第四十六條、第四十七條、第四十九條、第五十
一條乃至第五十三條、第五十六條及第五十九條ノ規定並道路法施行令第二十二條ノ規定ハ道路又ハ其
ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用ス

第二條 道路法第四十五條、第四十七條、第四十九條及第五十九條ノ規定並道路法施行令第十八條ノ規
定ハ沿道ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎國道路線認定ノ件 (大正九年四月一日内務省告示第二八號)

大正九年十一月内務省告示第一〇五號、十一年三月同第五七號、同年八月同第二
〇〇號、同年十二月同第三四七號、十四年十月五日同第一六七號、十五年六月六
日同第八三號、昭和二年七月同第三八二號、同年十一月同第四七〇號、三年五月
四日同第一一二號及第一一三號、同年六月四日同第一二五號、同年十月二十六日
同第二九六號

一號 東京市ヨリ神宮ニ達スル路線
經過地

横濱市(青木町字宮洲町經由) 神奈川縣足柄下郡箱根町 靜岡縣田方郡三島町 靜岡市 濱松市
豐橋市 岡崎市(八丁橋經由) 名古屋市 四日市市 三重縣三重郡日永村 津市(宇治山田市宮川
町通經由)

二號 東京市ヨリ鹿兒島縣廳所在地ニ達スル路線(甲)

經過地

一號路線(三重縣三重郡日永村ニ於テ分岐) 三重縣鈴鹿郡龜山町 關町 滋賀縣栗太郡草津町 大
津市 京都市(下京區烏丸通ヨリ七條通ニ至リ西折シテ大宮通經由) 大阪市(葭屋橋、淀屋橋、大
江橋、西成大橋經由) 大阪府西成郡歌島村 兵庫縣川邊郡小田村 尼崎市 兵庫縣武庫郡鳴尾村
瓦木村 西宮市 本山村 魚崎町 住吉村 御影町 神戸市(葦合北本町通同小野柄通、大開通經
由) 明石市 姫路市(福澤町經由) 兵庫縣飾磨郡餘部村 岡山市 岡山縣小田郡笠岡町 福山市
廣島縣安藝郡海田市町 廣島市 山口縣吉敷郡小郡町 下關市(西細江町經由) 門司市 小倉市
福岡市 佐賀縣三養基郡田代村 久留米市 福岡縣三井郡國分村 熊本市 熊本縣葦北郡水俣町

三號 東京市ヨリ鹿兒島縣廳所在地ニ達スル路線(乙)

經過地

二號路線(小倉市大阪町ニ於テ分岐) 福岡縣企救郡企救町 大分縣下毛郡中津町 速見郡御越町大
字龜川(海岸經由) 別府町大字脇濱 大分市 宮崎縣宮崎郡宮崎町 田野村 北諸縣郡都城市
四號 東京市ヨリ北海道廳所在地ニ達スル路線

經過地

(東京市日本橋區本石町三丁目經由) 東京府南足立郡千住町 宇都宮市 福島市 宮城縣名取郡岩沼町 仙臺市(廣瀨橋、東二番町經由) 盛岡市 青森縣三戸郡野澤村 青森市 函館市 小樽市 五號 東京市ヨリ青森縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

四號路線(福島市本町ニ於テ分岐) 米澤市 山形市 秋田市 弘前市 六號 東京市ヨリ宮城縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

四號路線(東京府南足立郡千住町ニ於テ分岐) 水戸市 宮城縣名取郡岩沼町 四號路線

七號 東京市ヨリ千葉縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

四號路線(東京市日本橋區淺草橋南橋詰ニ於テ分岐) 千葉縣東葛飾郡市川町

八號 東京市ヨリ山梨縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

一號路線(東京市日本橋區通一丁目ニ於テ分岐) 八王子市 神奈川縣津久井郡小原町 山梨縣北都留郡上野原町

留郡上野原町

九號 東京市ヨリ群馬縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

四號路線(東京市日本橋區本石町三丁目ニ於テ分岐) 東京府北豐島郡板橋町 埼玉縣北足立郡浦和町 高崎市

町 高崎市

十號 東京市ヨリ秋田縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

九號路線(高崎市本町ニ於テ分岐) 長野縣北佐久郡西長倉村 長野市 長野縣上水内郡若槻村 同縣水内郡飯山町 新潟縣北魚沼郡小千谷町 長岡市 新潟市 新潟縣北蒲原郡新發田町 山形縣西田川郡鶴岡町 同縣飽海郡酒田町 秋田縣由利郡本莊町

十一號 東京市ヨリ石川縣廳所在地ニ達スル路線(甲)

經過地

十號路線(長野縣上水内郡若槻村ニ於テ分岐) 高田市 新潟縣中頸城郡直江津町 富山縣下新川郡入善町 富山市(新大橋經由) 高岡市(金澤市姫通經由)

經過地

十二號 東京市ヨリ石川縣廳所在地ニ達スル路線(乙)

經過地

一號路線(名古屋市南區熱田市場町ニ於テ分岐) (名古屋市西區南外堀町通景雲橋、明道町經由)

經過地

岐阜縣稻葉郡加納町 同縣安八郡和合村 大垣市 岐阜縣不破郡關ヶ原村 滋賀縣伊香郡木之本町 鹽津村 福井縣敦賀郡敦賀町 福井市(幸橋經由)

十三號 東京市ヨリ岐阜縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

十二號路線(岐阜縣稻葉郡加納町ニ於テ分岐) (岐阜市神田町通經由)

十四號 東京市ヨリ京都府廳所在地ニ達スル路線

經過地

十號路線(長野縣北佐久郡西長倉村ニ於テ分岐) 長野縣諏訪郡下諏訪町 同縣西筑摩郡福島町 岐

阜縣可兒郡御嵩町 同縣稻葉郡加納町 十二號路線(岐阜縣不破郡關ヶ原村ニ於テ分岐) 滋賀縣栗

太郡草津町 二號路線

十五號 東京市ヨリ奈良縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

二號路線(京都市下京區七條通ニ於テ分岐) (京都市本町通經由) 京都府紀伊郡深草町、伏見町同

府久世郡宇治町

十六號 東京市ヨリ和歌山縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

二號路線(大阪市東區難波橋南橋詰ニ於テ分岐) 堺市

十七號 東京市ヨリ山口縣廳所在地ニ運スル路線(甲)

經過地

二號路線(山口縣吉敷郡小郡町ニ於テ分岐)

十八號 東京市ヨリ山口縣廳所在地ニ達スル路線(乙)

經過地

二號路線(京都市下京區大宮通ニ於テ分岐) 京都府天田郡下豐富村 兵庫縣朝來郡枚田村 鳥取市

(吉方經由) 松江市 島根縣那賀郡濱田町

十九號 東京市ヨリ島根縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

二號路線(岡山市萬町ニ於テ分岐) 岡山縣御津郡伊島村 同縣久米郡福渡村、大倭村 同縣真庭郡

久世町 鳥取縣西伯郡米子町 十八號路線(松江市豐町ニ於テ分岐)

二十號 東京市ヨリ鳥取縣廳所在地ニ達スル路線

經過地

二號路線(兵庫縣飾磨郡餘部村ニ於テ分岐)

二十一號 東京市ヨリ德島縣廳所在地ニ達スル路線(甲)

經過地

二號路線(明石市西本町ニ於テ分岐) 兵庫縣津名郡岩屋町 德島縣板野郡撫養町

二十二號 東京市ヨリ德島縣廳所在地ニ達スル路線(乙)

經過地

二號路線(岡山市西大寺町ニ於テ分岐)(岡山市下田町經由)岡山縣兒島郡宇野町 高松市 香川縣大川郡津田町 德島縣板野郡板西町

二十三號 東京市ヨリ高知縣廳所在地ニ達スル路線
經過地

二十二號路線(高松市兵庫町ニ於テ分岐)丸龜市 香川縣仲多度郡龍川村、善通寺町、琴平町 德島縣三好郡池田町

二十四號 東京市ヨリ愛媛縣廳所在地ニ達スル路線
經過地

二十三號路線(香川縣仲多度郡龍川村ニ於テ分岐)愛媛縣宇摩郡川之江町

二十五號 東京市ヨリ長崎縣廳所在地ニ達スル路線
經過地

二號路線(佐賀縣三養基郡田代村ニ於テ分岐)佐賀市 佐賀縣杵島郡武雄町

二十六號 東京市ヨリ沖繩縣廳所在地ニ達スル路線
經過地

二號路線 鹿兒島港

二十七號 東京市ヨリ第七師團司令部所在地(旭川市)ニ達スル路線(甲)
經過地

四號路線(札幌市北一條通ニ於テ分岐)北海道空知郡岩見澤町

二十八號 東京市ヨリ第七師團司令部所在地(旭川市)ニ達スル路線(乙)
經過地

四號路線(青森港ニ於テ分岐)室蘭市 北海道空知郡岩見澤町 二十七號路線

二十九號 東京市ヨリ第十四師團司令部所在地(栃木縣河内)ニ達スル路線
經過地

四號路線(宇都宮市材木町ニ於テ分岐)

三十號 東京市ヨリ第十五師團司令部所在地(愛知縣渥美)ニ達スル路線
經過地

一號路線(豐橋市大字札木ニ於テ分岐)

三十一號 東京市ヨリ横須賀鎮守府所在地(横須賀市)ニ達スル路線
經過地

一號路線(横濱市七軒町ニ於テ分岐)神奈川縣久良岐郡金澤村

三十二號 東京市ヨリ吳鎮守府所在地(吳市)ニ達スル路線
經過地

二號路線(廣島縣安藝郡海田市町ニ於テ分岐)

三十三號 東京市ヨリ佐世保鎮守府所在地(佐世保市)ニ達スル路線

經過地

二十五號路線（佐賀縣杵島郡武雄町ニ於テ分岐）

三十四號 東京市ヨリ舞鶴鎮守府所在地（京都府加佐郡中舞鶴町）ニ達スル路線（甲）

經過地

十八號路線（京都府天田郡下豐富村ニ於テ分岐）京都府加佐郡舞鶴町

三十五號 東京市ヨリ舞鶴鎮守府所在地（京都府加佐郡中舞鶴町）ニ達スル路線（乙）

經過地

十二號路線（福井縣敦賀郡敦賀町ニ於テ分岐）

三十六號 東京市ヨリ横濱港ニ達スル路線

經過地

三十一號路線（横濱市本町ニ於テ分岐）

三十七號 東京市ヨリ大阪港ニ達スル路線

經過地

十六號路線（大阪市東區本町二丁目ニ於テ分岐）（大阪市木津川橋經由）

三十八號 東京市ヨリ神戸港ニ達スル路線

經過地

二號路線（神戸市神戸加納町六丁目ニ於テ分岐）

◎國道路線認定ノ件（大正九年十二月二十五日）

（内務省告示第一二五號）

改（大正十一年一月内務省告示第二〇號同年八月）

正（同第二〇一號昭和二年四月五日同第三一一號）

特一號 千葉縣千葉郡津田沼町大字大久保ヨリ印旛郡千代田村大字畔田ニ達スル路線

特二號 神奈川縣足柄下郡溫泉村ヨリ静岡縣富士郡加島村ニ達スル路線

特三號 静岡縣駿東郡富士岡村大字二子ヨリ玉穂村大字瀧ヶ原ニ達スル路線

特四號 愛知縣豊橋市ヨリ渥美郡二川町大字小松原ニ達スル路線

特五號 愛知縣渥美郡高師村ヨリ高豊村大字高塚ニ達スル路線

特六號 愛知縣渥美郡福江町ヨリ伊良湖岬村ニ達スル路線

特七號 愛知縣渥美郡福江町大字畠ヨリ大字中山ニ達スル路線

特八號 長崎縣上縣郡須奈村大字佐護字北里ヨリ同字安保ニ達スル路線

特九號 長崎縣下縣郡雞知村大字鶏知字樽ヶ濱陰ヨリ同字口樽ヶ濱ニ達スル路線

第十號 長崎縣下縣郡雞知村ヨリ竹敷村ニ達スル路線

特十一號 長崎縣下縣郡殿原村ヨリ豆酸村ニ達スル路線

特十二號 山口縣豊浦郡黒井村ヨリ豊西村ニ達スル路線

特十三號 和歌山縣海草郡加太町大字加太ヨリ大字深山ニ達スル路線

特十四號 鹿兒島縣大島郡西方村大島郡西方村大字久慈ヨリ大字西古見ニ達スル路線

- 特十五號 鹿兒島縣大島郡西方村ヨリ東方村ニ達スル路線
- 特十六號 鹿兒島縣大島郡實久村ヨリ鎮西村ニ達スル路線
- 特十七號 佐賀縣藤津郡西嬉野村大字下宿ヨリ長崎縣東彼杵郡千綿村ニ達スル路線
- 特十八號 廣島縣廣島市荒神町ヨリ宇品町ニ達スル路線
- 特十九號 東京府小笠原島父島大村ヨリ扇村ニ達スル路線
- 特二十號 京都府加佐郡志樂村ヨリ東大浦村ニ達スル路線
- 特二十一號 神奈川縣三浦郡南下浦村大字菊名ヨリ大字金田ニ達スル路線
- 特二十二號 大分縣北海部郡佐賀關町大字關字西町ヨリ字福水ニ達スル路線
- 特二十三號 神奈川縣三浦郡田浦町大字浦郷字前田千二百三十三、千二百三十四番地合併地先ヨリ三千三百七十九番地地先ニ達スル路線
- 特二十四號 廣島縣賀茂郡廣村字大新開ヨリ字津久茂ニ達スル路線
- 特二十五號 長崎縣東彼杵郡日宇村福石免ヨリ先邊免ニ達スル路線
- 特二十六號 千葉縣東葛飾郡葛飾村ヨリ塚田村ニ達スル路線
- 特二十七號 靜岡縣駿東郡原里村板妻四百八十五番地先ヨリ同郡須山村百六十五ノ一番地先ニ達スル路線

◎道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ指定ニ關スル件

(大正八年十一月五日勅令第四六一號)

道路法第十七條但書ノ規定ニ依リ左ノ市ヲ指定ス

- 東京市 京都市 大阪市
- 横濱市 神戸市 名古屋市

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎町村組合ノ道路經理ニ關スル件(大正九年九月十七日石局第一一號石)

(川縣知事宛地方、土木兩局長回答)

七月十二日發地第一五四號御照會ノ件御意見ノ通ト存候
追テ御照會ノ場合町村組合ヲ設クルモ道路管理者ハ依然各町村長ナルニ付事務ノ處理上却テ煩雜ヲ來スヘクト存候爲念申添候

石川縣知事照會(大正九年七月十二日發地第一五四號)

道路法ノ規定ニ依レハ國道ヲ除ク外ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者ヲ以テ管理者トシ道路ノ新設改築修繕及維持ハ之ヲ管理者ヲシテ爲サシメ而シテ道路ニ關スル費用負擔ノ義務ハ之ヲ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ニ屬セシメラレ候結果從前町村制第二百二十九條ニ依リ道路ノ經理ヲ目的トシテ設置セル町村組合ノ經理路線ニシテ其ノ全部力道路法ニ依リ新ニ町村道路線ニ認定セラレタルトキハ該町村組合ハ右認定ト同時ニ其存立ノ目的タル事務ノ全部力消滅ニ歸スルモノト認メラレ候然ル處實際道路ノ經理ニ關シテハ路線數町村ノ區域ニ涉リ然カモ各町村ニ共通的ノ利害關係ヲ有シ之ヲ統一經理スルノ必要アルモ

ノ少カラサルヲ以テ此等ニ該當スルモノニ在リテハ既存町村組合ニ於テ道路法第二十四條ニ依リ町村道路管理者ノ許可ヲ得テ道路ノ維持ヲ爲シ得ル義ト存セラレ候而シテ此ノ場合ニ於テハ既存ノ町村組合ハ町村制第三百三十條第一項ニ依リ共同事務ノ變更ヲ爲シ可然尙今後前記ノ事務ヲ目的トシテ新ニ町村組合ヲ設クルコトモ亦支障ナキ様被存候ヘ共一應以上取扱ノ適否ニ關スル御意見承知致度候條何分ノ御回示相煩度候也

◎道路ニ關スル費用負擔事務ノ爲設置セル組合管理者ノ

權限ニ關スル件(大正十一年十月二十五日發甲第四四號北海道廳長官各府縣知事宛土木、地方兩局長通牒)

標記ノ件ニ關シ別紙甲號新潟縣知事ノ伺ニ對シ乙號ノ通回答致置候條御了知相成度

(甲號) 新潟縣知事照會(大正十一年二月二十一日土收第六三一號)

大正八年二月二十日帝國議會(衆議院)道路法委員會ニ於ケル政府委員ノ說明ニ依レハ道路ノ路線ヲ認定シ其ノ道路ノ管理事務ヲ共同處理スルカ爲ニ市町村又ハ町村組合ヲ設ケ得ルモノノ如ク思料セラレルモ市制町村制ノ規定ニ依リ設ケル市町村組合ハ市町村ニ屬スル事務ニ限ラルルモノニシテ市長町村長ノ權限ニ屬スル路線認定及管理事務ヲ目的トスル組合ハ設ケ得サルモノノ如クニモ思料セラレ聊カ疑義有之候ニ付何分ノ御回示相成度此段及照會候也

(乙號) 土木局長回答(大正十一年九月九日新土第七七號)

二月二十一日土收第六三一號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處道路ニ關スル費用負擔事務處理ヲ目的トシ

テ設置セル組合ニ於テハ組合長ハ路線ノ認定及道路ノ管理ノ權限ヲ有スル次第ニ付右様御了知相成度

◎道路ニ關スル事務分任ニ關スル件(大正十一年十月十日東土第三〇六號東京府知事宛土木局長回答)

九月六日戌土甲第三二五號伺出標記ノ件右ハ道路管理者ニ專屬スル事務ニシテ特ニ規定ナキ限リ他ノ者ニ委任スルコトヲ得サル義ト御承知相成度

東京府知事伺(大正十一年九月六日戌土甲第三二五號)

道路法第十五條ニ依リ認定シタル市道ノ道路ニ關スル左記事項ヲ道路法第五十二條及市制第九十四條ニ依リ區長ニ分任方東京市長ヒリ稟請有之候處道路法上管理者又ハ其ノ他ノ機關カ其ノ職權ニ屬スル事項ヲ他ノ者ニ行使セシメ又ハ委任シ得ル場合ハ法第二十一條、第二十二條、第二十三條、第二十八條等ニ規定アリ其ノ他ノ場合ニ於テハ他ノ者ヲシテ絕對ニ行使セシムルヲ得サルヤニ被存候ノミナラス市制第九十四條又ハ第九十八條ニ依リ市長ノ命ヲ受ケ又ハ法令ノ規定ニ依リ區長ノ管理スヘキ事務ハ自ラ其ノ區内ニ屬スル事務ニ限ル義ニシテ法令ニ特別ノ明文ナキ限リハ其ノ區外ニ屬スル事務ヲ掌理シ得ヘキモノニ無之從テ本件ハ之ヲ區長ニ分任シ得サルモノト被存候ヘ共聊カ疑義相生シ候ニ付何分ノ御指揮相仰度此段相伺候也

記

- 一 道路ノ維持修繕ニ關スル事項
- 一 道路法第二十四條ノ處分

- 一 工事ノ爲交通禁止
- 一 道路ノ占用許可又ハ占用料徴收ニ關スル事項

◎道路管理者特別規程

(大正八年十一月二十)改(大正十五年八月二十)六日勅令第四七二號(正)七日勅令第二九二號

第一條 行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ付道路法第十八條第一項ノ規定ニ依リ關係管理者カ其ノ一ヲ以テ管理者ト爲ス必要アリト認ムルトキハ關係管理者ノ協議ニ依リ管理者ト爲ルヘキ者及其ノ管理スヘキ區間ヲ定ムヘシ協議調ハサルトキハ關係管理者タル行政廳ヲ併セテ監督スル行政官廳ノ指揮ヲ請フヘシ

第二條 道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テ道路法第十八條第二項ノ規定ニ依リ道路管理者又ハ工作物管理者カ其ノ一ヲ以テ道路及工作物ノ管理者ト爲ス必要アリト認ムルトキハ道路管理者及工作物管理者ノ協議ニ依リ管理者ト爲ルヘキ者及其ノ管理スヘキ區間ヲ定ムヘシ協議調ハサルトキハ道路管理者及工作物管理者ヲ併セテ監督スル行政官廳ノ指揮ヲ請フヘシ監督行政官廳タル主務大臣異ナルトキハ關係主務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第三條 前二條ニ規定スル監督行政官廳必要ト認ムルトキハ前二條ノ規定ニ拘ラス道路法第十八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ管理者及管理區間ヲ定ムルコトヲ得

第四條 前三條ノ規定ニ依リ管理者及管理區間定リタルトキハ第一條ニ規定スル關係管理者タル行政廳又ハ第二條ニ規定スル道路管理者タル行政廳ハ地方ノ公示式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第一條及第二條ノ規定ニ依リ管理者ヲ協議ニ依リ定メタルトキハ管理者ハ管理スヘキ區間ヲ具シ之ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

附 則
本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル件

(大正九年十二月二十四日乙第三)四號山形縣知事宛土木局長回答

十一月二十四日收土第一八五六號照會標記ノ件左記ノ通御承知相成度

記

一 照會ノ如キ場合ニ於テハ他ノ行政廳ヲシテ新ニ路線ノ認定ヲ爲サシメ法第十八條ノ規定ニ依リ管理スルヲ至當トス

二 法第十五條ノ規定ハ本件ノ如キ場合ニ於テ適用スルハ不可然義ト認ム

山形縣知事伺(大正九年十一月二十四)日收土第一八五六號

行政區劃ノ境界ニ沿ヒタル道路ヲ擴築スル爲道路ノ半側カ他ノ行政區劃内ニ亘ル場合ニ於テハ他ノ行政廳ニ於テ新ニ路線認定ノ手續ヲ爲シ其ノ管理ハ法第十八條ニ依ルヘキ義ナルヤ或ハ道路管理者カ市町村長ナル場合ハ法第十五條ニ基キ他市町村長ノ意見ヲ求メ之ヲ執行シ若シ其路線カ郡道以上ナル場合ハ絶對ニ他ノ區域ニ亘ルヲ許ササル義ナリヤ差當リ事件有之候ニ付何分ノ御答報相煩度及照會候也

◎河川其ノ他ノ工作物ヲ道路ニ供用ニ關スル件

(大正十年一月十日出土第一號各地方長官宛(沖繩縣ヲ除ク)土木局長通牒)

河川法第八條ノ規定ニ依リ當省ニ於テ直接工事ヲ施行スル河川又ハ其ノ附屬物ヲ道路ノ用ニ供スル場合ニ在リテハ所管當省土木出張所長ニ協議ノ上道路新設ノ手續ヲ履行セラレ度尙既ニ道路ヲ開設シタルモノニ對シテモ此際相當協議ノ上河川工作物ト道路ノ效用ニ遺憾ナカラシメラレ度

◎官有道路敷取扱ニ關スル件 (大正十一年三月七日靜土第二八號各地方長官宛(靜岡縣ヲ除ク)土木局長地理課長通牒)

今般標記ノ件ニ關シ靜岡縣知事ニ對シ別紙ノ通回答致候條御了知相成度

靜岡縣知事宛回答

官有道路敷取扱ニ關スル件

大正九年八月十八日土第八二七四號ヲ以テ標記ノ件伺出ノ處

- 一 道路法第六十二條ノ規定ニ依ル不用物件等ヲ處分スル權限ハ先般勅令第四七四號ノ一部改正ニ依リ明確ナラシメタルカ如ク其ノ道路ノ管理者タリシ者ニ屬スルヲ以テ其ノ處分シタル道路敷ノ所有權移轉登記モ亦其者ニ於テ囑託スヘキ義ニ有之候
- 二 新ニ道路ト爲スヘキ土地ヲ官有ニ取得シ其ノ地種目ノ變換ヲ爲スハ道路管理者ノ權限ニ屬スヘキモノニ有之候

三 道路法ニ依リ路線ヲ認定セサル舊道路敷ハ官有地特別處分規則ニ依リ處分スヘキ義ニ有之候

◎土地所有權移轉登記囑託ノ件 (大正十二年六月五日北土第五三號各地方長官宛土木局長會計課長通牒)

道路管理者カ道路ノ敷地ヲ國ニ取得シタル場合ニ於ケル土地所有權登記ノ囑託方ニ關シテハ客年三月七日靜土第二八號ヲ以テ通牒致置候處右ハ今回前通牒ノ通り道路敷地ヲ國ニ取得シタル旨ヲ囑託書ニ明記シ道路管理者ヨリ囑託スルコトニ司法省ト協議決定候條御了知相成度

◎臨時海軍建築部長ヘ商議ノ件 (明治二十九年十一月二十四日內務省訓令第七三三號)

舞鶴軍港附近ニ於テ新ニ道路ヲ設ケ若クハ市街地劃ヲ定メントスルトキハ詳細ナル地圖ヲ添ハ其都度臨時海軍建築部長ヘ商議スヘシ
但既ニ計畫濟ノモノ若ハ着手中ノモノハ本文同様圖面ヲ添ヘ此際通知スヘシ

◎國縣道ノ工事ニ關スル報告ノ件 (明治四十五年七月土第二五二號陸軍次官宛內務次官照會)

國道及假定縣道ノ工事ニ關スル報告書ハ從來及回覽候處事務簡捷上右廢止致度見込ニ候得共貴省ノ御意見如何ヤ承知致度尙右報告書全然廢止ハ支障有之候ハ其必要ナル事項至急御回答相成度此段及照會候也

陸軍省回答 (大正元年八月二十日陸普第一八九號)

國縣道工事竣工報告同覽廢止ノ件ニ關シ去ル明治四十五年七月二十四日土第二五二一號ヲ以テ御照會ノ趣一應了承然ルニ右報告書ヲ全然廢止スルハ調査上支障有之候ニ就テハ概ネ左記様式ニ準シ半年毎ニ取纏メ通牒相成候様致度候也

追テ國縣道並河港ニ關スル著大ノ工事ハ從前ノ通認可前協議相成度爲念申添候

左記

府縣名	道路名稱		區間	新延長	新幅員	新勾配	新曲線 舊半徑	橋梁幅員及長	備考
	何縣	何々街道							
同	何號	自何郡何村至同	何町里	何分間	何分ノ	何間	幅何間 長何間	何年何月改築竣 功何々ノ爲變更	何年何月改築竣 功何村經由ナ何 村經由ニ變更

◎道路法第二十條第二項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ權限ニ關スル件

(大正十一年八月十七日勅令第三八五號)

第一條 道路法第二十條第二項ノ規定ニ依リ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲ス場合ニ於テハ左ニ掲クル道路管

理者ノ權限ハ內務大臣之ヲ行フ

- 一 道路法第十九條ノ規定ニ依リ道路ノ區域ヲ定ムルコト
 - 二 道路法第二十一條及第二十二條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシムルコト
 - 三 道路法第二十四條ニ規定スル道路ニ關スル工事ノ許可又ハ承認ヲ爲スコト
 - 四 道路法第二十五條ノ規定ニ依リ他ノ工事ヲ執行スルコト
 - 五 道路法第四十五條ノ規定ニ依リ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコト
 - 六 道路法第四十六條ノ規定ニ依リ道路附近ニ居住スル者ヲ使役シ、道路附近ノ土地ヲ一時使用シ又ハ土石、竹木其ノ他物品ヲ使用若ハ收用スルコト
 - 七 道路法第四十七條ノ規定ニ依リ補償ヲ爲スコト
 - 八 道路法第五十一條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シ又ハ補償セシムルコト
- 前項ニ規定スル內務大臣ノ權限ハ道路法施行令第十條ノ二ノ規定ニ依リ告示スル工事開始ノ期日ニ始リ其ノ工事廢止又ハ工事終了ノ期日ニ終ル
- 第二條 內務大臣前條第一項第一號ノ規定ニ依リ道路ノ區域ヲ定メタルトキハ之ヲ道路管理者ニ通知スヘシ
- 道路管理者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ道路法施行令第十條ノ規定ニ準シ之ヲ告示スヘシ

附 則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎道路ニ關スル工事取締ニ關スル件(大正十一年七月二十六日發士第八七號各地方長官宛土木局長通牒)

道路ニ關スル工事ハ管理者ニ於テ之ヲ執行スルト其ノ他ノ者ニ於テ管理者ノ許可承認ヲ受ケ之ヲ執行スルトトテ問ハス其ノ施行ニ當リテハ力メテ道路交通上ニ支障ヲ生セサラシムヘキハ勿論ノ義ニ有之候處往々右ノ趣旨ニ副ハサルモノモ有之道路利用上遺憾少カラサルニ付自今左記要項ニ依リ措置相成候様致度尙此旨管下道路管理者ニモ御通達相成度

記

- 一 各起業者カ道路ノ同一箇所ニ於テ各自各別ニ工事ヲ施行スルカ如キコトナキ様豫メ計畫ヲ定メ協定ノ上同時ニ施工スルコト
- 二 道路ノ掘鑿ハ作業上支障ナキ限り可成其ノ範圍ヲ狭小ナラシメ且同時ニ長區間ニ亘リ施行セサルコト尙其ノ工事ハ成ルヘク之ヲ敏速ナラシムルコト
- 三 道路ヲ横斷シテ掘鑿スル場合ハ一側ノ掘鑿ヲ終リ之ニ完全ナル棧橋ヲ架設シタル後他側ノ掘鑿ヲ爲スコト但シ二部ニ分チ施工シ能ハサルトキハ夜間交通杜絶シタル後ニ於テシ日出前迄ニ棧橋ヲ架設スルコト
- 四 人家ノ軒先ニ接近シテ道路ヲ掘鑿スル場合ハ居住者ノ出入ヲ妨ケサル様棧橋ヲ架設スルコト
- 五 掘鑿土砂ハ交通ニ支障ナキ場所ニ搬出シ掘坑附近ニハ成ルヘク之ヲ堆積シ置カサルコト

- 六 掘坑ノ周圍ハ勿論掘鑿土砂又ハ工用物品ヲ置キタル箇所ニハ通行人ニ危險ヲ及ホササル様柵其ノ他ノ設備ヲ爲シ且夜間ハ注意燈ヲ點スルコト
- 七 市内ノ主要ナル道路其ノ他交通頻繁ナル道路ニ於テ工事ヲ執行スルニ當リテハ其ノ工事施行箇所ニ工事施行期間及起業者名(起業者カ府縣又ハ市ナルトキハ其ノ工事ヲ擔當スル部局名)ヲ榜示セシムルコト尙請負者ヲシテ工事ヲ執行セシムルトキハ請負者名ヲモ併記セシムルコト
- 八 道路ノ掘坑ハ成ルヘク速ニ埋戻ヲ爲スコト
- 九 道路埋戻ノ際ハ舊道路ノ構造ト同等以上ニ復舊スルコト但シ特別ナル工法ヲ以テ鋪裝セル道路ノ路面工事ハ起業者ノ負擔ニ於テ道路管理者之ヲ施行スルコト

◎賃取橋梁及渡船場設置ニ關スル件(大正九年七月二十八日內務省令第二三號)

第一條 道路法第二十六條ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ノ圖書ヲ添附スヘシ

- 一 地形圖(接續道路其ノ他ノ道路系統ヲ記入スヘシ)
- 二 工事方法及圖面(橋梁縱斷面圖又ハ渡船位置河川橫斷面圖ニハ接續道路トノ取付關係、河底、平水位及最高水位ヲモ記入スヘシ)
- 三 工費豫算書
- 四 收支豫算明細書
- 五 橋錢又ハ渡錢ノ額

- 六 徵收期間
- 七 元資消却年次表
- 八 工事著手及竣工ノ年月日
- 第二條 道路法第五十二條第三號第五號ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 前條申請書及其ノ添附圖書ノ謄本
- 二 道路法第二十條及第二十七條ノ規定ニ依ルコトヲ得サル事由
- 三 申請人私人ナルトキハ地元公共團體ニ於テ之ヲ經營スルコトヲ得サル事由(管理者ト地元公共團體トノ交渉願末書ヲ添付スヘシ)
- 四 申請人私人ナルトキハ其ノ信用及資産ノ狀態
- 五 許可又ハ承認ニ付スル條件

他ノ法令ニ依リ許可、認可其ノ他ノ手續ヲ要スルトキハ前項ノ認可申請ト同時ニ管理者之ヲ爲スヘシ

第三條 橋梁又ハ渡船場設置ノ許可承認ニ關シ道路法第五十二條但書ノ規定ニ基ク命令ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ要セサルモノハ處分ノ日ヨリ十日内ニ申請書及附屬圖書ノ謄本ヲ添付シ處理ノ要領ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

第四條 橋梁又ハ渡船場ノ工事竣工シタルトキハ工費精算書ヲ添ヘ道路管理者ノ検査ヲ受クヘシ

第五條 管理者ハ橋梁又ハ渡船場ノ工事其ノ他必要ト認ムル事項ヲ隨時監査スヘシ

管理者ハ許可ヲ受ケタル者ニ説明ヲ求メ關係帳簿、書類、圖面等ヲ檢閱スルコトヲ得

第六條 管理者橋錢又ハ渡錢徵收期間中公益上ノ必要ニ依リ道路法第二十六條ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ヲ取消シタルトキハ元資銷却年次表ニ依ル未銷却額ヲ補償スヘシ

道路法第二十六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ國又ハ公共團體ヨリ請求アリタルトキハ許可ニ依リ生スル權利義務ノ移轉ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ國又ハ公共團體ハ前項ノ規定ニ依ル金額ヲ補償スヘシ但シ協議ニ依リ之ニ異ナル補償金額ヲ定ムルコトヲ得

第七條 管理者橋錢又ハ渡錢徵收期間中公益上ノ必要ニ依リ橋錢又ハ渡錢ノ徵收ヲ停止シタルトキハ收支豫算明細書ヲ參酌シテ補償金額ヲ定ムヘシ

第八條 第一條ノ規定ハ道路法第二十七條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ノ設置ニ關スル認可申請ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎貨取橋等整理ニ關スル件(大正九年一月十七日發土第二號各地方長官宛土木局長通牒)

現今私人ノ經營ニ係ル貨取橋ヲ觀ルニ往々營利ノ目的ヲ以テ之ヲ經營セルモノアリ其ノ然ラサルモノニアリテモ收支ノ計算ヲ謬リ免許年限ノ延長ヲ計ルモノアルノミナラス又其ノ維持修繕ヲ怠ルカ爲メ交通上危險ヲ惹起スルノ虞アルモノ少カラサルハ道路改良上極メテ遺憾ノ次第ニ有之候條道路法ノ施行時期

トシ費用負擔團體ノ資力ニ應シ相當之ヲ整理スルノ必要ヲ認ムル次第ニ有之候依テ道路法ニ依リ認定セムトスル府縣道ノ路線中ニ賃取橋賃取渡船場アルトキハ名稱、位置、徵收期限及其ノ路線名ヲ記載シ其整理ニ關スル意見書ヲ添附スヘキ旨客年十一月發土第一五一號ヲ以テ通牒シタル次第ニ有之候處右整理ノ方針ニ付テハ大體左記ノ通決定相成候條右ニ依リ相當御措置相成度

記

- 一 國道及府縣道上ニ存スル賃取橋賃取渡船場ハ道路法第二十七條ノ規定ニ依リ可成管理者ヲシテ之ヲ經營セシムルコト
- 二 郡道町村道上ニ存スル賃取橋賃取渡船場ニ付テモ之ニ準スルコト但シ市内ニ於ケル市道上ニハ賃取橋賃取渡船場ヲ認メサルコト
- 三 管理者ニ於テ之ヲ經營スルコト能ハサル事由アル場合ニ於テハ道路法第二十六條ノ規定ニ依リ郡市町村等ノ地元公共團體ヲシテ之ヲ經營セシムルコト
- 四 前三項ニ依リ難キ事由アル場合ニ非サレハ私人ヲシテ之ヲ經營セシメサルコト

◎國ノ事業ノ爲道路占用協議方委任ノ件(大正十年二月三日 內務省令第四號)

道路法第二十八條第二項ノ規定ニ依リ本大臣ニ協議スヘキ事件中左ニ掲クル事項ニ關係セサルモノハ之ヲ地方長官ニ委任ス

- 一 各廳用電柱建設ノ爲ニスル路面ノ占用

二 道路横斷ニ非サル専用軌道敷設ノ爲ニスル路面ノ占用

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎國ノ事業ノ爲道路占用ニ付協議ニ關スル件(大正十年二月三日發土第一〇號 各地方長官宛土木局長通牒)

今回本省令第四號ヲ以テ標記ノ件委任相成候處之カ承認ニ付テハ大正九年七月當省訓令第十一號ノ趣旨ニ準據シ御措置相成度

◎道路法第二十八條第一項ノ規定ニ依ル占用ノ許可又ハ承認ニ關スル件(大正九年七月一日內務省訓令第一號)

道路法第二十八條第一項ノ規定ニ依ル占用ノ許可又ハ承認ニ付テハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外左ノ定ニ依ルヘシ

- 第一條 道路又ハ其ノ附屬物ノ占用ヲ許可又ハ承認スルハ他ニ相當餘地ナク道路又ハ其ノ附屬物ヲ占用スル緊切ノ必要アル場合ニ限ルヘシ
- 第二條 道路又ハ其ノ附屬物ノ占用ハ本令中特ニ規定スル場合ヲ除クノ外路面側溝及其ノ上下ヲ避ケ法敷其ノ他適當ナル箇所ヲ擇ハシムヘシ
- 占用ニ關スル工事ノ爲既設ノ特殊工作物ノ保持ニ影響ヲ及ホス虞アル箇所ハ之ヲ避ケヘシ但シ之ニ關

シ特別ノ施設ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニアラス

第三條 電線路建設ノ爲路面ヲ占用スルノ必要アル場合ニ於テハ電柱ハ路端ニ之ヲ建設セシメ電線ハ路面上十五尺以上ニ架設セシムヘシ但シ歩車道ノ區別アル箇所ニ於テハ電柱ハ歩道ノ車道側ニ建設セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ引込線ニ限り歩道ノ路面上十五尺以下ニ架設セシムルコトヲ得

第四條 前條ノ規定ニ依リ電柱ヲ建設スル場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ラシムヘシ

- 一 電柱ハ道路ノ同一側ニ建設シ對側ニ路上建設物アルトキハ五間以上錯立セシムルコト
- 二 電柱ハ道路ノ曲角ニ建設セサルコト
- 三 電柱ノ脚釘ハ路面上六尺以下ノ部分ニ取付サルコト

四 地下線路ト架空線路トノ連絡用鐵管ハ電柱ノ道路ニ面セサル側ニ設備スルコト

第五條 街燈建設ノ爲必要アル場合ニ於テハ路端又ハ歩道ノ車道側ヲ占用セシムルコトヲ得

第六條 道路ニ出入スヘキ通路ヲ設クルカ爲必要アルトキハ路端又ハ側溝上ヲ占用セシムルコトヲ得

第七條 標燈又ハ看板ノ類ヲ路面上八尺以上ノ高サニ設クル場合ニ限り二尺以内側溝上又ハ路端上ニ突出セシムルコトヲ得

第八條 家屋橋壁等ノ工事ノ爲必要アル場合ニ限り側溝上又ハ路端ヲ板圍ノ爲占用セシムルコトヲ得

第九條 上水道、下水道、電線路又ハ瓦斯管路等布設ノ爲道路ノ地下ヲ占用スルノ必要アル場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ラシムヘシ

一 本線ハ車道ノ地下ニ支線ハ歩道ノ地下ニ架設スルコト但シ歩車道ノ區別ナキ箇所ニ於テ本線ノ適用ニ付テハ道路幅員ノ中央三分二ヲ車道、兩側各六分一ヲ歩道ト看做ス

二 瓦斯管路ノ本線ト電線路ノ本線トハ道路ノ同一側ニ架設セサルコト

三 下水道ノ本線ハ道路ノ中央ニ上水道ノ本線ハ瓦斯管路ノ本線ト同一側ニ架設スルコト

四 電線路及瓦斯管路ノ引込線ハ直接本線ヨリ分岐セサルコト

五 下水道本線ノ頂部ト路面トノ距離ハ十尺以上タラシムルコト但シ工地上又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ限り三尺迄短縮シ得ルコト

六 上水道電線路及瓦斯管路ノ本線ノ頂部ト路面トノ距離ハ四尺以上タラシムルコト但シ工地上已ムヲ得サル場合ニ限り二尺迄短縮シ得ルコト

七 地下工作物ハ堅牢ニシテ耐久力ヲ有セシムルコト

八 車道ニ架設スル地下工作物ノ耐力ハ道路構造令又ハ街路構造令ニ規定スル橋梁ノ耐力ニ相當セシムルコト

九 地下工作物相互間又ハ地下工作物ト地上建設物トノ距離ハ作業上保安上支障ヲ來ササル限り之ヲ接近セシムルコト

第十條 鐵道、専用軌道其ノ他道路ヲ横斷シテ工作物ヲ架設スル場合ハ左ノ各號ニ依ラシムヘシ

一 工作物ヲ路面ニ架設スルトキハ路面ト高低ナカラシムルコト

二 鐵道又ハ専用軌道カ路面ヲ横斷シテ踏切ヲ設クルトキハ其ノ斜角ハ四十五度ヨリ緩ナラシムルコト

- 三 工作物道路上ヲ横斷スルトキハ路面上十五尺以上タラシムルコト
- 四 工作物ヲ道路ノ地下ニ築設スルトキハ他ノ地下工作物ニ支障ヲ及ボササル限度ニ於テ路面トノ距離ヲ定ムルコト

第十一條 露店又ハ祭典、縁日、歳ノ市、草市、市日、賣出等ノ爲必要ナル施設ニ付テハ特ニ路面ヲ臨時占用セシムルコトヲ得

第十二條 上水道、下水道、電線路又ハ瓦斯管路等布設ノ爲必要アルトキハ橋梁ノ耐力ニ影響ヲ及ボササル範圍ニ於テ橋梁ノ兩側又ハ橋床下ヲ占用セシムルコトヲ得

◎道路ノ占用ニ關スル件(大正九年四月一日遞土第一號各地方長官宛土木局長依命通牒)

遞信省ニ於テ電信電話線路建設ノ爲道路ヲ占用スル場合ニ於テハ別紙要項ニ依ルヘキコトニ協議候條御承知ノ上道路管理者ニ御通達相成度

遞信省所管電信電話線路建設其ノ他ニ關スル要項

第一 線路ノ測量

- 一 線路ノ測量ヲ爲サムトスルトキハ相當日數前其ノ區間及期日ヲ關係地方長官ニ通知シテ官吏、吏員ノ現場立會ヲ求ムルコト地方長官其ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ道路管理者ニ通知スルコト
- 二 前項ノ官吏吏員立會ヲ爲ササルトキハ便宜工事擔當官限リ測量ヲ行ヒ其ノ旨ヲ通知スルコト

- 三 前二項ニ依リ測量シタル後關係地方長官ヨリ要求アリタルトキハ必要ニ應シ現場ニ就キ説明シ若シ支障アルトキハ速ニ測量換ヲ爲スコト
- 四 建柱位置(支柱支線ヲ含ム)ヲ定メタルトキハ其ノ位置ヲ標識シ置クコト

第二 線路ノ建設

甲 架空線路

- 一 電柱(支柱支線ヲ含ム)建設ノ際ハ著手工事擔當官ヨリ直接關係地方長官ニ通知スルコト
- 二 電柱建設ノ際ハ一般交通ニ最モ支障少ナカラシムルコト
- 三 道路ヲ占用シテ電柱ヲ建設スル場合ニ於テ相當法敷(側溝法敷ヲ除ク)在ルトキハ之ヲ利用シ相當法敷ナキ場合ニ於テノミ路端ニ之ヲ建設スルコト
- 四 前項ノ場合ニ於テハ電柱ハ道路ノ同一側ニ之ヲ建設シ其ノ電柱ノ對側ニ電柱郵便函其ノ他ノ建設物アルトキハ可成五間以上錯立セシムルコト
- 五 道路ノ曲角ニハ電柱ヲ建設セサルコト已ムヲ得スシテ道路ノ曲角ニ電柱ヲ建設スル場合ニ於テハ特ニ注意シテ其ノ占用面積ヲ少クシ交通ノ支障ヲ最モ少ナカラシムルコト
- 六 電線路ハ道路面ヨリ十五尺以上ノ高サヲ保タシムルコト特別ノ事由アル場合ニ於テハ引込線ニ限リ交通ニ支障ナキ程度ニ於テ其ノ高サヲ低減スルヲ得ルコト
- 七 道路ニ建設スル電柱ノ脚釘ハ通行者ニ危險ナカラシムル爲地上六尺以下ノ部分ニハ之ヲ取付ケサルコト

八 電柱建設ノ爲道路ヲ掘鑿シタルトキハ地下線ノ埋設ニ準シ相當措置スルコト

乙 地下線路

一 地下線路ノ工事ノ施行ニ付テハ一般交通ニ最モ支障尠カラシムルコト

二 地下線路ハ一旦埋設シタルトキハ屢掘鑿スルカ如キコトナキ様長期ノ計畫ヲ定メ施工スルコト

三 地下線路ハ幅員狭キ道路ヲ避クルコト

四 地下線路ト架空線路トノ連絡用鐵管ハ交通ノ妨害トナラサル様成ルヘク電柱ノ道路ニ向ハサル側ニ設備スルコト

五 地下線路ヲ橋梁ニ架設シタル場合ニ於テ其ノ橋梁ノ改築又ハ修繕ノ爲地下線路ノ移轉ヲ要スルトキハ其ノ工事及費用ニ付テハ道路管理者豫メ當該官廳ト協議スルコト

六 地下線ノ埋設ニ付テハ左記各號ニ依ルコト
(イ) 道路ノ掘鑿ハ作業上支障ナキ限り可成其ノ範圍ヲ狭少ナラシメ且同時ニ長區間ニ亘リ施工セサルコトトシ尙其ノ工事ハ成ルヘク之ヲ敏速ナラシムルコト

(ロ) 道路ヲ横斷シテ掘鑿スル場合ハ一側ノ掘鑿ヲ終リ之ニ完全ナル棧橋ヲ架設シタル後他側ノ掘鑿ヲ爲スコト但シ二部ニ分チ施工シ能ハサルトキハ夜間交通杜絶シタル後ニ於テ日出前迄ニ棧橋ヲ架設スルコト

(ハ) 人家ノ軒先ニ接近シテ道路ヲ掘鑿スル場合ハ居住者ノ出入ヲ妨ケサル様棧橋ヲ架設スルコト
(ニ) 掘鑿土砂ハ交通ニ支障ナキ場所ニ搬出シ掘抗附近ニハ成ルヘク之ヲ堆積シ置カサルコト

(ホ) 掘抗ノ周圍ハ勿論掘鑿土砂又ハ工事用物品ヲ置キタル箇所ニハ通行人ニ危険ヲ及ボササル様柵其ノ他ノ設備ヲ爲シ且夜間ハ注意燈ヲ點スルコト

(ヘ) 道路ノ掘抗ハ成ルヘク速ニ埋戻ヲ爲スコト
(ト) 道路埋戻ノ際ハ舊道路ノ構造ト同等以上ニ復舊スルコト但シ特別ナル工法ヲ以テ鋪裝セル道路ノ路面工事ハ占用者ノ負擔ニ於テ道路管理者之ヲ施工スルコト

第三 路線ノ移轉

一 道路管理者ヨリ線路移轉ノ請求アリタルトキハ占用者ハ遲滯ナク其ノ工事設計及豫算ヲ提示シ工事施工ノ請求アリタルトキハ速ニ工事ヲ施工スルコト
二 道路改築ノ爲電信線路電話線路移轉ノ必要ヲ生スヘキ部分ニ付テハ道路管理者豫メ當該官廳ト協議スルコト

第四 損害補償

一 工事又ハ通信ノ支障ト爲ルヘキ道路ニ關スル工作物、竹木等ノ移轉伐採等ヲ要スルトキハ道路管理者ニ照會シタル上相當處理スルコト
二 前號ノ竹木ノ伐採ヲ爲ストキハ道路管理者ノ立會ヲ求ムルコト
三 前二號ニ依ル損害ノ補償金額ハ協議ノ上之ヲ定ムルコト

第五 現存道路ノ整理

一 現在道路ヲ占用セル電柱ニシテ前各號ニ適合セサルモノハ漸次前各號ニ依ルコトトシ殊ニ建替ノ際

ハ可成之ヲ實行スルコト

逓信省所管電信電話地下工作物施設要項

- 一 本要項ニ於テ地下工作物ト稱スルハ道路面下ニ築造埋設スル郵便、電信、電話、電氣信號、電燈、電力又ハ電氣鐵道用ノ地下線路、上水、下水、瓦斯其ノ他液體氣體ノ輸送管路並交通運輸用ノ地下道ノ類ヲ謂フ
- 二 本要項ニ於テ本線ト稱スルハ起點ヨリ支線ノ分岐點ニ至ル間ノ線路(管路ヲ含ム)ヲ謂ヒ支線ト稱スルハ本線ヨリ引込線ノ分岐點ニ至ル間ノ線路ヲ謂ヒ引込線ト稱スルハ支線ヨリ分岐シ需要場ニ至ル間ノ線路ヲ謂フ
- 三 本要項ハ道路ノ幅員三間未滿ニシテ本要項ニ據リ難キ場合ニハ之ヲ適用セス
- 四 本線ハ車道ニ支線ハ歩道ニ築設スヘシ歩車道ノ區別ナキ道路ハ幅員ノ中央三分ノ二ヲ車道兩側各六分ノ一ヲ歩道ト看做ス
- 五 幅員六間未滿ノ道路又ハ工事上已ムヲ得サル場合ハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得
- 六 瓦斯管路ノ本線ト各種電氣用ノ本線トハ道路ノ同一側ニ築設スヘカラス
- 七 下水道ノ本線ハ道路ノ中央ニ上水道又ハ液體氣體輸送用ノ本線ハ已ムヲ得サル場合ヲ除ク外瓦斯管路ノ本線ト同一側ニ築設スヘシ
- 八 引込線ハ本線ヨリ分岐スヘカラス
- 九 幅員六間未滿ノ道路ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得幅員六間以上ノ道路ト雖上下水道ノ

引込線ハ亦前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

- 十 交通運輸用ノ地下道ノ築設ニ付テハ上部ニ他ノ地下工作物ヲ築造又ハ埋設スルノ餘地ヲ存スヘシ但シ起業者ニ於テ既設地下工作物ヲ整理シ且横斷地下工作物ニ對シ相當ノ設備ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 十一 前項以外ノ地下工作物ノ頂部ト道路面トノ距離ハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス
 - (一) 下水道本線 十尺以上但シ工事上又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ限リ三尺迄短縮スルコトヲ得
 - (二) 其ノ他ノ本線 四尺以上但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ限リ二尺迄短縮スルコトヲ得
- 十二 地下工作物ハ堅牢ニシテ耐久力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス
- 十三 地下工作物ノ耐力ハ道路構造令、街路構造令ニ規定スル橋梁ノ耐力ニ相當スルヲ要ス
- 十四 地下工作物相互間又ハ地下工作物ト地上建設物トノ距離ハ作業上並保安上支障ヲ來ササル限り之ヲ接近セシムヘシ
- 十五 實施方針
 - (一) 既設地下工作物ニ妨ケラレ本要項ヲ適用スルコト能ハサル場合ハ本要項ノ精神ニ從ヒ施行セシムルコト
 - (二) 幅員六間以上ノ道路ニ築設スル地下工作物ニシテ需要場所ニ配給スルモノハ支線ヲ築設セシムルコト

- (三) 支線路ヲ本要項第四ニ依リ歩道ニ築設シ難キ場合ニ於テハ之ニ準スヘキ場所ヲ選ハシムルコト
- (四) 支線路(電信線電話線及下水線路ヲ除ク)ハ保安上支障ナキ限り可成共同溝ト爲サシムルコト
- (五) 支線路(下水線路ヲ除ク)ノ構造ハ溝形式トシ土管「コンクリート」又ハ煉瓦等ヲ以テ構成シ蓋ハ鐵、石又ハ「コンクリート」等ノモノヲ用ヒ之ヲ道路面ト高低ナカラシメ必要アル場合ニ隨時開閉シ得ルノ設備ト爲サシムルコト
- (六) 共同溝内ニハ各種線路相互ノ錯綜ヲ防クヘキ區劃ヲ設ケシムルコト
- (七) 引込線ヲ敷設スルニ當リ甚シク道路ヲ破壞スル虞アル場所ハ共同溝築設ノ際豫メ引込管ヲ分岐シ置キ必要ニ應シ作業シ得ルノ設備ヲ爲サシムルコト

◎道路ノ占用ニ關スル件(大正十年一月三十一日九來第一四號各地方長官宛土木局長通牒)

逓信省ニ於テ郵便函設置ノ爲道路ヲ占用スル場合ニ於テハ別紙要項ニ依ルヘキコトニ協議候條御承知ノ上道路管理者ニ御通達相成度

郵便柱函設置ニヨル道路占用ニ關スル協定

- 第一 郵便柱函ノ設置
 - 一 郵便柱函ヲ道路ニ設置スル場合ニハ歩道(歩車道ノ區別ナキ場合)ハ歩道ニ準スヘキ部分(中其ノ效用ヲ妨ケサル限り)一般交通ニ最モ支障尠キ位置ヲ撰ヒテ設置スルコト
 - 二 郵便柱函ヲ道路ニ設置スル場合ニハ其ノ位置ヲ郵便柱函ヲ所轄スル逓信官署ヨリ五日前道路管理

者ニ通知スルコト

- 三 郵便柱函設置ノ爲メ道路ヲ掘鑿スルニハ作業上支障ナキ限り可成其範圍ヲ狭少ナラシメ其工事ハ可成之ヲ敏速ナラシムルコト
 - 四 掘鑿土砂ハ交通ニ支障ナキ場所ニ搬出スルコト
 - 五 道路埋戻ノ際ハ舊道路ノ構造ト同等以上ニ復舊スルコト但シ特別ナル工法ヲ以テ鋪裝セル道路ノ路面工事ハ占用者ノ負擔ニ於テ道路管理者之ヲ爲スコト
 - 六 郵便柱函設置ノ爲メ道路ニ關スル工作物竹木等ノ移轉伐採等ヲ要スル場合ニハ道路管理者ニ照會シタル上相當處置スルコト
 - 七 前號ノ移轉伐採等ヲ爲ストキハ道路管理者ノ立會ヲ求ムルコト
 - 八 前二號ニ依ル損害ノ補償金額ハ協議ノ上之ヲ定ムルコト
- 第二 道路工事ニ伴フ郵便柱函ノ移轉
- 一 道路改築ノ爲又ハ其ノ他ノ事情ニ因リ郵便柱函移轉ノ必要ヲ生スヘキ場合ニハ道路管理者豫メ逓信官署ニ協議スルコト
 - 二 前號ノ工事ニ要スル費用ハ道路管理者又ハ道路ニ關スル工事ヲ執行スル者ヲシテ負擔セシムルコト

第三 現在ノ郵便柱函

現在道路ヲ占用セル郵便柱函ニシテ第一項第一號ニ適合セサルモノハ漸次改設スルコトトシ一應現在

ノモノヲ認ムルコト

◎道路ノ占用ニ關スル件(大正九年八月四日海土第四號)
(各地方長官宛土木局長通牒)

海軍省ニ於テ電柱其ノ他ノ工作物建設ノ爲道路ヲ占用スル場合ニ於テハ本年四月一日遞土第一號通牒ト同一ノ要項ニ依ルヘキコトニ協議候條御承知ノ上道路管理者ニ御通達相成度

◎道路占用ノ件(大正十年九月九日內務省陸土第)
(五號各地方長官宛土木局長通牒)

陸軍省所管ノ電柱建設(軍用電信法ニ依ル遊動)ノ爲ニスル路面ノ占用ハ大正九年四月一日遞土第一號通牒要項ニ準據スルモノトシテ協議濟ニ候條御了知ノ上各道路管理者ニ御傳達相成度

◎遞信省ニ於テ自働電話所設置ノ爲道路占用ノ件

(大正十年四月六月遞土第一號道廳)
(長官各府縣知事宛土木局長通牒)

遞信省ヨリ自働電話所設置ニ要スル道路占用ノ件不日貴官宛協議セラルル事ト存依就テハ右占用ノ標準ハ左記ノ通ニ候ヘハ御承諾相成可然ト存候ニ付爲御參考申進候

記

自働電話所設置ノ爲道路占用ニ關スル標準

第一 自働電話所設置

- 一 自働電話所ヲ道路ニ設置スル場合ニハ步道(歩車道ノ區別ナキ場合ハ步道ニ準スヘキ部分)中可成有效幅員ヲ減セサルヲ旨トシ竝木ノ保護道路標識其ノ他ノ附屬物ノ效用ヲ妨ケス且一般交通ニ最モ支障ナキ位置ヲ選ヒテ之ヲ設置スルコト
 - 二 道路ノ曲角ニハ自働電話所ヲ設置セサルコト
 - 三 自働電話所ヲ道路ニ設置スル場合ニハ其ノ位置ヲ自働電話所ヲ所轄スル遞信官署ヨリ五日以前道路管理者ニ通知スルコト
 - 四 自働電話所設置ノ爲道路ヲ掘鑿スル必要アルトキハ作業上支障ナキ限り可成其ノ範圍ヲ狭少ナラシメ且其ノ工事ハ可成敏速ナラシムルコト
 - 五 掘鑿土砂ハ交通ニ支障ナキ場所ニ搬出スルコト
 - 六 道路埋戻ノ際ハ掘鑿前ニ於ケル道路ノ構造ト同等以上ニ復舊スルコト但シ特則ナル工法ヲ以テ鋪裝セル道路ノ路面工事ハ占用者ノ負擔ニ於テ道路管理者之ヲ爲スコト
 - 七 自働電話所設置ノ爲道路ニ關スル工作物竹木等ノ移轉伐採等ヲ必要トスル場合ニハ道路管理者ニ照會シタル上相當處理スルコト
 - 八 前號ノ移轉伐採等ヲ爲ストキハ道路管理者ノ立會ヲ求ムルコト
 - 九 前二號ニ依ル損害ノ補償金額ハ協議ノ上之ヲ定ムルコト
- 第二 道路工事ニ伴フ自働電話所ノ移轉
- 一 道路改築ノ爲又ハ其ノ他ノ事情ニ因リ自働電話所移轉ノ必要ヲ生スヘキ場合ニハ道路管理者ニ於

テ豫メ自働電話所ヲ所轄スル遞信官署ニ協議スルコト
二 前號ノ移轉工事ニ要スル費用ハ道廳管理者又ハ道路ニ關スル工事ヲ執行スル者ヲシテ負擔セシムルコト

第三 現存ノ自働電話所

既ニ道路ニ設置シアル自働電話所ニシテ第一項第一號及第二號ニ適合セサルモノハ漸次改設スルコトトシ一應現在ノモノヲ認ムルコト

◎陸地測量部所管水準點ノ建設並移轉ノ爲道路占用ノ件

(大正十年六月一日發土第六五號道廳長官府縣知事宛土木局長通牒)

陸軍省ヨリ陸地測量部所管水準點ノ建設並移轉ニ關シ別紙要項ニ依リ道路占用方協議有之候節ハ協議ニ應セラレ可然ト存候ニ付御參考ノ爲及通牒候

第一 水準點標石(又ハ木標)ノ建設

一 標石(又ハ木標以下之ニ準ス)埋設地點ヲ豫定シタルトキハ假杭ヲ以テ其ノ位置ヲ標識シ其ノ位置ヲ圖示シタル圖面ヲ添ヘ成ルヘク速ニ道路管理者ニ通知スルコト

二 前項管理者其ノ位置ニ支障アリト認メタルトキハ速ニ測量官ノ立會ヲ求メ位置ノ變更ヲ協議スルコト

三 道路ヲ占用シテ標石ヲ建設スル場合ニ於テハ路肩其ノ他適當ナル箇所(測溝法敷ヲ除ク)ヲ利用シ已ムテ得サル場合ニハ其ノ一側ニ於テ成ル可ク一般交通ニ支障ナキ位置ヲ選フコト

四 標石建設ノ際ハ一般交通ニ最モ支障ナカラシムルコト

五 道路ノ曲角及路上建設物ト五間以内ニ於テ錯立セル地點ヲ避クルコト

ト

六 交通上支障アル地點ニ建設ヲ要スルトキハ埋設法ニ依リ其ノ上方ヲ交通シ得セシムル如クスルコト

七 建設作業ハ努メテ速ニ竣工セシメ且ツ其ノ除土及物件堆積ノ爲交通ヲ妨ケサル如クスルコト

八 標石建設ノ爲道路ヲ掘鑿スルニハ作業上支障ナキ限り成ルヘク其ノ範圍ヲ狭少ナラシムルコト

九 標石建設ノ爲道路ノ掘鑿ヲ要スルトキハ掘抗ノ周圍ハ勿論掘鑿土砂又ハ工事用物品ヲ置キタル箇所ニハ通行人ニ危険ヲ及ボササル様柵其ノ他ノ設備ヲ爲シ且夜間注意灯ヲ點スルコト

十 道路埋戻ノ際ハ舊道路ノ構造ト同等以上ニ復舊スルコト但シ特別ナル工法ヲ以テ鋪裝セル道路ノ路面工事ハ占用者ノ負擔ニ於テ道路管理者之ヲ施行スルコト

第二 既設點ノ移轉改埋
十一 既設水準點標石カ道路工事ノ支障トナリタルトキハ道路管理者ハ該點ノ番號所在ヲ指摘シ之カ移轉ヲ陸地測量部ニ請求スルコト
十二 陸地測量部前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ該點ノ移轉改埋ニ要スル經費ノ豫算書ヲ添ヘ實施期日ヲ道路管理者ニ通知スルコト

- 十三 前項ノ實施ニ當リ移轉地ノ撰定及標石建設ニ關シテハ第一ノ要項ニ準スルコト
- 十四 道路工事ノ都合ニヨリ至急水準點ノ撤去ヲ要スルカ又ハ該點ノ移轉改埋作業ニシテ道路工事ノ竣成後ニアラサレハ實施シ難キ場合ニ在リテハ陸地測量部ハ道路工事擔任官ニ於テ隨意標石ヲ撤去シ之ヲ保管スル様道路管理者ニ通知シ適當ノ時期ニ至リ前項ノ如ク實施スルコト
- 十五 標石ノ移轉改埋及改測ニ要スル經費ハ(標石、磐石、石蓋及防衝石代ヲ除ク)一切移轉請求者ノ負擔タルコト

◎電柱建設ノ爲ニスル道路占用ノ件(一) (大正十一年六月二十六日發第一七) (八號東京府知事宛土木局長通牒)

電柱建設ノ爲ニスル道路占用ニ付テハ大正九年四月遞土第一號通牒及同年七月當省訓令第十一號ニ依リ他ニ相當餘地ナク且緊切ノ必要アル場合ニ限り其ノ許可承認ヲ爲スコトニ御取扱相成居候儀トハ存候ヘ共目下改築中ニ屬スル貴管内一號國道上ニ建設セラレタル電燈用柱ノ如キハ右通牒訓令等ノ趣旨ニ適合セラレサルモノモ有之哉ニ被存候處折角巨資ヲ投シテ改築ヲ爲ス道路ニ對シ此ノ種ノ占用ヲ爲サシムルコトハ道路ノ利用増進上可成之ヲ避クルヲ適當ト相認候條新ニ改築ヲ爲ス國道ニ付テハ特ニ此ノ點ニ留意シ己ムヲ得サル場合ノ外電柱等ノ建設ハ之ヲ認許セサル方針ヲ以テ御措置相成様致度爲念申進候

◎同 件(二) (大正十一年六月二十六日發第一七八號大阪) (兵庫、神奈川各府縣知事宛土木局長通牒)

標記ノ件ニ關シ別紙寫(前記)ノ通り東京府知事ニ對シ通牒致置候條貴管内ノ道路占用ニ付テモ同一趣旨

ニ基キ御取扱相成様致交爲念申進候

◎同 件(三) (大正十一年七月十三日發第一七) (八號電氣局長宛土木局長通牒)

標記ノ件ニ付別紙寫(前記)ノ通地方長官ニ對シ通牒候條爲御參考及送付候

◎鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用又ハ改築ニ關スル件

(大正十四年三月三十一日發甲第) (四號各地方長官宛土木局長通牒)

鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用方法ニ關シテハ大正九年當省訓令第十一號第十條ノ定ニ依據セラレヘク又其ノ道路ノ改築ニ關シテハ道路構造令及街路構造令等ノ規定スル構造ニ依リ鐵道經營者ヲシテ適當ニ施設セシムヘキハ勿論ノ義ニ有之候處往々ニシテ是等ノ定ニ依ラサルモノアルノミナラズ現在道路ヲ著シク改惡スル事例不尠爲ニ是ヲ變更セシムトスルモ其ノ前後ニ於ケル鐵道工事ハ既ニ竣功済ニシテ變更困難ナル場合アリ道路交通上遺憾トスル所ニ有之候此ノ如キハ地方鐵道ニ關スル工事ノ施行認可申請書ヲ審査スルニ方リ道路トノ關係ヲ考慮セサルニ基因スル義ト存候ニ付自今ハ篤下審査ノ上叙上ノ缺陷ヲ事前ニ防止スル様御留意相成度

◎鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用又ハ改築ニ關スル件

(大正十五年六月於土) (木主任官會議指示)

鐵道敷設ノ爲ニスル重要ナル國道府縣道ノ占用ニ關シテハ平面交叉ヲ避ケ又占用ニ伴ヒ必要ヲ生シタル道路工事ニ關シテハ姑息ナル改修ヲ避ケラレタシ

◎鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用又ハ改築ニ關スル件

(昭和二年七月五日發土第五〇號)
(各地方長官宛土木局長依命通牒)

鐵道敷設ノ爲ニスル道路ノ占用又ハ改築ニ關シテハ大正十四年三月發甲第四號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之道路交通ヲ考慮シ御措置相成居候コト、ハ存候ヘ共尙鐵道敷設ニ際シ主要幹線道路トノ平面交叉ヲ認メラルル向有之此ノ如キハ自動車利用ノ増加ニ伴ヒ日ニ交通ノ繁劇ヲ加フル道路交通ヲ顧慮セサルモノニシテ遺憾ノ至リニ有之候就テハ今回鐵道又ハ專用軌道敷設ノ爲都市又ハ其ノ附近ニ於ケル國道又ハ指定府縣道主要ナル街路トノ平面交叉ハ之ヲ認メサルコトニ省議決定相成候ニ付御了知ノ上特ニ平面交叉ヲ避ケ得サル理由存スル場合ハ國道指定府縣道ノ交叉ニ限り其ノ處分前豫メ事情ヲ具シ當省ニ御協議相成度主要街路ニ關シテモ同一趣旨ニ依リ御監督相成度

◎道路法第二十九條ノ規定ニ依ル占用ニ關スル申請手續ノ件

(大正九年六月十六日)
(內務省令第一五號)

第一條 道路法第二十九ノ規定ニ依リ許可若ハ承認又ハ占用料ノ決定ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ヲ經由シ申請書ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請事項
- 二 申請理由
- 三 管理者ニ提出セル申請書及其ノ指令書ノ謄本又ハ占用料告知書其ノ他ノ處分書ノ謄本
- 四 事業ノ種類及其ノ計畫
- 五 占用區域(附近地形圖及占用區域ノ圖面ヲ添附シ其ノ區域内ニ他ノ工作物アルトキハ之ヲ明示スルコト)
- 六 占用期間

第二條 前條第一項ノ規定ニ依ル申請書ハ處分アリタル日ヨリ六十日內ニ地方長官ニ之ヲ提出スヘシ
地方長官申請書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ附シ十四日內ニ內務大臣ニ之ヲ進達スヘシ

附 則

本令ハ大正九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ處分ニ付テハ第二條第一項ノ規定スル期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

◎道路法第三十條ノ規定ニ依ル道路臺帳ニ關スル件 (大正八年十二月六日)
(內務省令第二三號)

第一條 道路臺帳ハ圖書及圖面ヲ以テ之ヲ組成ス

第二條 道路臺帳ハ道路ノ種類毎ニ之ヲ調製スヘシ

第三條 調書ニハ路線毎ニ少クモ左ニ掲ケル事項ヲ記載スヘシ

一 路線名

二 路線認定ノ年月日

三 路線ノ目的タル起點、終點

四 路線ノ主要ナル經過地

五 路線ノ延長

イ 道路ノ延長

1 他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ其ノ區間、延長及工作物ノ種類

2 隧道ノ數及延長

六 口 橋梁ノ數及延長

ハ 渡船場ノ數及延長

ニ 他ノ道路ニ屬スル路線ノ區間及延長

六 道路公用開始ノ年月日

七 道路ノ一般幅員、道路ノ最狹幅員及其ノ地點

八 道路ノ最急勾配及其ノ地點

九 道路曲線ノ最小半徑及其ノ地點

十 賃取橋ノ名稱位置及橋錢徵收期限

十一 賃取渡船場ノ名稱位置及渡錢徵收期限

十二 民有ニ屬スル道路敷地ノ地番面積

第四條 圖面ハ平面圖、縱斷面圖及橫斷面圖トス

平面圖ハ縮尺千二百分ノ一以上トシ附近ノ地形、磁北及梯尺ヲ表示シ少クモ左ニ掲ケル事項ヲ記載ス

ヘシ

一 道路區域ノ境界線

二 一町毎ノ距離ヲ示シタル道路中心線

三 道路幅員ノ著シク變化スル箇所ニ於ケル幅員

四 行政區劃名大字名字名及其ノ境界線

五 隧道溝橋橋梁及渡船場ノ名稱

六 道路元標其ノ他主要ナル道路附屬物

七 道路ト效用ヲ兼ヌル他ノ工作物

縱斷面圖及橫斷面圖ハ必要ナル場合ニ限り之ヲ調製スヘシ

前項縱斷面圖ノ水準基線ハ己ムヲ得サル場合ヲ除クノ外陸地測量部水準標ニ準據スヘシ

第五條 市道區道及町村道ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ得テ調書及圖面ノ記載事項ノ一部ヲ省略シ又ハ字

圖ヲ以テ平面圖ニ代フルコトヲ得

第六條 調書及圖面ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ訂正スヘシ

附 則

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎道路構造令

(大正八年十二月六日)改(大正十一年十月十四日)
(内務省令第二四號)正(同省令第二六號)

第一條 國道ノ有效幅員ハ四間以上ト爲スヘシ

山地其ノ他特殊ノ箇所ニ限り其ノ幅員ヲ一間以內縮小スルコトヲ得

第二條 府縣道ノ有效幅員ハ三間以上ト爲スヘシ

山地其ノ他特殊ノ箇所ニ限り其ノ幅員ヲ三尺以內縮小スルコトヲ得

第三條 主要ナル市道ノ有效幅員ハ三間以上ト爲スヘシ

山地其ノ他特殊ノ箇所ニ限り其ノ幅員ヲ一間以內縮小スルコトヲ得

第四條 主要ナル町村道ノ有效幅員ハ二間以上ト爲スヘシ

山地其ノ他特殊ノ箇所ニ限り其ノ幅員ヲ三尺以內縮小スルコトヲ得

第五條 前各條第二項ノ規定ニ依リ前各條第一項ニ規定スル最小幅員ヲ縮小スルトキハ相當距離毎ニ待

避所ヲ設ケヘシ

第六條 國道ノ勾配ハ三十分一、府縣道ノ勾配ハ二十五分一ヨリ急ナルコトヲ得ス

特殊ノ箇所ニ於テハ前項勾配ヲ十五分一迄、山地ニシテ已ムヲ得サル箇所ニ於テハ長四十間以內ニ限

道路ノ勾配カ變移スル箇所ニ於テハ相當ノ縱斷曲線ヲ設ケヘシ

坂路長キトキハ相當ノ距離毎ニ五十分一ヨリ緩ナル勾配ヲ有スル相當ノ區間ヲ設ケヘシ

第七條 國道及府縣道ノ屈曲部中心線ノ半徑ハ三十間以上ト爲スヘシ但シ特殊ノ箇所ニ於テハ六間迄之

ヲ縮小スルコトヲ得

人家連檐又ハ連檐スヘキ箇所ノ屈曲部ニ於ケル凸角ハ相當之ヲ剪除シ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

半徑二十間以下ノ曲線ハ背向直接ヲ避ケ兩曲線間ニ相當ノ直線ヲ設ケヘシ

第八條 國道及府縣道ノ車道ノ路面ノ構造ハ車輪ノ輪帶幅一寸ニ付百貫ノ荷重ニ耐フルヲ標準ト爲スヘ

シ

歩車道ヲ區別セサル箇所ニ於テハ交通ノ情勢ニ依リ道路幅員ノ一部ニ限り前項ニ規定スル構造ニ依ラ

サルコトヲ得

第九條 國道及府縣道ノ側溝ノ深及底幅ハ一尺以上ト爲スヘシ

第十條 國道及府縣道ノ路端ノ高ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外水流水面ノ最高水位ヨリ一尺以上ト爲スヘシ

第十一條 國道及府縣道ノ隧道ノ有效幅員ハ三間半以上ト爲スヘシ但シ接續道路ノ有效幅員ニ二尺ヲ加

ヘタル幅員迄之ヲ縮小スルコトヲ得

第十二條 隧道内ノ高ハ路面ヨリ十五尺以上ト爲スヘシ但シ特殊ノ箇所ニ限り十三尺迄之ヲ縮小スルコトヲ得

間以上ノ場合ハ三間以上ト爲スヘシ但シ接續道路ノ有效幅員迄之ヲ縮小スルコトヲ得

第十三條 國道及府縣道ノ橋梁ハ左ニ掲クルモノノ通過ニ耐フル構造ト爲スヘシ
 橋面一平方尺ニ付十二貫ニ相當スル群衆但シ徑間ニ應シ相當輕減スルコトヲ得
 國道ニ在リテハ二千百貫ノ車輛、十二米噸輾壓機
 府縣道ニ在リテハ千七百貫ノ車輛但シ主要ナル區間ニ於テハ國道ニ準スヘシ
 第十四條 第十一條第二項ノ規定ハ國道及府縣道中上部橫構ヲ有スル橋梁ニ之ヲ準用ス道路カ橋下ヲ通
 過スル場合ニ付亦同シ
 第十五條 前九條中府縣道ニ關スル規定ハ主要ナル市道及町村道ニ關シ之ヲ準用ス
 第十六條 本令中府縣道ニ關スル規定ハ地方費道ニ、市道ニ關スル規定ハ主要ナル準地方費道又ハ區道
 ニ關シ之ヲ適用ス但シ地方費道ノ有效幅員ハ山地其ノ他特殊ノ箇所ニ限り第二條第一項ニ規定スル幅
 員ヲ一間以內縮小スルコトヲ得

第十七條 北海道ニ於ケル橋梁ノ有效幅員ハ橋長四間以上ノ木橋ニ限り國道ニ在リテハ十五尺迄地方費
 道又ハ主要ナル準地方費道、區道、町村道ニ在リテハ十尺迄之ヲ縮小スルコトヲ得
 第十八條 交通ノ情勢ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ得テ前各條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得
 第十九條 街路ノ構造ニ付テハ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附 則

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

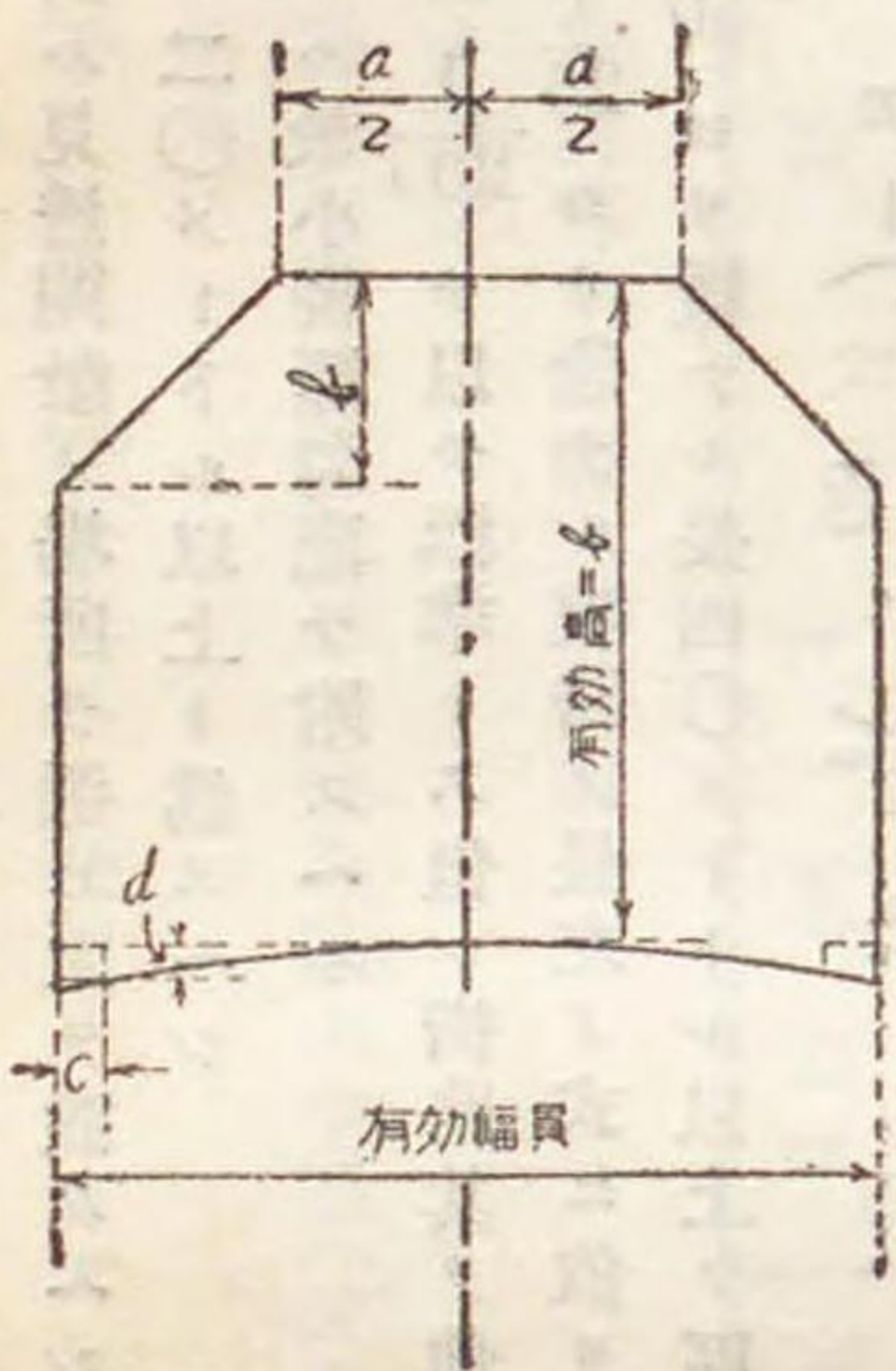
大正十一年內務省令第二六號附則

本令ハ大正十一年法律第三號第八條、第十一條、第十二條及第六十一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ同
 法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎道路構造ニ關スル細則(大正十五年六月於土木主任官會議諮問)

第一章 道 路

第一條 道路ノ有效幅員ト稱スルハ路面幅員ヨリ路肩ノ幅員ヲ除キタルモノヲ謂フ
 路肩ノ幅員ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外〇、五メートル以上ト爲スヘシ
 第二條 道路ノ建設規定ハ左ノ定ニ依ルヘシ



a ≧ 2.7メートル

b ≧ 0.8メートル

(h=4.0メートルノ場合)

1.3メートル

(h=4.5メートルノ場合)

c ≧ 0.2メートル

d ≧ 0.2メートル

歩車道ヲ區別セル箇所ニ於テハ歩道上ノ有效高ハ路面ヨリ二、五メートル以上ト爲スヘシ
 第三條 待避所ハ見透開敞ノ場所ヲ選ビ之ヲ設クヘシ
 待避所ノ長ハ二〇メートル以上ト爲スヘシ

第四條 道路ニハ最小縦斷勾配ヲ附スヘシ

前項ノ勾配ハ $\frac{1}{20}$ ヲ以テ標準トス但シ街路其ノ他特殊ノ箇所ニ於テハ相當之ヲ緩ニスルコトヲ得

第五條 勾配 $\frac{1}{25}$ ヨリ急ナル坂路ノ長左ノ式ニ依リ算出セル制限ヲ超ユル場合ニ在リテハ其ノ制限長
 以内毎ニ $\frac{1}{50}$ ヨリ緩ナル長四〇メートル以上ノ區間ヲ設クヘシ

$$S = \left(\frac{80}{10 + 3i} \right)^5 + 4i$$

S = 制限長 (メートル)

i = 勾配 (百分率)

前項ノ勾配二以上連續スル坂路ニ在リテハ其ノ勾配ニ對スル制限長ノ比例ニ依リ之ヲ一勾配ノ坂路ノ
 長ニ換算シ前項ノ規定ヲ準用ス

第六條 縦斷曲線ノ長ハ左ノ標準ニ依ルヘシ但シ縦斷曲線ヲ設クヘキ區間短キトキハ其ノ長ヲ相當短縮
 スルコトヲ得

勾配ノ代數差	縦斷曲線ノ長			
	主要ナル區間 平地部	山岳部	其ノ他ノ區間 平地部	山岳部
$\frac{1}{100}$ 乃至 $\frac{3}{100}$ 未滿	30' 以上	30' 以上	30' 以上	10' 以上
$\frac{3}{100}$ 乃至 $\frac{5}{100}$ 未滿	60' 以上	30' 以上	30' 以上	10' 以上
$\frac{5}{100}$ 乃至 $\frac{8}{100}$ 未滿	80' 以上	50' 以上	50' 以上	20' 以上
$\frac{8}{100}$ 乃至 $\frac{10}{100}$ 未滿	90' 以上	60' 以上	60' 以上	20' 以上
$\frac{10}{100}$ 以上	90' 以上	80' 以上	80' 以上	30' 以上

第七條 道路ノ屈曲部中心線ノ半徑四〇メートル以下ノ曲線ハ背向直接ヲ避ケ兩曲線間ニ二〇メートル
 以上ノ直線部ヲ設クヘシ

第八條 坂路ニ於ケル屈曲部ハ其ノ中心線ノ半徑(メートル)ヲ其ノ勾配(分數)ニテ除シタル數カ七五〇
 以上ノモノト爲スヘシ

第九條 道路ニ於ケル最小安全視距ハ特別ノ事由アルモノヲ除クノ外國道ニ在リテハ一〇〇メートル府
 縣道ニ在リテハ六〇メートルヲ標準トシ屈曲部ノ中心線ノ半徑ハ左ノ式ニ依リ之ヲ算出スヘシ

$$r = \frac{m}{2} + \frac{c^2}{m^8}$$

r 半徑

m 道路中心線上一、五メートルノ高ニ於テ中心線ヨリ之ト直角ノ方向ニ於ケル屈曲部ノ内側ノ法面又ハ障碍物ニ至ル最短距離

c 安全視距

見透距離ヲ増大スルカ爲段切ヲ爲ス場合ニ在リテハ路面上ニ一、二メートルノ高ニ於テ之ヲ爲スヘシ

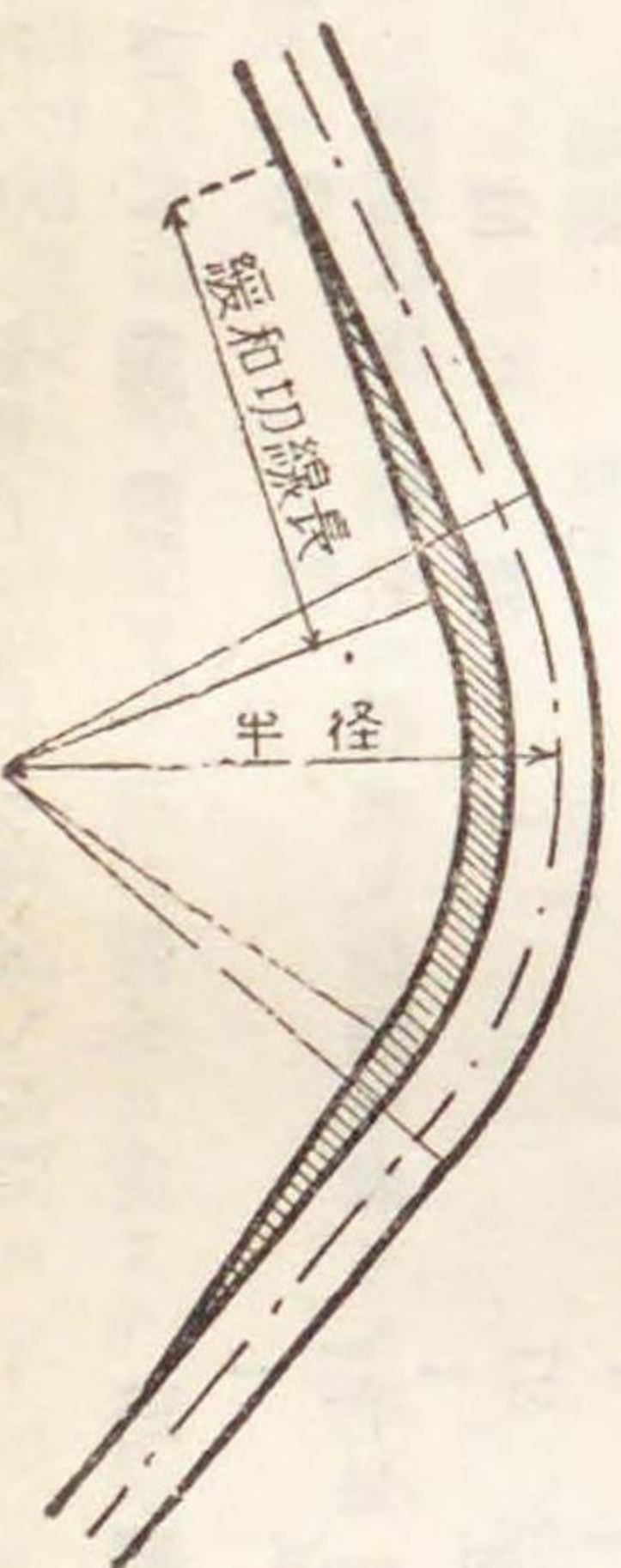
第十條 屈曲部中心線ノ半徑三〇〇メートル以下ノ場合ニ於ケル道路ノ幅員ハ其ノ屈曲部ノ内側ニ於テ左ノ標準ニ依リ之ヲ擴大スヘシ

半徑	擴大スルキ幅員
20 メートル 未滿	2 メートル
20' 乃至 30'	1.5'
30' 乃至 45'	1.2'
45' 乃至 60'	1'
60' 乃至 120'	0.8'
120' 乃至 180'	0.5'

180' 乃至 300' 以下 0.3'

前項ノ規定ニ依ル擴大部分ノ兩端ト其ノ前後直線部トノ取付ニハ緩和切線ヲ用ヒ其ノ長ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

半徑	緩和切線ノ長
45 メートル 未滿	30 メートル 以上
45' 乃至 60'	25' 以上
60' 乃至 120'	22' 以上
120' 乃至 180'	20' 以上
180' 乃至 240'	18' 以上
240' 乃至 300'	15' 以上



第十一條 道路ノ横斷勾配ハ左ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

路面ノ種類	横斷勾配
土砂道	$\frac{1}{12}$ 乃至 $\frac{1}{25}$
砂利道	$\frac{1}{15}$ 乃至 $\frac{1}{25}$
水締ヤカダム道	$\frac{1}{15}$ 乃至 $\frac{1}{30}$
瀝青ヤカダム道	$\frac{1}{25}$ 乃至 $\frac{1}{40}$
瀝青混凝土道	$\frac{1}{25}$ 乃至 $\frac{1}{50}$
ポートラゾドセメント混凝土道	$\frac{1}{30}$ 乃至 $\frac{1}{50}$
煉瓦道	$\frac{1}{30}$ 乃至 $\frac{1}{50}$
木地	$\frac{1}{30}$ 乃至 $\frac{1}{50}$
石地	$\frac{1}{25}$ 乃至 $\frac{1}{50}$

第十二條 シートアスファルト道

$\frac{1}{30}$ 乃至 $\frac{1}{60}$

第十二條 道路屈曲部ニ於ケル横斷勾配ハ街路其ノ他特殊ノ箇所ヲ除クノ外中心線ノ半徑三〇〇メートル以下ノ場合ニ限り左ノ標準ニ依ル片勾配ト爲スヘシ

半徑	勾配
100 ^{メートル} 未満	$\frac{1}{12}$
100 ^{メートル} 乃至 150 ^{メートル} 未満	$\frac{1}{15}$
150 ^{メートル} 乃至 210 ^{メートル} 未満	$\frac{1}{20}$
240 ^{メートル} 乃至 300 ^{メートル} 以下	$\frac{1}{25}$

前項ノ屈曲部ト直線部トノ横斷勾配ノ摺付ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外長一〇メートルニ付〇、一メートルノ割合ヲ以テ標準ト爲スヘシ

第十三條 道路力鐵道又ハ新設軌道ト平面交叉ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ踏切ノ前後ニ於テ各六〇メートル以上ノ直線部ヲ設ケ踏切前後長三〇メートル以上ノ區間ハ $\frac{1}{50}$ ヨリ緩ナル勾配ト爲スヘシ踏切及其ノ前後ニ於ケル長各二〇メートル以上ノ道路ノ有効幅員ハ五、五メートル以上トナスヘシ

第十四條 橋梁ノ取付道路ニハ長一〇メートル以上勾配 1/50 ヨリ緩ナル區間ヲ設クヘシ
 第十五條 斷崖其ノ他交通上危險ノ虞アル箇所ニハ駒止ヲ設クヘシ

第二章 橋 梁

第一節 總 則

第十六條 本則ハ鋼橋又ハ鐵筋混凝土橋ノ設計ニ適用スルモノトス

第十七條 本則ニ於テ一等橋ト稱スルハ街路、二等橋ト稱スルハ國路、三等橋ト稱スルハ府縣道ニ架設スル橋梁ヲ謂フ

第十八條 本則ニ規定スル鋼材ハ緩釘又ハ特殊ノモノヲ除クノ外建築用鋼トシ鐵筋混凝土用「セメント」ハ「ポーターランドセメント」トス

第二節 荷 重

第十九條 死荷重ノ算出ニ付使用材料一立方メートルノ重量ハ左ノ假定ニ依ルヘシ

材	料	重 量 (キログラム)	材	料	重 量 (キログラム)
鑄	鐵	7250	礫	又ハ碎石	1700
鍊	鐵	7800	砂		1700
鋼		7850	土		1600

第二十條 活荷重ハ左ノ定ニ依ルヘシ

1. 群 衆 荷 重

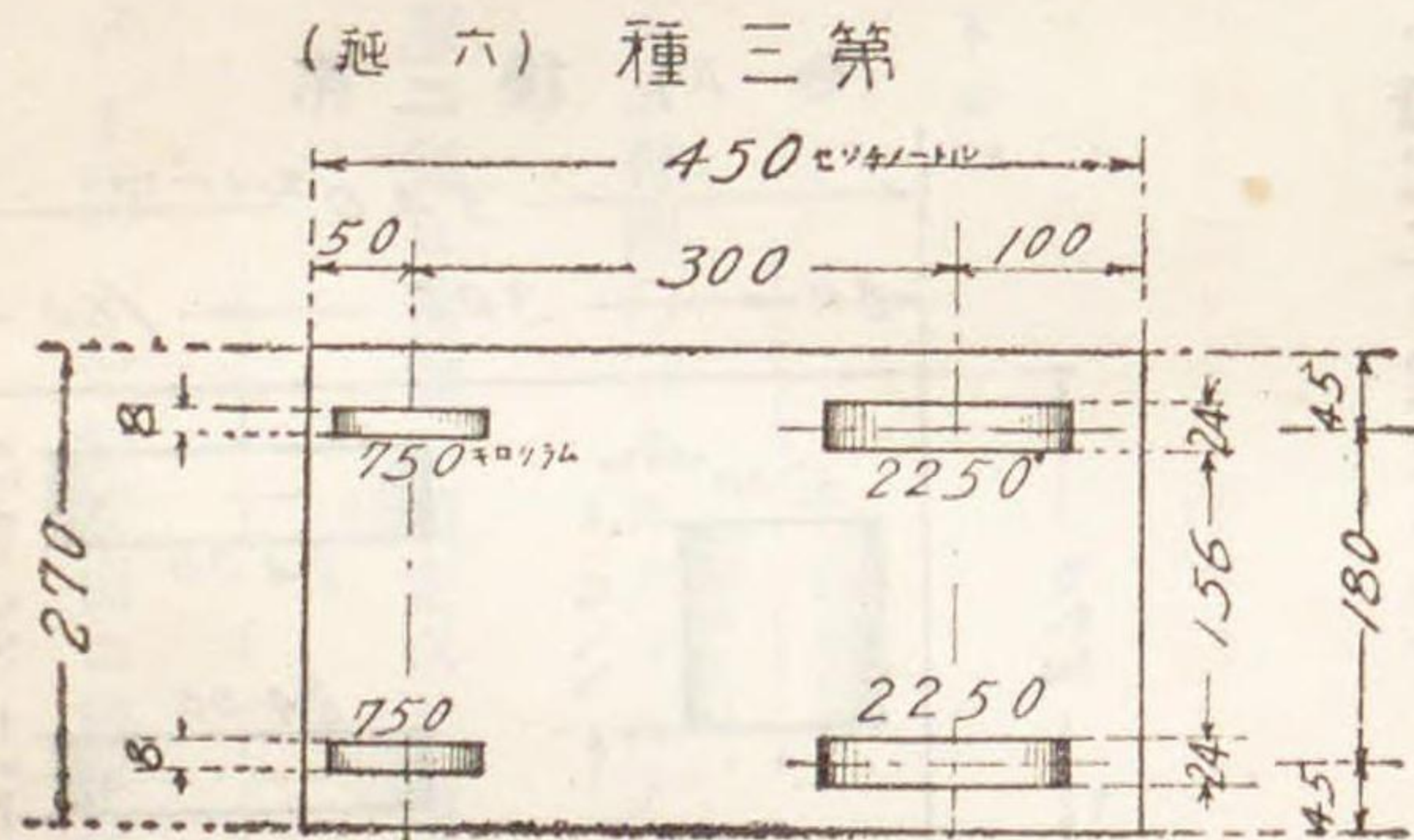
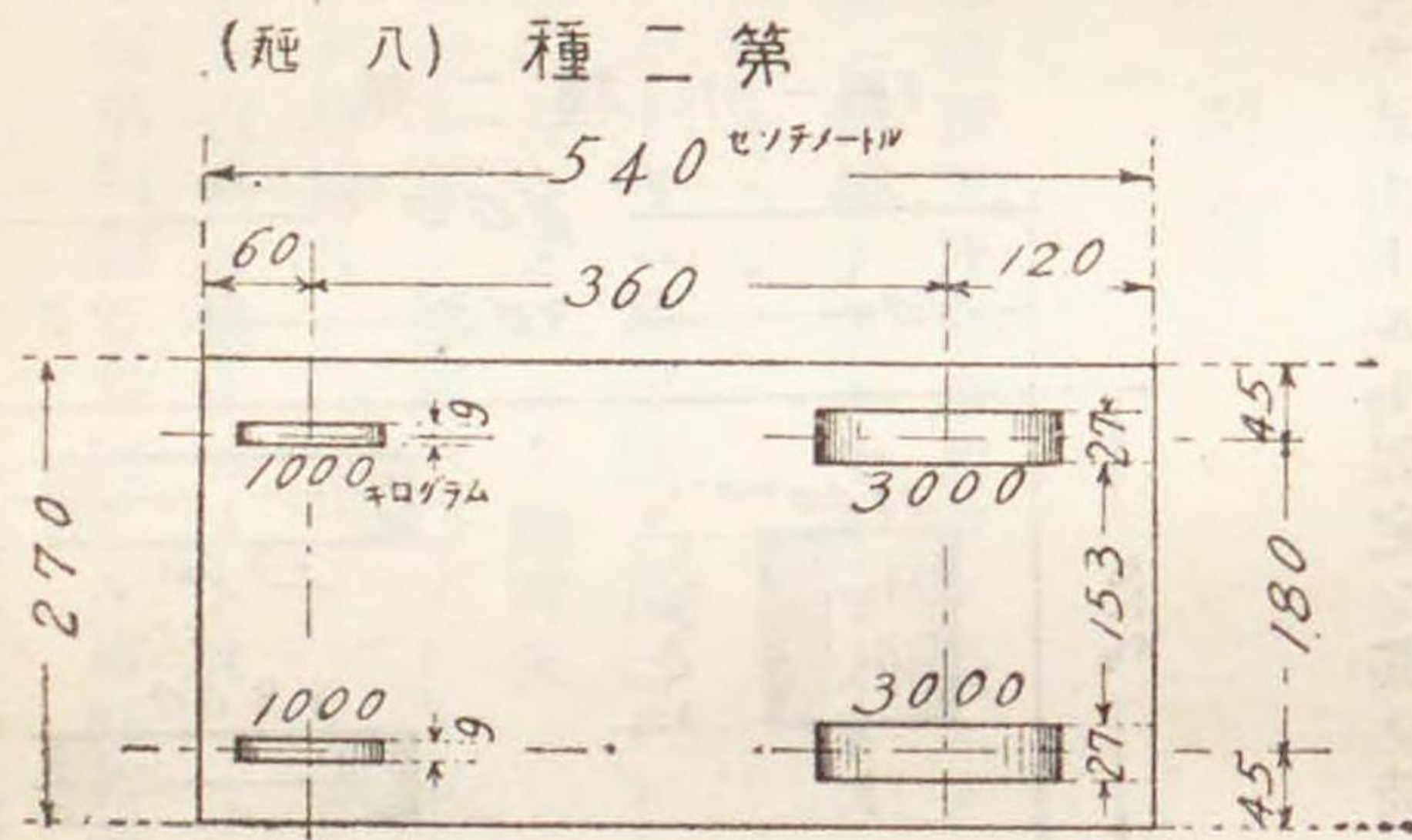
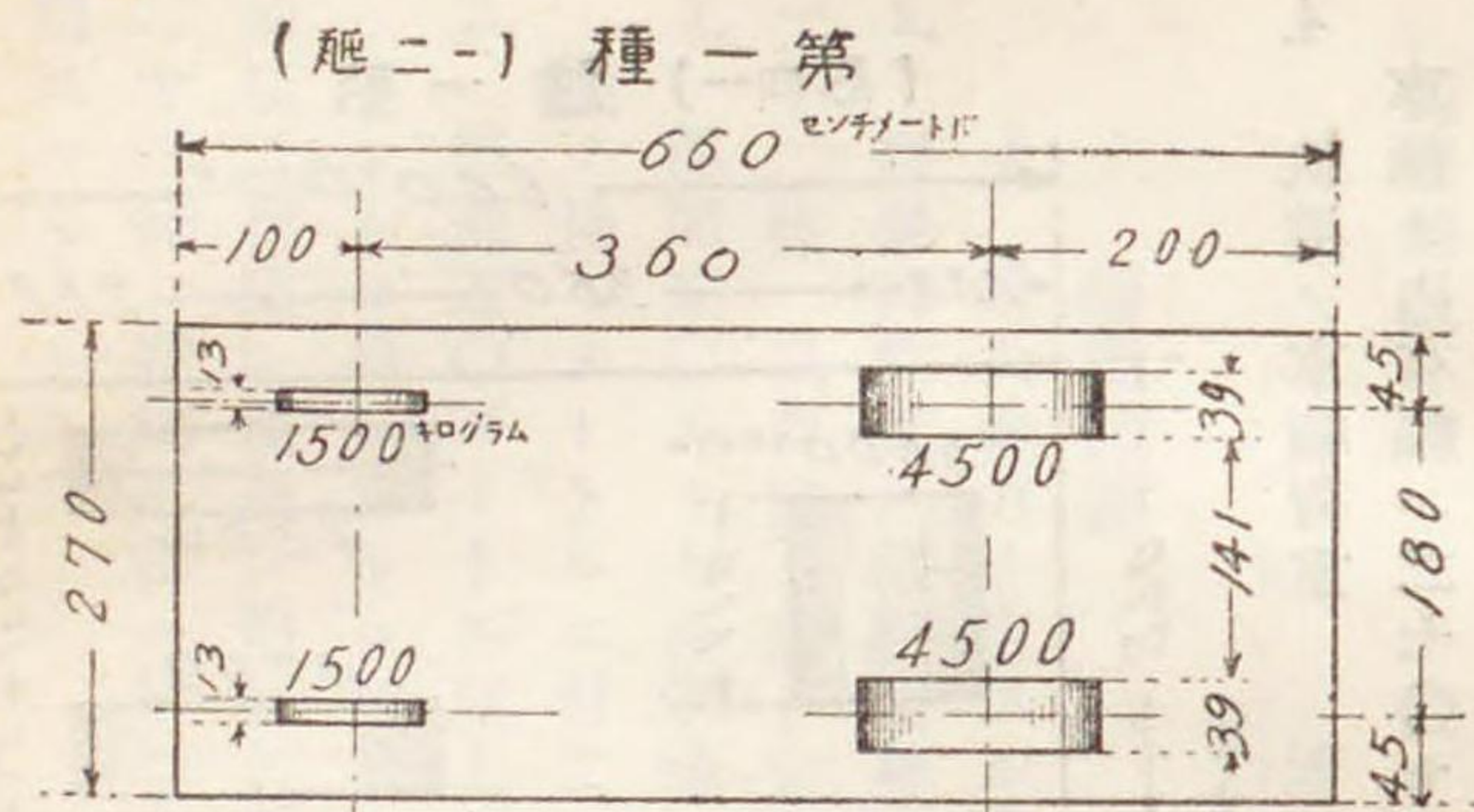
(1) 一等橋ノ主桁主構ニ在リテハ左ノ式ニ依リ算出スヘシ

$$\begin{aligned}
 \text{車 道} & w = \frac{120,000}{170+l} \approx 600 \\
 \text{歩 道} & w = \frac{100,000}{170+l} \approx 500
 \end{aligned}$$

w 群衆荷重(一平方メートルニ付キログラム)

鑄	鋼	7360	木	材	650
鐵筋	混 凝 土	2400	石	塊 鋪 裝	2600
混 凝 土		2200	煉	瓦 鋪 裝	2200
セメント	モルタル	1700	瀝	青 鋪 裝	2100
石		2600	木	塊 鋪 裝	1000
煉	瓦	2000	マ	カ	タ
			ム	鋪 裝	2100

3. 輾壓機荷重
 一等橋ニ在リテハ第一種、二等橋ニ在リテハ第二種、三等橋ニ在リテハ第三種トス



1 徑 間 (メートル)
 主桁主構以外ノ部材ニ在リテハ車道一平方メートルニ付六〇〇キログラム、歩道一平方メートルニ付五〇〇キログラムトス
 (ロ) 二等橋又ハ三等橋ノ主桁主構ニ在リテハ左ノ式ニ依リ算出スヘシ

$$\begin{aligned} \text{車 道} \quad w &= \frac{100,000}{170+l} \approx 500 \\ \text{歩 道} \quad w &= \frac{80,000}{170+l} \approx 400 \end{aligned}$$

2 輾 壓 機 荷 重
 主桁主構以外ノ部材ニ在リテハ車道一平方メートルニ付五〇〇キログラム、歩道一平方メートルニ付四〇〇キログラムトス

1 輾 壓 機 荷 重 (一平方メートルニ付キログラム)
 主桁主構以外ノ部材ニ在リテハ車道一平方メートルニ付五〇〇キログラム、歩道一平方メートルニ付四〇〇キログラムトス
 2 自 動 車 荷 重
 一等橋ニ在リテハ第一種、二等橋ニ在リテハ第二種、三等橋ニ在リテハ第三種トス

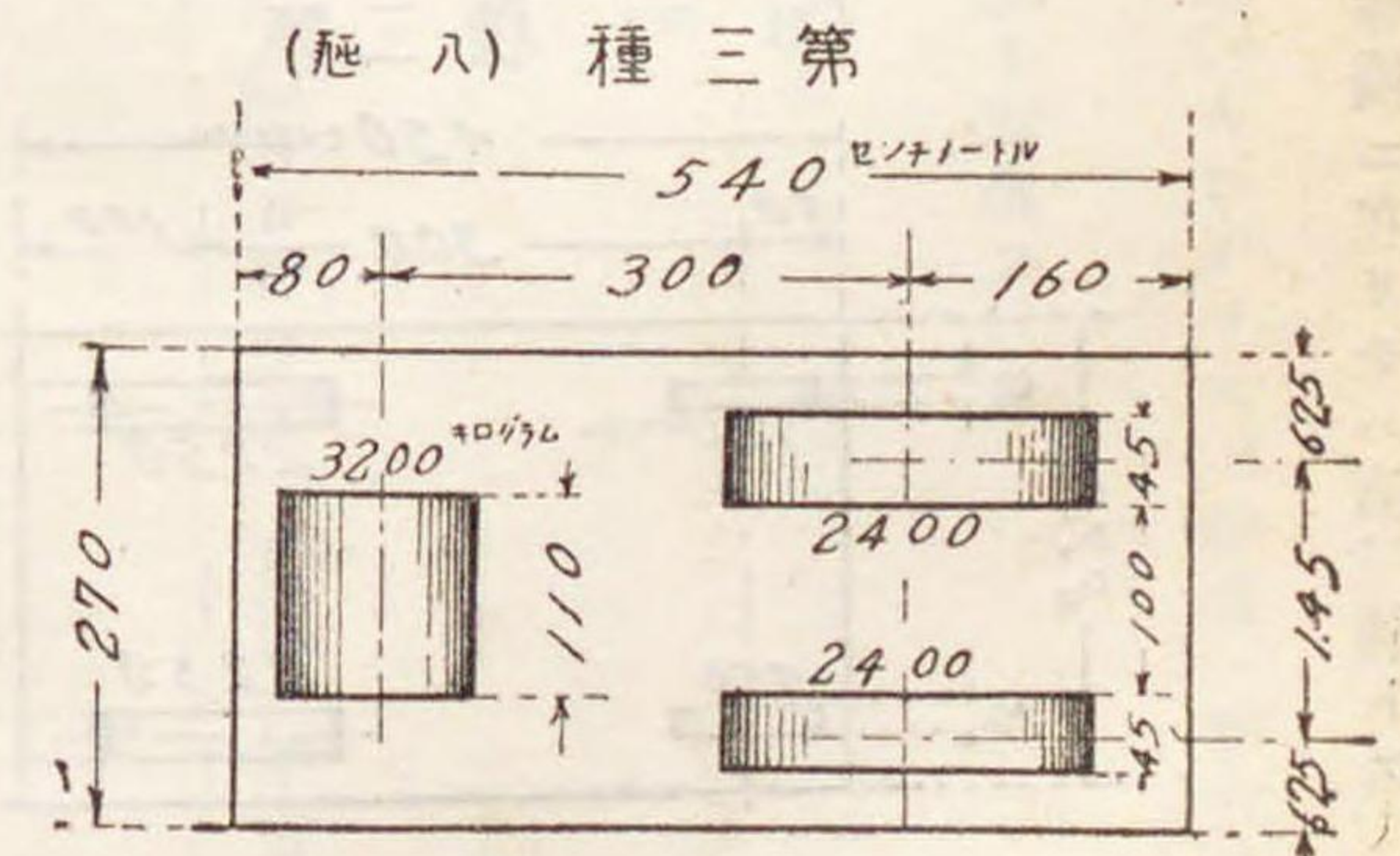
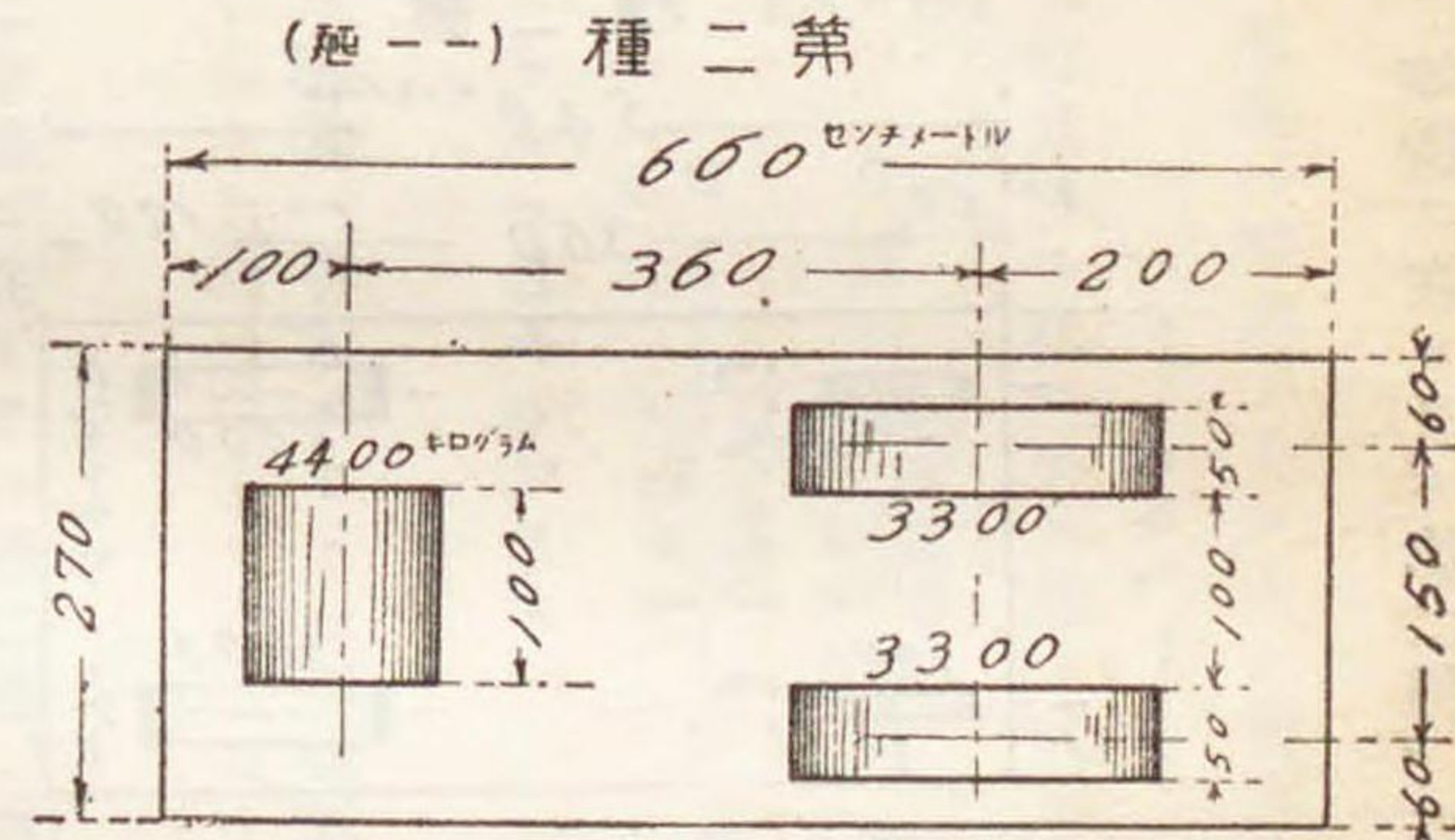
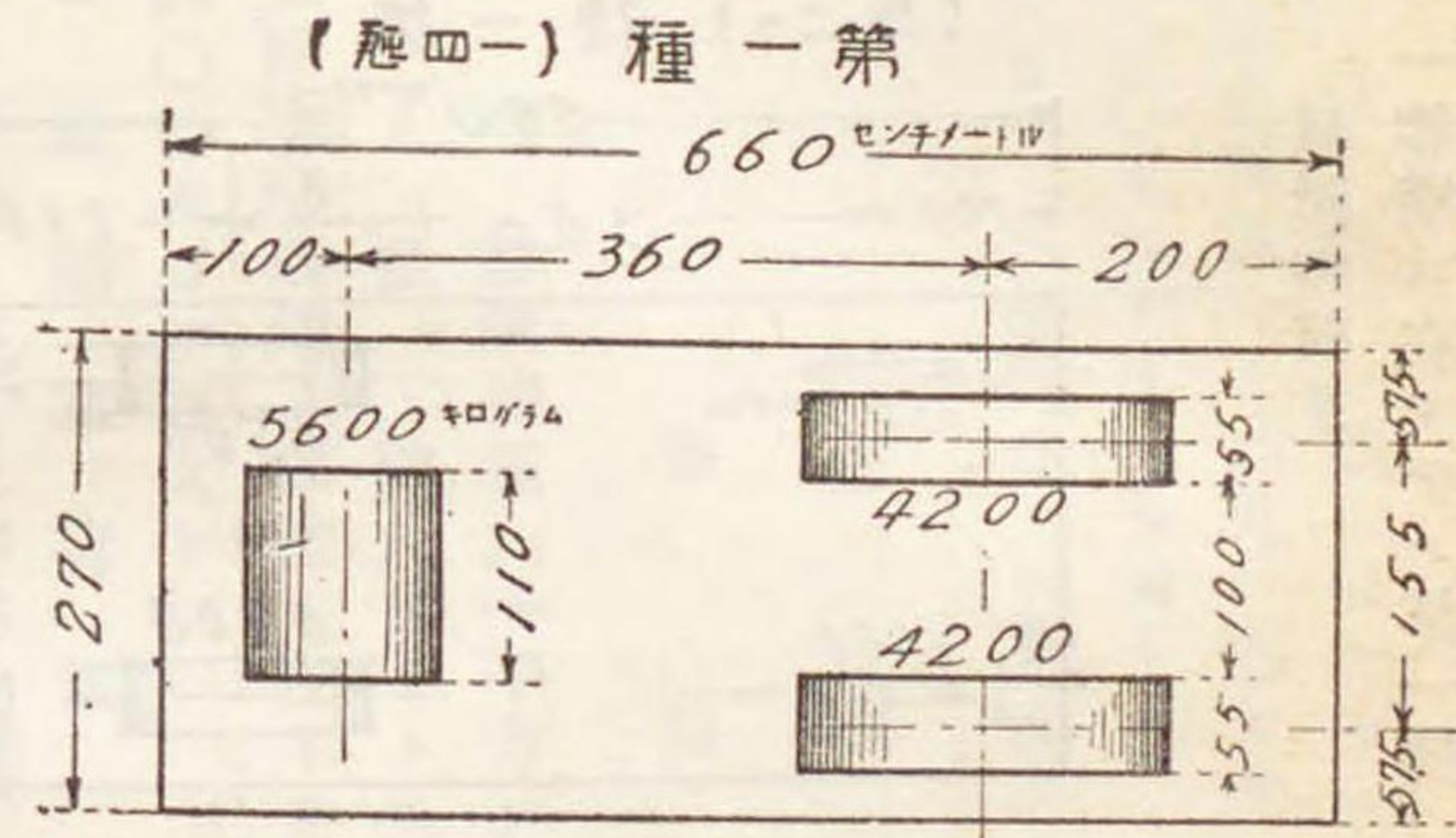
1. 自動車荷重又ハ軌道ノ車輛荷重ハ衝擊ヲ生スルモノトス
衝擊係數ハ左ノ式ニ依リ之ヲ算出スヘシ
2. 群衆荷重又ハ輾壓機荷重ハ衝擊ヲ生セサルモノトス
3. 風荷重ハ左ノ定ニ依ルヘシ
4. 徑間五〇メートル未滿ナルトキハ載荷弦ノ長一メートルニ付四〇〇キログラムノ動荷重及無載荷弦ノ長一メートルニ付二〇〇キログラムノ動荷重
5. 徑間五〇メートル以上ナルトキハ徑間一〇メートルヲ増ス毎ニ前號ニ規定スル荷重ニ弦ノ長一メートルニ付一五キログラムヲ增加ス
6. 前項ノ荷重ハ橋梁ノ豎面ニ對シ直角ニ働クモノトス
7. 第二十三條 制動荷重ハ第二十條第四號ニ規定スル車輛荷重ノ $\frac{1}{10}$ トシ軌道面ニ於テ軌條ノ方向ニ作用スルモノトス
8. 第二十四條 欄干ニ作用スル推力ハ左ノ定ニ依ルヘシ
9. 一等橋ニ在リハ欄干長一メートルニ付七〇キログラム

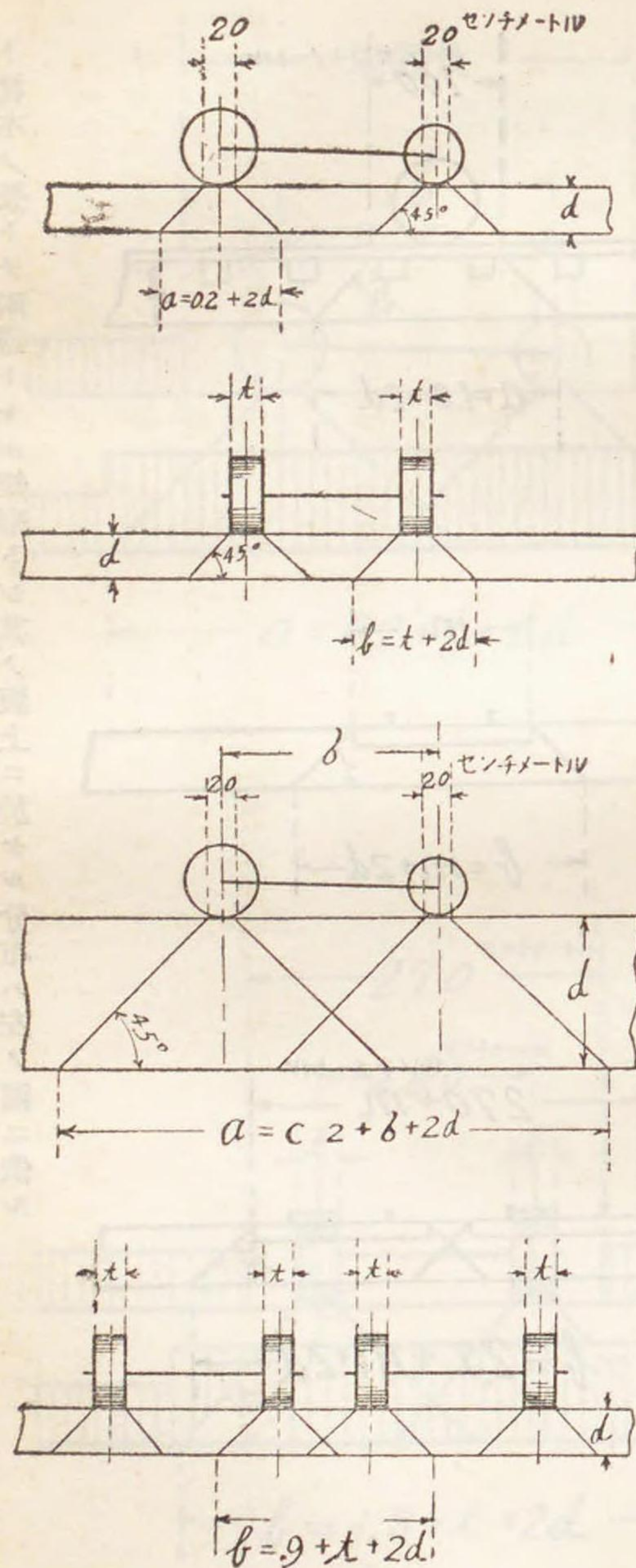
i 衝擊係數

$$i = \frac{20}{60 + l} \approx 0.3$$

1. 自動車荷重又ハ軌道ノ車輛荷重ハ衝擊ヲ生スルモノトス
衝擊係數ハ左ノ式ニ依リ之ヲ算出スヘシ

4. 軌道ノ車輛荷重
車輛ノ占有幅ハ二七〇センチメートル假定シ其ノ荷重ハ適宜之ヲ選定スヘシ
- 第二十一條 活荷重ノ衝擊ハ左ノ定ニ依ルヘシ





第二十八條

活荷重カ上置層ヲ通シテ分布スル方法ハ左ノ定ニ依ルヘシ

1. 自動車又ハ輾壓機ノ輪荷重カ路面ニ働ク面積ハ車輛ノ進行方向ニ於ケル長二〇センチメートルト其ノ輪帶幅トナ兩邊トセル矩形トシ其ノ版上ニ於ケル分布ハ左ノ圖ニ依ル

2. 二等橋又ハ三等橋ニ在リテハ欄干長一メートルニ付五〇キログラム前項ノ推力ハ欄干ノ頂上ニ於テ欄干ノ豎面ニ直角ニ働クモノトス
- 第二十五條 溫度ノ變化ハ鋼橋ニ在リテハ 11300 鐵筋混凝土橋ニ在リテハ 1500 トス 彈性係數ハ鋼ニ在リテハ一平方センチメートルニ付二、一〇〇、〇〇〇キログラム混凝土ニ在リテハ一平方センチメートルニ付一四〇、〇〇〇キログラムトス
- 第一項ノ溫度ノ變化ニ對スル伸縮係數ハ攝氏一度ニ付〇、〇〇〇〇一二トス
- 第二十六條 地震荷重ハ橋梁ノ所在地方ニ於ケル最強地震力ニ依リ橋梁ノ各部ニ最大應力ヲ生スルモノヲ用フヘシ

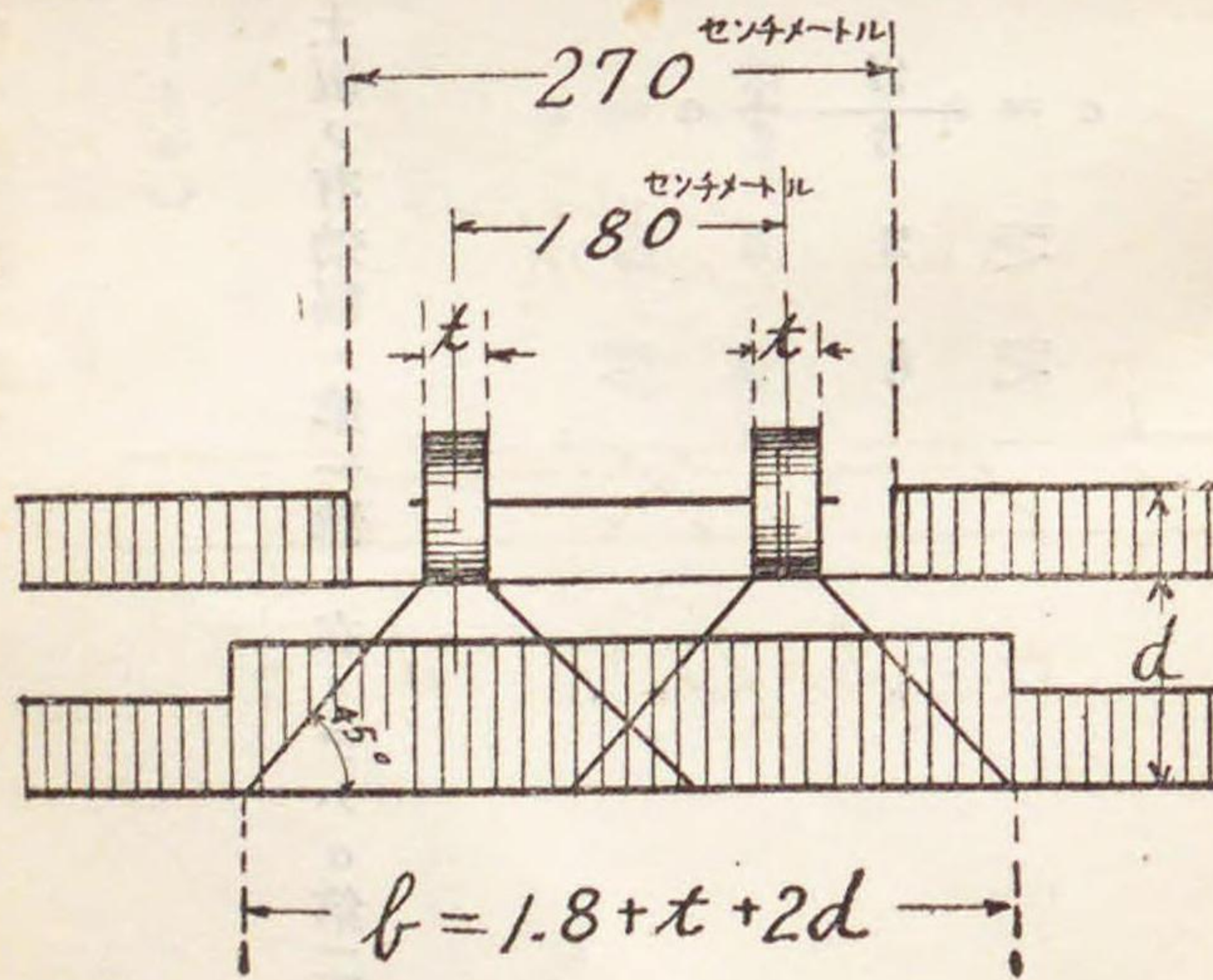
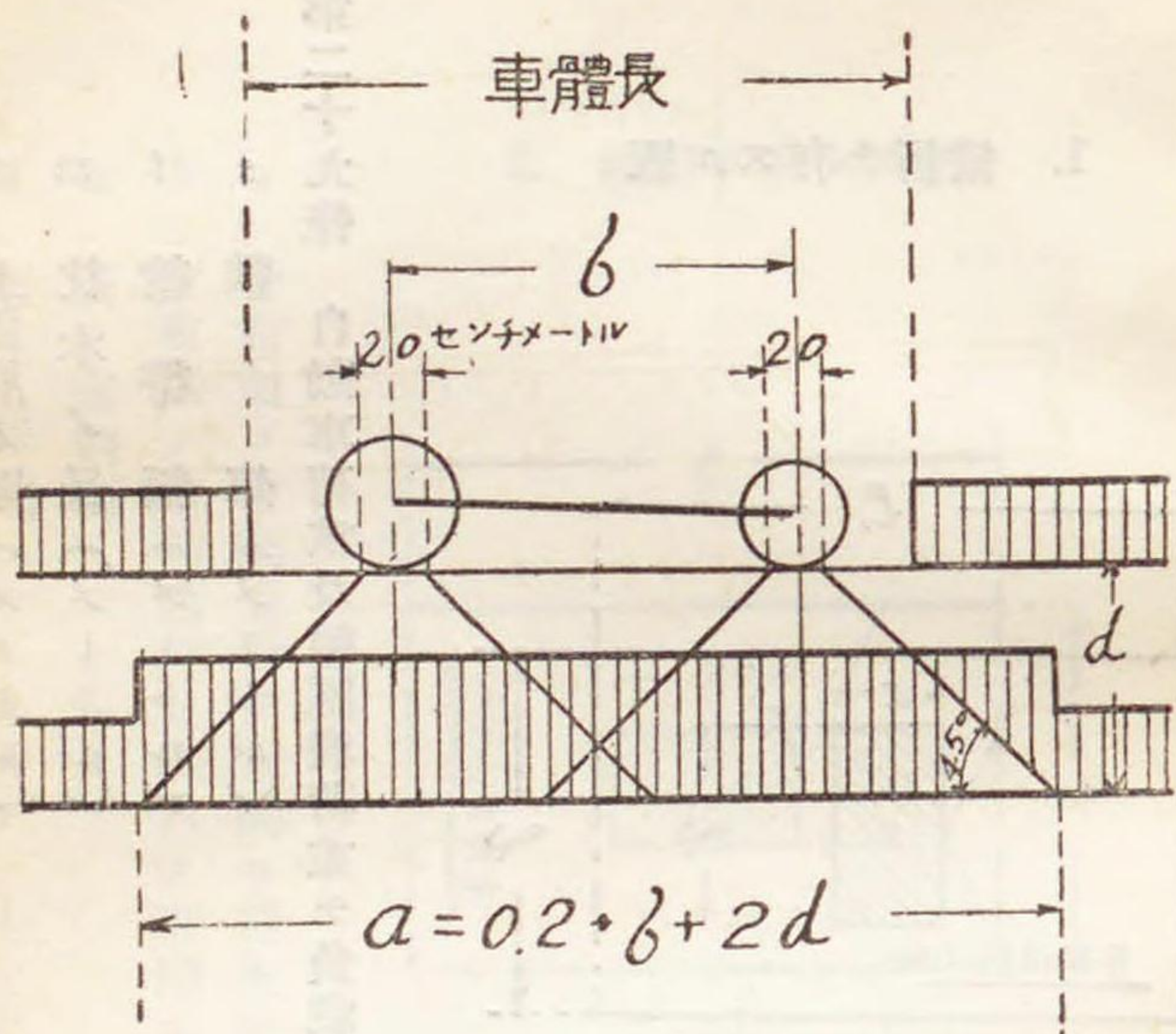
第三節 活荷重負載ノ方法

第二十七條 活荷重負載ノ方法ハ左ノ定ニ依ルヘシ

1. 自動車ハ橋梁ノ縱ノ方向ニ一臺トス
2. 軌道ノ車輛ハ輻數ニ制限ナキモノトス
3. 輾壓機ハ一橋梁ニ付一臺トシ他ノ車輛ト同時ニ負載セサルモノトス
4. 車輛ハ橋梁ノ横ノ方向ニハ四輛ヲ超過セサルモノトス
5. 群衆荷重ハ自動車輾壓機及軌道ノ車輛ノ左右前後ニ等布スルモノトス
6. 歩道車道ヲ區別スル橋梁ノ歩道ニ在リテハ群衆荷重ニ限ルモノトス

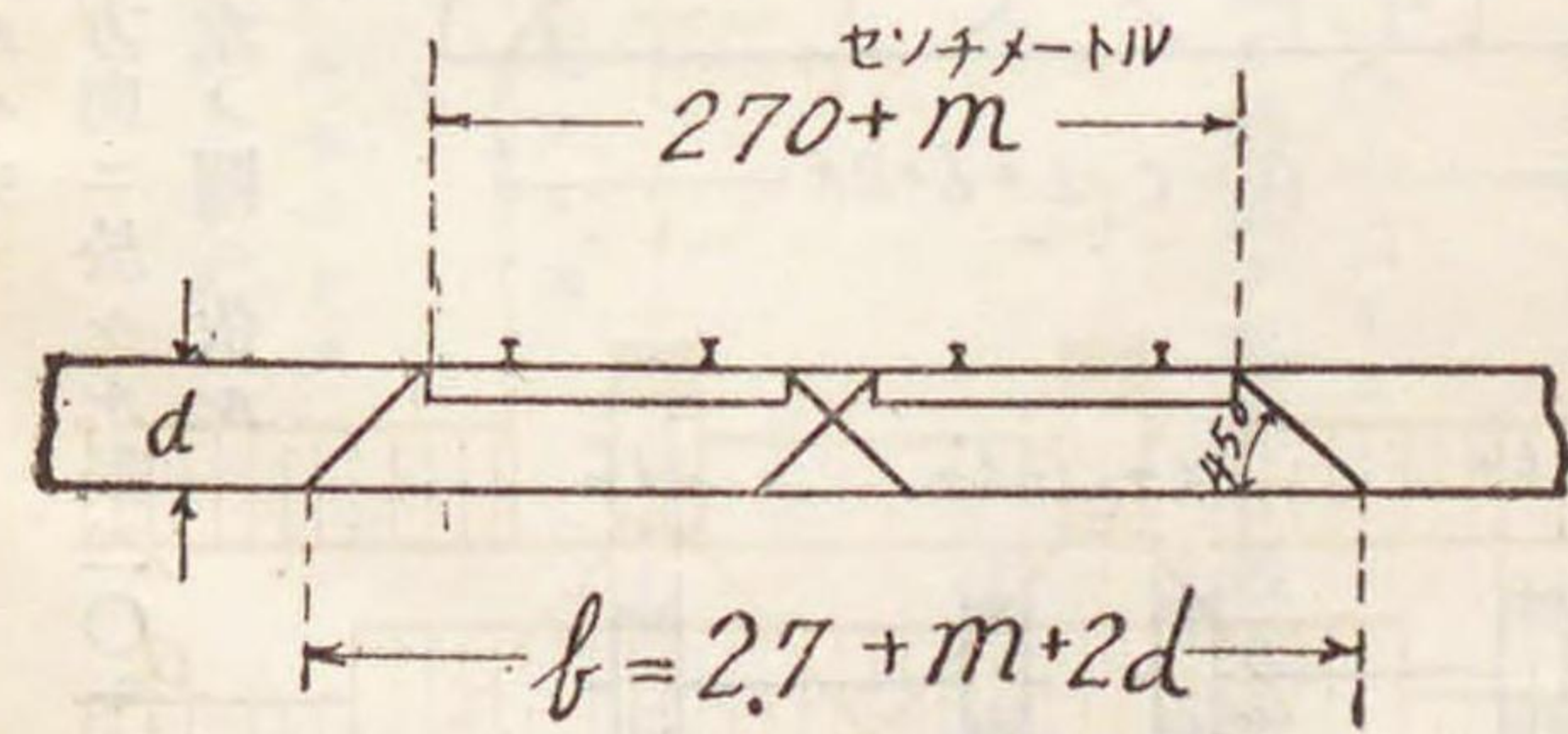
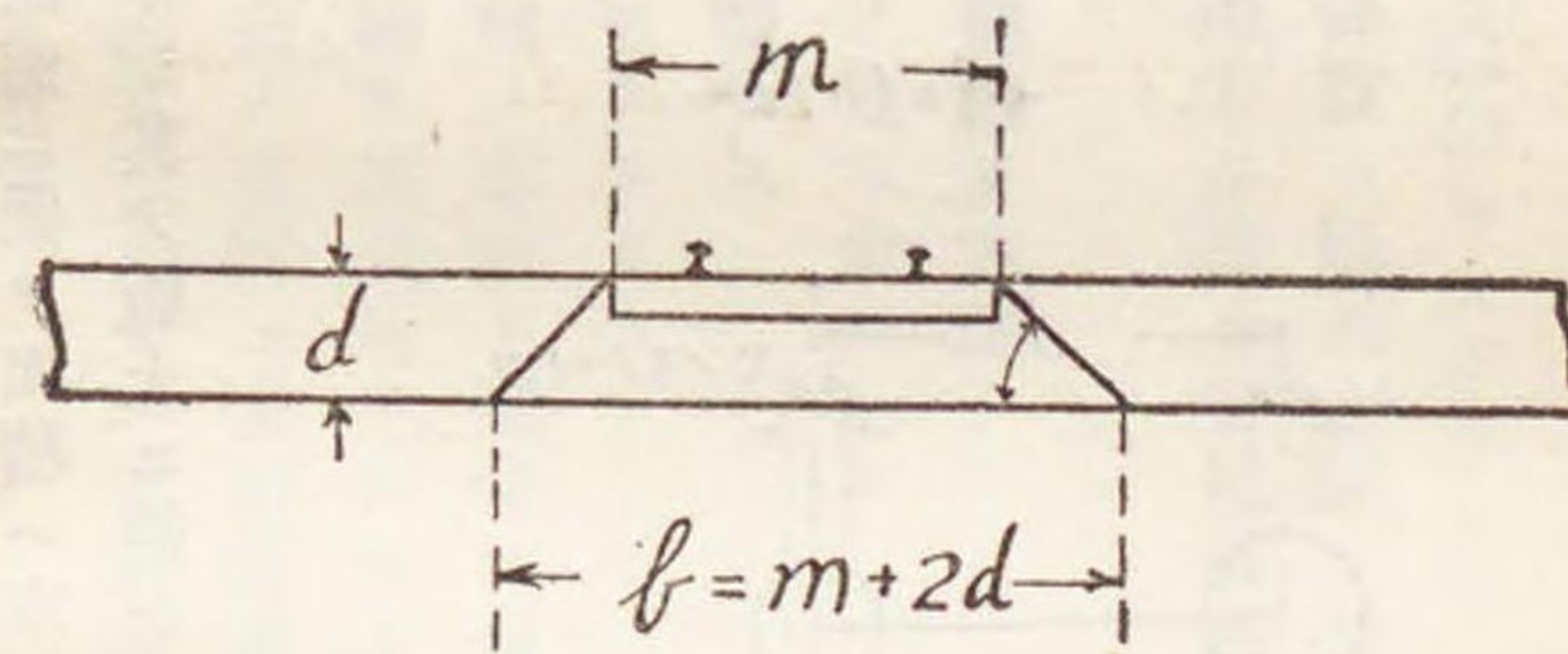
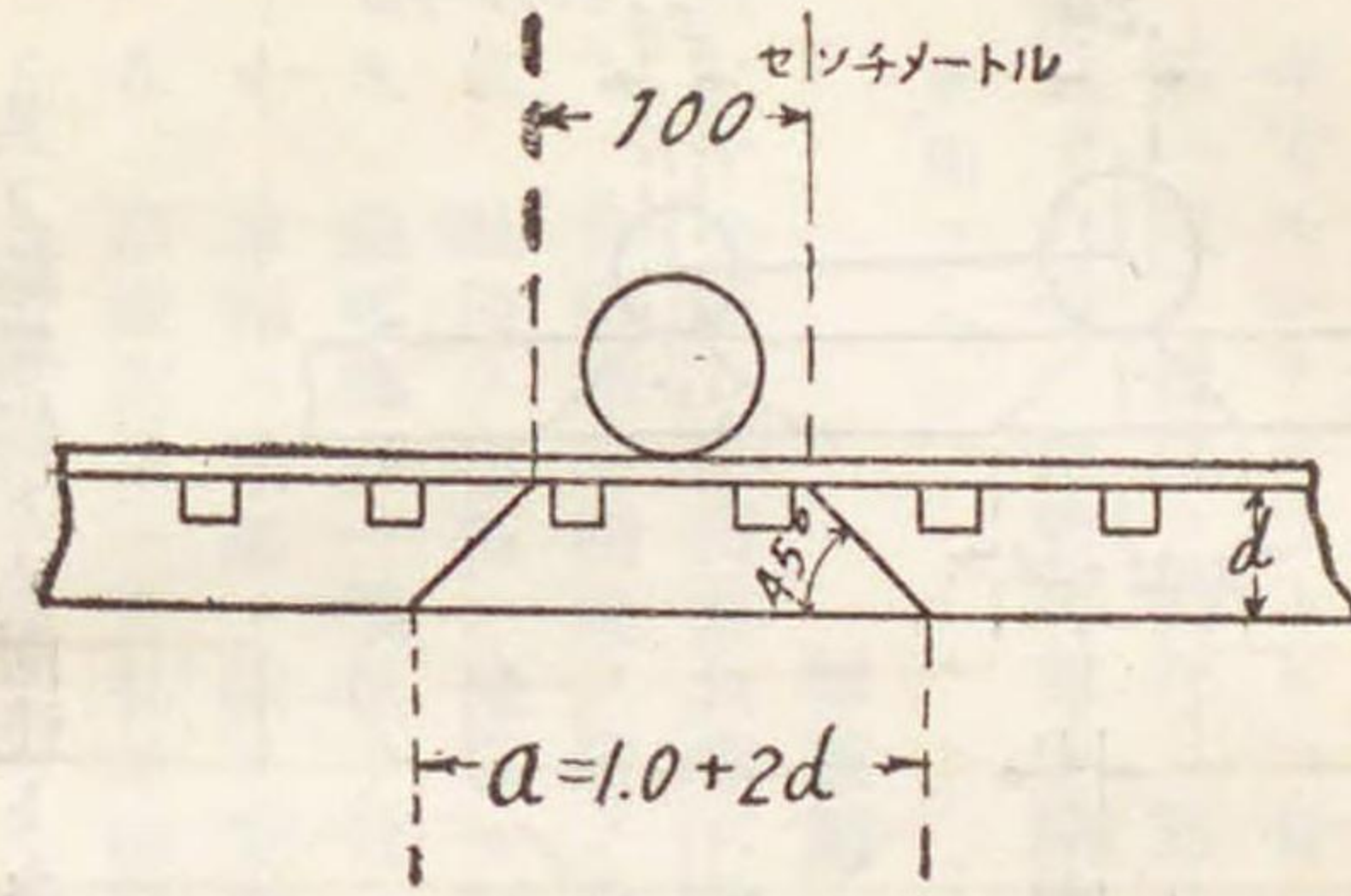
第四節 活荷重ノ分布

a 分布面ノ車輛進行ノ方向ニ於ケル長(メートル)



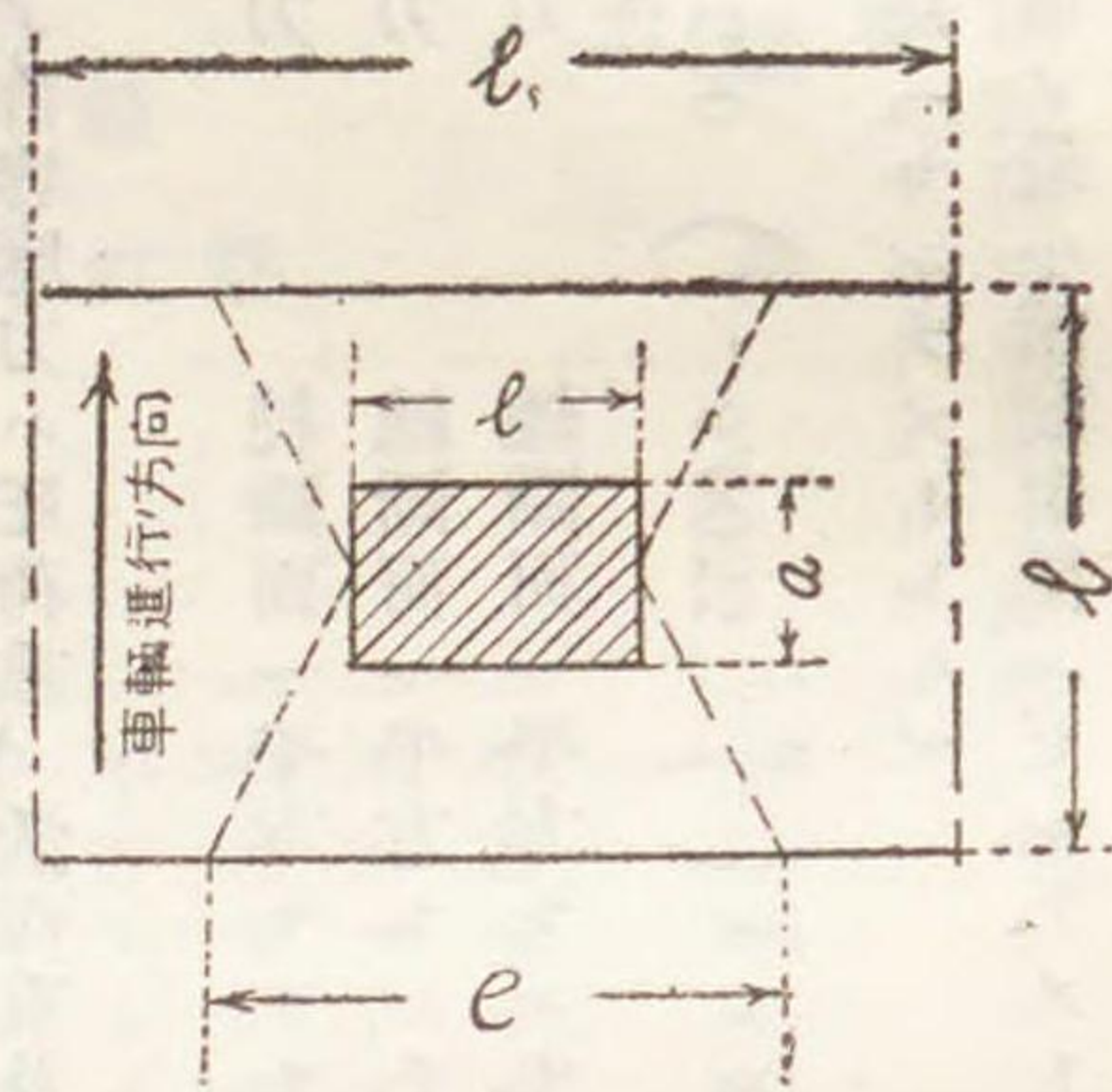
3. 輪荷重ノ分布面ノ直上ニ存在スル群衆荷重ハ輪荷重ノ分布面上ニ等布スルモノトス

2. 軌道ニ於ケル車輛ノ輪荷重カ路面ニ働ク面積ハ車輛ノ進行方向ニ於ケル長一〇〇センチメートルト枕木ノ長トチ兩邊トセル矩形トシ其ノ版上ニ於ケル分布ハ左ノ圖ニ依ル



l_1 分布面ノ車輛進行ノ方向ニ於ケル長 (メートル)
 l 分布面ノ車輛進行ト直角ノ方向ニ於ケル長 (メートル)
 a 版ノ有効幅 (メートル)
 b 版ノ徑間 (メートル)
 e 版ノ幅 (メートル)

2. 横桁ヲ有スル版



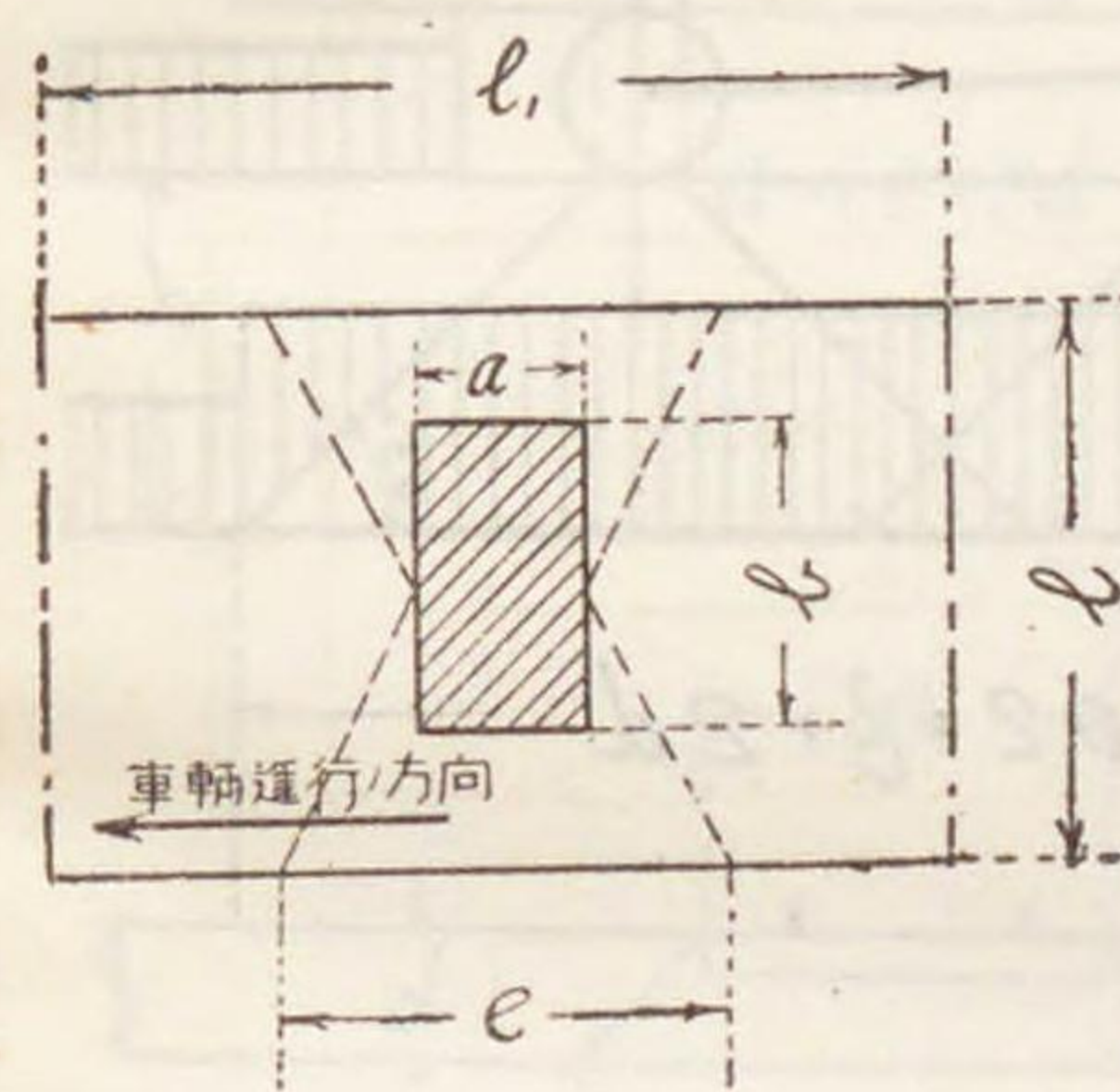
$$e = \frac{2l}{3} + a$$

$$\geq 2$$

$$\geq l_1$$

在リテハカニメートルヲ超過スル場合ヲ除クノ外左ノ各式ニ依リ之ヲ算出スヘシ

1. 縦桁ヲ有スル版



$$e = \frac{2l}{3} + a$$

$$\geq 2$$

$$\geq l_1$$

第二十九條 自動車荷重及軋壓機荷重ヲ負載スル鐵筋混凝土版ノ有効幅ハ第一號ニ在リテハ a 第二號ニ

s 分布面ノ車輛進行ト直角ノ方向ニ於ケル長 (メートル)
 t 上置層ノ厚 (メートル)
 m 枕木ノ長 (メートル)
 d 輪帶幅 (メートル)
 b 軸矩 (メートル)

第三十條 短徑間₁ト長徑間₂トナ兩邊トスル矩形版カ網狀鐵筋又ハ縱橫ノ鐵筋ナ有シ其ノ四邊ニ於テ
支承サル、場合ニ在リテハ左ノ定ニ依リ其ノ荷重ヲ兩徑間ニ分配スヘシ

1. 長徑間カ短徑間ノ二倍ヲ超過セサルトキハ荷重カ短徑間ニ働ク割合ハ $(\frac{1}{2} - \frac{1}{2})$ ニシテ長徑間
ニ働ク割合ハ $(\frac{1}{2} - 0.2)$ ト假定スヘシ

2. 長徑間カ短徑間ノ二倍ヲ超過スルトキハ全荷重力短徑間ノミニ働クモノト假定スヘシ

第五節 部材ノ應力及寸法

第三十一條 鋼材ノ許容應力ハ死荷重、活荷重及衝擊ノ作用スル場合ニ在リテハ左ニ規定スル限度ヲ超
過スルヲ得ス

應 張 力 純斷面一平方センチメートルニ付 一一〇〇キログラム
應 壓 力 總斷面一平方センチメートルニ付 一一〇〇キログラム
抗壓材ノ應壓力 總斷面一平方センチメートルニ付

$1530 (1 - 0.0055 \frac{l}{r})$ キログラム \cong 1000 キログラム

l 部材ノ長(センチメートル)

r 使用斷面ノ最小環動半徑(センチメートル)

彎 曲 應 力

桁ノ抗張纖維 純斷面一平方センチメートルニ付 一一〇〇キログラム

桁ノ抗壓纖維 總斷面一平方センチメートルニ付

$1200 (1 - 0.012 \frac{l}{b})$ キログラム \cong 1100 キログラム

l 突縁ノ隣接固定點間ノ距離(センチメートル)

b 突縁ノ幅(センチメートル)

應 剪 力 一平方センチメートルニ付 一八〇〇キログラム

鈹 一平方センチメートルニ付 九〇〇キログラム

鈹 一平方センチメートルニ付 九〇〇キログラム

鐵 筋 一平方センチメートルニ付 九〇キログラム

鐵 筋 一平方センチメートルニ付 八五〇キログラム

鐵 筋 一平方センチメートルニ付 七五〇キログラム

支 應 力

鈹 一平方センチメートルニ付 一八〇〇キログラム

鈹 一平方センチメートルニ付 一七〇〇キログラム

鐵 筋 一平方センチメートルニ付 一五〇〇キログラム

鐵 筋 長一センチメートルニ付 450 キログラム

手打綴釘及削成締釘

手打綴釘

機械打綴釘

手打綴釘及削成締釘

手打綴釘

手打綴釘

手打綴釘

手打綴釘

手打綴釘

d 輾子ノ直徑 (センチメートル)
現場綴釘ノ許容應力ニ對シテハ前項ニ規定スル限度チ一割低減スルコトヲ得
第三十二條 調合「 $\frac{1}{3}$ 」ノ混凝土ノ許容應力ハ死荷重、活荷重及衝擊ノ作用スル場合ニ在リテハ左ニ規定スル限度チ超過スルヲ得ス

直 壓 應 力

一平方センチメートルニ付 三五キログラム
一平方センチメートルニ付 四五キログラム

彎曲ニ因ル應壓力

一平方センチメートルニ付

彎曲ト直壓力トノ合成ニ因ル應壓力

一平方センチメートルニ付

拱 壓 材

一平方センチメートルニ付

壓 穿 應 剪 力

一平方センチメートルニ付

應 剪 力

一平方センチメートルニ付

支 應 力

一平方センチメートルニ付

附 着 力

一平方センチメートルニ付

混凝土ノ調合割合ハ容積ニ依リ「セメント」ハ一五〇〇キログラムヲ以テ一立方メートルトス

第三十三條 鋼橋ニ於ケル抗壓材ノ長ハ其ノ斷面ノ最小環動半徑ノ一二〇倍以下ト爲スヘシ但シ對風綾桁ニ於ケル抗壓突縁ノ隣接固定點間ノ距離ハ突縁ノ幅ノ四〇倍以下ト爲スヘシ

釘結セル抗張材ノ長ハ其ノ斷面ノ最小環動半徑ノ二〇〇倍以下ト爲スヘシ

第三十四條 鐵筋混凝土抗壓材ノ長ハ其ノ斷面ノ最小環動半徑ノ五〇倍以下トナスヘシ

第三十五條 應張力ト應壓力トノ交番スル部材ニ在リテハ各應力ニ依リ算出シタル斷面積ノ大ナルモノヲ使用スヘシ

交番應力カ車輛ノ通過ニ際シ連續シテ生スルトキハ各應力ニ其ノ小ナル應力ノ $\frac{50}{100}$ チ加算スヘシ

死荷重及活荷重ヨリ生スル應力ノ性質カ互ニ相反スル場合ニ在リテハ死荷重ヨリ生スル應力ノ $\frac{2}{3}$ チ有效トシテ合成應力ヲ算出スヘシ但第二項ニ規定スル交番應力ヲ受クル部材ニハ之ヲ適用セス

第三十六條 直應力及彎曲應力ヲ受クル部材ノ合成纖維應力ハ第三十一條及第三十二條ニ規定スル許容應力チ超過スルコトヲ得ス

分格點ニ於テ連續スル部材ニ在リテハ單桁トシテ算出シタル彎曲應力ノ $\frac{3}{4}$ チ直應力ニ加算スヘシ

第三十七條 死荷重、活荷重及衝擊ト風荷重又ハ制動荷重若ハ溫度ノ變化カ同時ニ作用スル場合ニ在リテハ第三十一條及第三十二條ニ規定スル許容應力ノ限度チ各 $\frac{25}{100}$ 迄増加スルコトヲ得但シ使用部材ノ斷面積ハ死荷重活荷重及衝擊ノミニ對シ第三十一條及第三十二條ノ規定ニ依リ算出シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ス

第三十八條 橋梁ノ各部カ死荷重及地震荷重ニ依リ生スル應力ヲ受クル場合ニ在リテハ第三十一條及第三十二條ニ規定スル許容應力ノ限度チ各 $\frac{60}{100}$ 迄増加スルコトヲ得

使用部材ノ斷面積ニ關シテハ前條但書ノ規定ヲ適用ス

第三章 雜 則

第三十九條 本則ニ規定セサルモノニ關シテハ別ニ之ヲ定ム
第四十條 特別ノ事由アルモノニ限り前各條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

◎街路構造令(大正八年十二月六日
內務省令第二五號)

第一條 本令ニ於テ街路ト稱スルハ地方長官ノ指定スル市内及市ニ準スヘキ地域内ニ於ケル道路ヲ謂フ
第二條 本令ニ於テ廣路ト稱スルハ二十四間以上、一等大路ト稱スルハ十二間以上、二等大路ト稱スルハ六間以上、一等小路ト稱スルハ四間以上、二等小路ト稱スルハ一間半以上ノ幅員ヲ有スル街路ヲ謂フ

第三條 街路ハ車道及歩道ニ區別スヘシ但シ一等小路及二等小路ニ在リテハ之ヲ區別セサルコトヲ得
街路ノ狀況ニ依リ遊歩道ヲ設ケタルトキハ之ヲ歩道ニ兼用スルコトヲ得

廣路ニハ必要アルトキハ高速車道又ハ自轉車道ヲ設ケヘシ一等大路ニ付亦同シ

第四條 街路ノ各側歩道ノ幅員ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外其ノ街路ノ幅員ノ六分一ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 車道ノ勾配ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外三十分一ヨリ急ナルコトヲ得ス

第六條 街路ノ屈曲部ニ曲線ヲ設ケルトキハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外其ノ中心線ノ半徑ハ五十間以上ト爲スヘシ

第七條 主要ナル街路ノ路面ハ第三條ニ規定スル區別ニ從ヒ適當ナル材料ヲ以テ之ヲ鋪裝スヘシ

第八條 道路ハ鋪裝ノ種類ニ應シ路面ノ排水ニ支障ナキ限度ニ於テ緩ナル横斷勾配ヲ附スヘシ
側歩道ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外車道ニ向ヒ相當ノ横斷勾配ヲ附スヘシ

第九條 歩道ハ車道ヨリ相當之ヲ高クシ車道側ノ境界ニハ縁石ヲ設ケヘシ
車道ノ兩側ニハ街渠ヲ設ケヘシ

特殊ノ箇所ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十條 街路ノ交會、屈曲其ノ他ノ箇所ニシテ交通上必要アル場合ニ於テハ廣場ヲ設ケヘシ

第十一條 交通上必要アル箇所ノ街角ハ相當之ヲ剪除スヘシ

街角ニ於ケル歩道ノ外側ニハ相當ノ曲線ヲ設ケヘシ

十字街、丁字街其ノ他ノ箇所ニシテ交通上必要アル場合ニ於テハ安全地帯又ハ連絡地下道ヲ設ケヘシ

第十二條 橋詰ニ於ケル街路ノ幅員ハ必要ニ應シ相當之ヲ擴大スヘシ

第十三條 遊歩道ニハ竝木ヲ植栽スヘシ交通上支障ナキ場合ニ於テハ歩道ニ付亦同シ

街路ノ狀況ニ依リ遊歩道及歩道ノ鋪裝ノ一部ヲ縮小シ之ヲ植樹帶、樹苑、花苑又ハ芝生ト爲スコトヲ得
廣場ニ付亦同シ

廣路及一等大路ニハ必要アルトキハ植樹帶ヲ設ケヘシ

第十四條 隧道ノ有效幅員ハ六間以上ト爲スヘシ但シ接續街路ノ幅員迄之ヲ縮小スルコトヲ得

第十五條 橋梁ノ有效幅員ハ橋長三十間以上ト爲スヘシ在リテハ二等大路以上ハ街路ノ幅員ノ三分二以上
一等小路ハ四間以上ト爲シ其ノ他ノモノニ在リテハ街路ノ幅員ト同一ト爲スヘシ

第十六條 主要ナル橋梁ハ不燃質耐久材料ヲ以テ之ヲ築造スヘシ

第十七條 橋梁ハ左ニ掲ケルモノノ通過ニ耐フル構造ト爲スヘシ

橋面一平方尺ニ付十五貫ニ相當スル群衆但シ徑間ニ應シ相當輕減スルコトヲ得
三千貫ノ車輛、十五米噸輾壓機

第十八條 交通ノ情勢ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ得テ前各條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附 則

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎道路維持修繕令(大正十年五月二十八日)改(大正十一年四月二十七日)内務省令第一五號正(内務省令第一〇號)

第一條 實用路面ノ維持、修繕ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外當初ノ築造方法ニ應シ適當ニ之ヲ執行スヘシ

塵埃、泥土、土芝等ハ路面ノ維持修繕ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

實用路面ノ築造ニ適合セサル栗石、荒砂利等ハ之ヲ車轍又ハ輪窪ニ填充スルコトヲ得ス

第二條 實用路面ハ其ノ種類ニ應シ適當ナル横斷形狀ヲ保持セシムヘシ

第三條 路肩ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外實用路面ノ横斷勾配ニ準シ之ヲ整理シ路面ノ排水ニ支障ナカラシムヘシ

第四條 必要アル箇所ニハ撒水、注油其ノ他適當ナル處理ヲ爲スヘシ

第五條 路面ハ常ニ之ヲ掃除シ其ノ鋪裝シタル箇所ハ必要ニ應シ之ヲ洗滌スヘシ

側溝其ノ他直接道路ノ排水ニ必要ナル施設ハ常ニ注意シテ水行上支障ナカラシムヘシ道路ノ防水ニ必要ナル遮溝等ニ付亦同シ

第六條 實用路面ノ積雪及結氷ハ遲滯ナク之ヲ除却スヘシ但シ雪上ノ交通ヲ便トスル箇所又ハ交通稀ナル箇所ニアリテハ此ノ限ニ在ラス

結氷ヲ除却スルコト能ハサル場合ニ於テハ路面ノ危滑防止上適當ナル處理ヲ爲スヘシ

第七條 橋梁ノ各部分ハ常ニ其ノ狀態ニ注意シ所定ノ耐力ヲ保持セシムヘシ

塗料ヲ施シタル橋梁ハ相當期間毎ニ之ヲ塗換ヘ其ノ保存ニ注意スヘシ

第八條 駒寄、雪除工等ハ特ニ其ノ保守ニ注意シ異狀アルトキハ直ニ應急ノ處理ヲ爲スヘシ

第九條 道路元標、里程標及道路標識ハ常ニ其ノ保守ニ注意シ必要ニ應シ修繕ヲ爲スヘシ特ニ徐行標、

危険標等ノ記號又ハ文字ハ常ニ之ヲ明瞭ナラシムヘシ

第十條 左ニ掲ケル事項ハ毎年二回以上之ヲ執行スヘシ

一 法面ニ生スル障植物ノ除却其ノ他法面ノ掃除

二 石垣其ノ他ノ壁面ニ生スル障植物ノ除却

三 橋梁溝橋ノ水行ニ關スル障植物ノ除却

第十一條 出水ノ場合ニ於テハ河川其ノ他水流、水面ノ漂流物ニ注意シ橋梁、溝橋ノ危害豫防上必要ナル處理ヲ爲スヘシ

第十二條 竝木及道路ニ必要ナル樹木ハ之ヲ保護シ必要ニ應シ手入ヲ爲スヘシ街路ニ存スル花苑及芝生ニ付亦同シ

竝木ニ缺位チ生シタルトキハ之ヲ補植スヘシ

第十三條 左ニ掲クル場合ヲ除クノ外竝木及道路ニ必要ナル樹木ヲ伐採スルコトヲ得ス

一 枯損ニ係ルトキ

二 障礙ニ係ルトキ

三 非常災害又ハ危害防止ノ爲緊急ノ必要アルトキ

前項各號ノ場合ニ於テ竝木及道路ニ必要ナル樹木ヲ伐採シタルトキハ其ノ位置、種類、員數、價格竝伐採ノ事由ヲ具シ六ヶ月毎ニ之ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

障害除却ノ爲必要アルトキハ竝木及道路ニ必要ナル樹木ノ枝打ヲ爲スコトヲ得

第十四條 道路ノ維持及修繕ノ爲道路工夫ヲ常置シ其ノ受持區域ヲ定メ服務セシムヘシ

第十五條 道路修理用材料常置場ヲ設ケ必要ナル材料ヲ保護スヘシ

第十六條 町村道ニ付テハ前二條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十七條 街路ノ清潔ヲ保持スル爲必要ナル掃除夫ヲ常置スヘシ

第十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎道路維持修繕令中改正ニ關スル件(大正十一年六月五日發第九八號道廳長官各府縣知事宛土木局長通牒)

本年四月二十七日當省令第十號ヲ以テ道路維持修繕令第十三條第一項第三號改正ノ件公布相成候處右ハ從來ニ於テハ單ニ非常災害防止ノ爲必要アルトキニ限り監督官廳ノ認可ヲ受ケスシテ竝木ヲ伐採スルコトヲ得シメタルモ危害防止ノ爲緊要ノ必要アルトキモ亦之ト同様ノ取扱ヲ爲ス必要アルカ爲今回ノ改正ヲ見タル次第ニ候條之カ適用ニ際シテハ其ノ邊充分御考慮ノ上御措置相成様致度
追テ本文ノ趣旨管下道路管理者へ御通知相成度

◎竝木伐採ノ件(大正十一年十月三日發甲第四三號道廳長官各府縣知事宛(秋田縣ヲ除ク)土木局長通牒)

標記ノ件ニ關スル別紙乙號秋田縣知事ノ報告ニ對シ甲號ノ通牒候ニ付御了知相成度爲念

甲號 土木局長通牒(大正十一年十月三日 乙 第二八號)

九月二十二日秋收土第五九三七號ヲ以テ標記ノ件御報告ノ處道路維持修繕令第十三條第一項第三號ノ規定ハ竝木ノ存在スル爲非常災害ノ範圍ヲ擴大シ又ハ危害ノ原因トナリ之ヲ急速ニ伐採除却スルニ非サレハ災害若ハ危害ヲ防止スルコトヲ得サル場合ニノミ適用スヘキモノニシテ本件報告ノ如キ場合ハ不可然義ニ付將來御留意相成度

本年八月二十九日以來ノ降雨ニテ管下仙北郡玉川増水ノ爲メ國道五號線仙北郡花館村字中野下川原原地内玉川橋第二十三號橋脚根元深堀ノ爲メ流失ノ虞アルヲ以テ九月一日應急假手當用材トシテ別紙調書ノ竝木伐採致候條大正十年五月二十八日内務省令第十五號道路維持修繕令第十三條第二項ニ依リ圖面添附此段報告候也

乙號 秋田縣知事報告(大正十一年九月二十二日) 秋收土第五九三七號

◎道路工事執行令(大正九年十一月八日) 内務省令第三六號

- 第一條 道路工事執行ノ方法ハ直營及請負トス
- 第二條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ直營ト爲スヘシ
 - 一 請負ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ
 - 二 急施ヲ要シ請負ニ付スルノ暇ナキトキ
 - 三 請負契約ヲ締結スルコト能ハサルトキ
 - 四 特ニ直營ト爲スノ必要アリト認ムルトキ
- 第三條 請負ニ付セムトスルトキハ一般競争入札ニ付スヘシ
- 第四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ三名以上ヲ指名シ競争入札ニ付スルコトヲ得
 - 一 一般競争入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ
 - 二 急施ヲ要シ一般競争入札ニ付スルノ暇ナキトキ
 - 三 一般競争入札ニ付スルモ入札人ナキトキ又ハ落札人ナキトキ
 - 四 特ニ指名競争入札ニ付スルノ必要アリト認ムルトキ
- 第五條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
 - 一 競争入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ
 - 二 急施ヲ要シ競争入札ニ付スルノ暇ナキトキ
 - 三 競争入札ニ付スルモ入札人ナキトキ又ハ落札人ナキトキ
 - 四 豫定價格カ國道、府縣道、地方費道又ハ道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ市道ニ在リテハ千圓未滿(郡道)、準地方費道、道路法第十七條但書ノ規定ニ依ラサル市ノ市道又ハ區道ニ在リテハ千圓未滿町村道ニ在リテハ五百圓未滿ナルトキ
 - 五 競争入札ニ付スルコト能ハサルトキ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ入札人若ハ請負人又ハ其ノ代理人トナルコトヲ得ス

- 一 無能力者
- 二 破産若ハ家資分産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨濟ヲ了ヘサル者
- 三 六年ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者
- 四 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
- 五 責付又ハ保釋中ノ者

六 入札又ハ請負ニ關シ不正ノ行爲アリタル後二年ヲ經過セサル者

道路管理者ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外市區町村ト請負契約ヲ締結スルコトヲ得ス

第七條 一般競争入札ハ入札期日ヨリ五日前入札ニ必要ナル事項ヲ公告スヘシ

第八條 入札人ハ左ニ掲クル要件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ道路管理者ニ於テ相當ト認ムル學識經驗ヲ有スル技術者ヲシテ工事ヲ擔當セシムルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一 引續キ二年以上土木請負業ニ従事スルコト

二 其ノ他地方長官ノ定ムル要件

第九條 入札ヲ爲サムトスル者ハ入札金額ノ百分三以上ノ入札保證金ヲ納付スヘシ但シ指名競争入札又ハ豫定價格二千圓未滿ノ工事ニ付テハ之ヲ減免スルコトヲ得

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル入札ハ之ヲ無効トス

一 本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ道路管理者ノ定ムル入札條件ニ違反シタルトキ

二 入札人又ハ其ノ代理人二以上ノ入札ヲ爲シタルトキ

三 入札人協定シテ入札ヲ爲シタルトキ

四 入札ニ際シ不正ノ行爲アリタルトキ

第十一條 入札人中豫定價格以内ニシテ豫定價格ノ三分二ヲ下ラサル最低價格ノ入札ヲ爲シタル者ヲ以テ落札人トス但シ設計附入札ニ在リテハ設計及入札金額ニ依リ落札人ヲ定ム

同一ノ入札アリタルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム

落札人ナキトキハ直ニ再入札ニ付スルコトヲ得

第十二條 落札人ハ落札ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ道路管理者ト請負契約ヲ締結シ契約書ヲ作成スヘシ

落札人前項ノ期間內ニ請負契約ヲ締結セサルトキハ落札ハ其ノ效力ヲ失フ

第十三條 請負人ハ請負金額ノ百分十以上ノ契約保證金ヲ納付スヘシ但シ指名競争入札又ハ隨意契約ノ方法ニ依リ請負契約ヲ締結スル場合ニ在リテハ之ヲ減免スルコトヲ得

第十四條 入札保證金及契約保證金ハ國債證券、地方債證券、勸業債券、農工債券、拓殖債券、興業債券其ノ他道路管理者ニ於テ適當ト認ムル有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ國債證券ハ其ノ額面金額ニ依リ其ノ他ハ該地方ニ於ケル前月市場價格ノ十分八ヲ以テ之ヲ換算ス

第十五條 入札保證金ハ入札終了後之ヲ還付ス但シ落札人ニ對シテハ契約保證金納付ノ際之ヲ還付ス契約保證金ハ工事完成後之ヲ還付ス但シ契約ニ依リ擔保義務終了迄其ノ全部又ハ一部ヲ留保スルコトヲ得

第十六條 請負人ハ道路管理者ノ承諾ヲ得シテ工事ノ執行ヲ他人ニ委託スルコトヲ得ス

第十七條 請負人ハ工事ノ執行ニ付道路管理者ノ指揮監督ニ從フヘシ

第十八條 請負人ハ工事竣功シタルトキ道路管理者ノ検査ヲ受クヘシ

第十九條 請負人天災事變其ノ他正當ノ事由ニ依リ契約期間內ニ工事ヲ竣功スルコト能ハサルトキハ道

路管理者ニ期間ノ延長ヲ求ムルコトヲ得
第二十條 契約期間内ニ工事ヲ竣功セサルトキハ遅延日數一日ニ付請負金額千分一ノ違約金ヲ徵收ス
前項ノ違約金ハ請負金額中ヨリ之ヲ控除ス
第二十一條 左ニ掲クル場合ニ於テハ道路管理者ハ契約ヲ解除スルコトヲ得
一 契約期間内ニ工事竣功ノ見込ナキトキ
二 工事ノ執行ニ付不正ノ行爲アリタルトキ
三 正當ノ事由ナクシテ管理者ノ指揮監督ニ從ハサルトキ
四 本令ニ基キテ發スル命令又ハ契約ニ違反シタルトキ

第二十二條 前條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ工事ノ既成部分ニ對シ道路管理者ニ於テ相當ト認ムル金額ヲ交付ス契約無効ノ場合亦同シ
第二十三條 入札ニ付不正ノ行爲アリタルトキ又ハ第十二條第二項ノ規定ニ依リ落札其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ入札保證金ヲ沒收ス

第二十一條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ヲ沒收ス請負人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リ契約無効トナリタル場合亦同シ
前二項ノ規定ニ依リ沒收シタル保證金ハ道路管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

第二十四條 道路管理者ハ請負人ニ對シ工事ノ出來形ニ相當スル金額ノ十分八以内ノ假拂ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 本令ニ規定セサル事項ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第二十六條 道路法第十八條第二項ノ規定ニ依ル管理者竝道路管理者ニ非サル者ニ於テ工事ヲ執行スル場合及北海道拓殖費ヲ以テ工事ヲ執行スル場合ハ本令ヲ適用セス

第二十七條 本令ハ工事ニ要スル物件ノ購入、借入又ハ勞力供給ノ場合ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎道路工事執行令中疑義ニ關スル件(大正十一年十一月二十九日乙第八八號)
靜岡縣知事宛 土木局長回答

九月二十七日土第四八七三號照會標記ノ件右ハ前段御意見ノ通入札人協定セル場合ハ本令ノ所謂不正ノ行爲中ニ之ヲ包含セサル義ト御承知相成度

靜岡縣知事照會(大正十一年九月二十七日)
土 第 四 八 七 三 號

道路工事執行令第六條ニ依リ入札又ハ請負ニ關シ不正ノ行爲アリタル後二年ヲ經過セサル者ハ入札人タルコトヲ得ス而シテ同第十條ニ於テハ入札ニ際シ不正ノ行爲アリタルトキハ其ノ入札ヲ無効トシ又第二十三條ニ於テハ入札ニ付不正ノ行爲アリタルトキハ入札保證金ヲ沒收スト規定セラレ其ノ用語ハ入札ニ付又ハ入札ニ際シ第三者一定セサルモ要スルニ右ハ同一ノ意義ニシテ入札人協定シテ入札シタル場合第十條第三號前段ノ規定アルニ徴シ本令ノ所謂不正ノ行爲中ニ之ヲ包含セサル趣旨トモ被存候然レトモ通常

入札ニ付不正ノ行爲トハ共謀結託等ノ協定入札ヲモ指稱シ又實際上是等ノ行爲カ入札本來ノ精神ヲ没却スルモノナルコトハ論ヲ俟タサル所ナルヲ以テ本令第六條及第十條ノ所謂不正ノ行爲中ニハ協定入札モ亦包含スル趣旨ト解シ取扱可然ヤ解釋上聊カ疑義ニ涉リ候條何分ノ義御指示相煩度

◎道路工事執行令第八條ニ關スル件(大正十年三月三日乙第一號)
(三重縣知事宛土木局長回答)

二月一日土第五三七號ヲ以テ標記ノ件照會ノ所當該法條所謂引續二年以上土木請負業ニ從事シタルヤ否ヤハ事實ノ認定ニシテ現實ニ二年以上其ノ業ニ從事シタルコトヲ以テ足ルヘク營業稅ノ納付又ハ商業登記等ノ如キ形式的要件ハ間接ノ證據資料ニ過キサル義ニ有之候

三重縣知事伺(大正十年二月一日)
(土 第五三七號)

內務省令第三十六號道路工事執行令第八條第一號ノ要件ヲ認知スルニハ結局町村長又ハ官公署ノ證明ニ依ルノ外無之モ之カ證明ハ土木請負業トシテ引續二年以上營業稅ヲ納付シ居ルモノヲ標準トナルヘキモノナルヤ或ハ營業稅納付ノ有無ニ拘ラス單ニ引續二年以上土木請負業ヲナシ居ルモノナラハ差支ナキヤ疑義ヲ生シ候條至急御意見御回示相煩度及照會候也

◎道路管理職員制(大正九年八月十一日)改(大正十二年六月二十二日勅令第三一八號)
(日勅令第二四五號)正(十三年十一月二十五日勅令第二八七號)

第一條 道路管理ノ爲道廳又ハ府縣ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員

道路主事

專任六十人以内

奏任官待遇

道路書記

專任千人以内

判任官待遇

技術職員

道路技師

專任百六十人以内

奏任官待遇

道路技手

專任三千四百人以内

判任官待遇

前項職員ノ道廳及各府縣内ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム
地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受ケル第一項ノ職員ニシテ他ノ官職ニ在ル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又ハ技術ノ職員ノ定員ノ内トシ其ノ他ハ職員ノ定員ノ外トス

第二條 道路主事及道路書記ハ道路ニ關スル事務ニ從事ス

道路技師及道路技手ハ道路ニ關スル技術ニ從事ス

第三條 道路管理者タル市町村長ハ道路管理ノ爲左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員

道路主事

道路書記

技術職員

道路技師
道路技手

第二條ノ規定ハ前項ノ職員ニ之ヲ準用ス

道路管理者タル市町村長ハ市町村ノ吏員ヲシテ道路管理ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムルコトヲ得

第四條 道路法第十七條但書ノ規定ニ依リ指定スル市ノ市長ハ道路管理ノ爲市ニ道路局又ハ道路部ヲ設クルノ必要アリト認ムルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ前條ノ職員ノ外道路局長又ハ道路部長ヲ置クコトヲ得

第五條 市町村ニ於テ道路ノ管理ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員ノ俸給及旅費ニ關スル規定ハ道路管理者之ヲ定ム

附 則

(本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス)十三年勅令第二八七號附則同上

◎道路法第三十三條第三項ノ規定ニ依ル道路ニ關スル

費用負擔ノ件(大正十一年八月十八日勅令第三八六號)

第一條 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ヲ除クノ外國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ノ一部ヲ道路法第三十三條第三項ノ規定ニ依リ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體

ヲシテ負擔セシムルトキハ内務大臣ハ豫算額ニ依リ其ノ負擔基本額及負擔額ヲ定メ當該公共團體ニ通知スヘシ

第二條 前條ノ負擔基本額ハ國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ヨリ道路法第四十三條ノ規定ニ依リ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入ニ歸スル負擔金ヲ控除シタル額トス但シ道路會議ノ諮問ヲ經テ道路法第三十九條ノ規定ニ依ル負擔額及第四十一條ノ規定ニ依ル道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ノ負擔額ニ限リ控除セサルコトヲ得

第三條 第一條ノ負擔額ハ負擔基本額ノ二分ノ一ニ前條ノ規定ニ依ル控除金額ヲ加算シタルモノトス但シ特ニ必要ト認ムル場合ニ限リ道路會議ノ諮問ヲ經テ其ノ率ヲ減スルコトヲ得

第四條 負擔基本額又ハ第二條ノ規定ニ依ル控除金額ヲ決算ノ結果増減シタルトキハ第一條ノ負擔額ヲ増減ス

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎道路ニ關スル訴訟費用ノ件(大正十二年五月二十九日甲第四九號各地方長官宛土木局長通牒)

標記ノ件ニ關シ別紙甲號東京府知事ノ伺ニ對シ乙號ノ通回答致候條御了知相成度
(別紙)(乙號)

訴訟費用ニ關スル件回答(大正十二年五月二十
四日東土第二八二號)

二月十五日亥土發第七一號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件右ハ道路ニ關スル費用トシテ管理者タル行政廳
ノ統轄スル公共團體ノ負擔スヘキ筋合ノモノニ有之候

(甲號)

訴訟費用支出ニ關スル疑義ノ件(大正十二年二月十五
日亥土發第七一號)

易下當廳ニ於テ施行中ニ係ル國道一號路線道路改修工事用地所有者中當廳ノ買收協議ニ應セサルモノア
リタルヲ以テ客年十二月土地收用審査會ノ裁決ヲ求メタル處該土地所有者ハ審査會ノ裁決ニ係ル土地收
用補償金額ヲ失當ナリトシ東京府及東京府知事ヲ被告トシ東京地方裁判所ニ補償金額ノ民事訴訟ヲ提起
シタルヲ以テ之ニ應訴スル爲訴訟代理ヲ辯護士ニ委任セリ然ルニ之ニ要スル報酬及其ノ他ノ訴訟費用ノ
支出ニ關シ(一)本件ハ道路改築起業者タル道路管理者ニ對スル費用即チ道路法ニ所謂道
道ニ關スル費用ニ外ナラサルヲ以テ本件費用ハ之ヲ管理者タル行政廳ノ統轄スル府ニ於テ負擔スヘシト
爲スモノト(二)此ノ如キ訴訟費用ハ國ノ機關タル知事ノ職務執行ノ爲ニ要スル費用ニシテ道路法ニ所
謂道路ニ關スル費用ニ包含セサルヲ以テ之ヲ國費ヨリ支辨スルヲ相當ト爲スモノト(三)訴訟被告カ知
事及府ヲ相手方トスルヲ以テ國費及府費ニ於テ平等ニ分擔スヘキモノナリト爲スモノアリ聊カ疑義相生
シ候ニ付至急何分御回示相煩度

◎道路費國庫補助規程

(大正十年一月二十九日改(大正十五年八月四日)
日內務省令第一號)正(內務省令第三八號)

第一條 道路法第三十五條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ當該年度豫算內ニ於テ本令ニ依リ之ヲ行フ
第二條 國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ノ國庫補助ハ二分一トス但シ特ニ必要ト認ムル場合ニ限り補
助ノ率ヲ高ムルコトヲ得

第三條 府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ノ國庫補助ハ三分一トス但シ特ニ必要ト認ムル
場合ニ限り補助ノ率ヲ高ムルコトヲ得

第四條 國庫補助ノ算定ニ付テハ道路法第三十九條ノ規定ニ依ル負擔額及第四十一條ノ規定ニ依ル道路
ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ノ負擔額ヲ補助基本額ニ加算シテ補助金ヲ定ムルコトヲ得

第五條 補助金ハ支出額ニ應シ之ヲ交付ス
第六條 補助基本額決算ノ結果減少シタルトキハ國庫補助ヲ減額ス

決算ノ際換價シ得ヘキ物件殘存スルトキハ其ノ用途ニ付內務大臣ノ認可ヲ得タルモノヲ除クノ外其ノ
時價ニ相當スル金額ヲ補助基本額ヨリ控除ス

第七條 國庫補助ノ條件ニ適合セサルトキハ補助ヲ取消シ又ハ停止シ交付シタル補助金ノ返還ヲ命スル
コトアルヘシ

第八條 國庫補助ノ必要アルモノニ付テハ道路管理者其ノ工事ノ計畫書、圖面及補助ヲ受クヘキ公共團
體ノ收支豫算書ヲ內務大臣ニ提出スヘシ

